

27-137子
1200501242355

27
137



始



27-137
4

調劑術講本



第八版



叙

今世紀後半期ニ於ケル百般學術ノ
進歩ハ實ニ驚クヘキ者ナリ殊ニ我
藥學ハ較近長足ノ進歩ヲ遂ケ
學識技術益々精微ノ域ニ達シ今
ヤ不良ノ藥品ハ漸ク跡ヲ市場ニ
絶タント欲ス隨テ製藥ノ術試験ノ

法愈完備シテ復ク粗惡ノ藥物
ヲ見サルニ至ルモ之ヲ調劑スル方法ニ
テ其正シキヲ尋サルトキハ將ク何益カ之
アラシ調劑ノ正確藥品ノ純良兩
者相全フシテ患者始テ回生ノ幸
福ヲ享受シ得ヘク醫術始テ其目
的ヲ完了シ尋ヘシ狀ルニ世上往々

調劑術ヲ蔑視シ只甲一ノ藥品
ヲ混スレハ調劑ノ能事畢レリト
思惟シ不齊未熟ノ手ニ一任シ其
責ヲ盡ヤリト自得スルモノアリ何ッ其
レ誤レルノ甚シキヤ頃又人小林九一君
調劑術講本一卷ヲ著シ余ニ屬スル
ニ校正ノ事ヲ以ス余之ヲ閱スルニ著

者カ鑿科一大家模範藥局ニ於ケ
ル多季年ノ經驗ヲ骨子ト為シ歐
米近著ノ粹ヲ採キ其足ラサルヲ
補ヒ寔ニ本邦固有ノ良調劑書ト
賛稱スヘシ故其藥學ノ教課書タル
又實地調劑者ノ参考書タルノ價
値ハ決シテ單一純翻譯モノ比ニ

アラス聊カ所思述テ序文ニ代フ
明治廿五年二月 丹波敬三誌



石塚房生書

初板例言

一本書ハ主トシテ藥學生徒ニ調劑術講習ノ指導ヲ與ヘ傍ラ調劑ニ從事セラル、諸彦ノ參照ニ供スルノ目的ヲ以テ匆卒ノ際編者ノ實驗ニ係ル事項ヲ綴リ附スルニ數書ヲ引用シ編纂シタル者ナレハ素ヨリ文章ノ拙劣行文ノ齟齬或ハ文字ノ魯魚等ヲ免カレズ讀者幸ニ之ヲ諒セヨ。

一本書ノ編纂ニ引用シタル參考書ハハーゲル氏調劑書、ハーゲル氏藥劑術書モール氏調劑術書、ルートルフ氏藥劑書、ワルデンブルヒ氏藥劑書、レミントン氏調劑術書第一第二第三版獨逸藥局方英米藥局方ヒルシユ氏萬國藥局方、日本藥局方勝山柴田二氏調劑要術、櫻村伊勢柴田三氏日本藥局方隨伴、藥學雜誌等ナリ。

一本書ハ單ニ總論及各論ノ二編ニ區別シ別ニ内外用劑ノ條目ヲ設ケズト雖モ合劑ヨリ錠劑ニ至ル迄ハ主トシテ内用劑ヲ論シ點眼水以下ハ外用劑ヲ述ヘタリ而ノ本文ハ五號活字ヲ以テ印刷シ處方例ノ次ニハ羅甸文ノ處方書式ヲ示シ以テ橫文處方ノ練習ニ具ヘ又溫習スヘキ處方例及參照ニ供スベキ條項ハ都テ六號活字ヲ以テ印刷セリ又地名ノ右側ニハ||線人名ノ右側ニハ|線ヲ附シ且ツ上欄ニハ獨

英佛三國ノ通名並ニ本文ノ要點ヲ摘記シテ參考ノ便ニ供セリ。
 一本書ノ附録ニハ日本藥局方第一第二第三第四表及日本藥局方外ノ藥物ニ就キ大人ニ對スル一回並ニ一日ノ極量表、ハーゲル氏年齡極量表、內務省令第五號毒藥劇藥ノ品目羅旬語畧字解、獨逸バイエルン王國制定ノ調劑藥價表藥品ノ容器ニ貼付スベキ類別藥名箋ノ難形ヲ掲ゲ讀者ノ參考ニ供セリ。

一本書ノ學術語ハ總テ前記ノ參考書ヨリ襲用セリト雖モ該書中ニ記載ナキ不穩當ノモノハ其意ヲ明瞭ナラシメシガ爲之ニ原語ヲ挿記セリ其原語ハ主トシテ羅旬語及獨逸語ヲ引用シタレトモ稀ニハ英語ヲ併記シタレ者アリ。

第二板例言

一本書發行以來日尙淺シト雖モ既ニ初板ヲ販了シ書肆頻リニ再板ノ發行ヲ促セリ故ニ本文ニ於テハ初版ノ誤謬ヲ改正シ其足ラザルヲ補ヒ且ツ圖書ヲ増シ尙ホ近來行ハル、處ノ處方例ヲ加ヘ以テ益々實地ノ演習及ビ參考ニ適セシメンコトヲ阻メタリ而シテ附録ニ於テハ著シク改正ヲ加ヘ新タニ禁忌藥、解毒藥、製劑方類及橫文處方書體例等ヲ増加シ彼ノ藥名箋難形ノ如キハ實地貼用ニ適スル者ニ改刷シ別

綴ノ附録トナセリ是ヲ以テ前板ニ比スレバ通シテ改良ヲ遂ケタル者ト信ス。

第三板例言

一本書第三板ニ於テハ本文中第二板ニ於ケル誤謬ヲ訂正シ尙圖書ヲ増シテ其足ラサルヲ補ヒ且ツ新ニ處方例ヲ増加シ又附録製劑ノ部ニ於テ著シク改正ヲ加ヘ且ツ多數ノ新方ヲ増補シ又調劑用略語解ノ部ニ新ニ獨英兩語ノ藥劑服用語ヲ附加シ以テ益々實地ノ講習并ニ其參考ニ適セシメンコトヲ企圖シタリ。

第四板例言

一本書第四板ニ於テハ本文中第三板ニ於ケル誤謬ヲ訂正シ且ツ其足ラサルヲ増補シ又附録ニ於テ新タニ製劑術ノ總論ヲ掲ケ圖書ヲ插ミテ之ヲ解説シ尙藥名ノ異字同義編(千餘語)ヲ加ヘ益々實地ノ講習并ニ其參考ニ適セシメンコトヲ企圖セリ。

第五板例言

一本書第五板ニ於テハ本文中第四板ニ於ケル誤謬ヲ訂正シ且ツ其足ラサル處ヲ圖書ヲ加ヘテ増補シ又附録藥局製劑ノ部ヘ近時繁用セラル、新製劑數方ヲ増加シ

益々實地ノ講習及其參考ニ資センコトヲ企望セリ。

第六板例言

一本書第六板ニ於テハ本文中第五板ニ於ケル字句ヲ改正増補シ行數ヲ増シ且ツ附錄藥局製劑ノ部ニ新製劑數方ヲ増加シ益々實地ノ講習及其參考ニ資センコトヲ企圖セリ

第七板例言

一本書第七板ニ於テハ本文中第六板ニ於ケル字句ヲ訂正シ且ツ附錄藥局製劑ノ部ニ於テ新製劑數方ヲ増加シ益々實地ノ講習及其參考ニ資センコトヲ企圖セリ。

第八板例言

一本書第八板ニ於テハ主トシテ改正第三日本藥局方ニ從ヒ字句ヲ訂正シ併セテ第七板ニ於ケル誤謬ヲ改訂シ且其足ラサル方例及注意法ヲ増加セリ。

明治四十年七月

編者識

目次

總論

調劑術ノ總義	一
處方箋ノ解及其書式	二
處方箋ノ書式例	三
處方箋ノ實例	四
處方箋上藥物ノ種類	五
至急ノ處方箋	五
前方投與	五
藥劑師ノ職務	七
醫師ニ復問スヘキ條件	七
投藥ノ手續	八
處方箋ノ保存法	八
調劑錄	十
劇毒藥ノ處方箋保存法	十
藥劑ノ代價	十
藥價徵收法	十一
調劑料徵收法ノ説明	十二
調劑藥價ノ計算法	十三

目次

藥品ノ重量	十四
米國重量	十四
佛國グラム量	十五
英國重量	十五
處方箋上グラム量ノ書體	十六
オンス量ト「グラム量」ノ比較	十七
本邦重量	十八
グラム量ト本邦重量トノ比較	十八
英國液量	十九
英國ノ液量ト重量トノ比較	十九
米國ノ液量	二十
米國液量ト重量トノ比較	二十
佛國ノ液量	二十一
汚量ト立方センチメートルトノ比較	二十一
本邦液量	二十二
處方箋上ノ服量	二十二
滴量	二十三
藥液ノ點滴法	二十三
調劑上常用ノ藥品「グラム」ニ對スル	二十三

滴數	二十五
重錘	二十五
重錘ノ正確ヲ知ル法	二十六
重錘ノ保存法	二十六
重錘ノ種類(大珫瑪小珫瑪)	二十六
秤量器	二十七
秤量器ノ種類	二十七
秤量器ヲ扱フ注意	二十九
秤量器ノ使用法	三十
風袋罐、風袋粒	三十一
藥局ノ構造	三十二
藥品棚ノ種別	三十二
藥品貯蓄容器ノ種別	三十四
藥名箋	三十六
調劑机	三十七
處方箋臺	三十八
書記臺	三十八
用水臺	三十九
洗盤臺	四十
貯水器ト濾水器トヲ兼ネタル洗盤	四十

液量器(メートルグラス)	四十二
液量器ノ使用法	四十三
熱湯斗	四十四
乳鉢	四十四
乳鉢ノ使用法	四十五
匙及其使用法	四十六
筥及其使用法	四十七
容器ノ種別	四十七
投藥瓶	四十八
藥瓶ノ洗滌法	四十九
藥包紙	四十九
藥袋	五十一
用法紙	五十一
用法紙ノ貼附法	五十一
覆胃	五十二
封緘	五十三
各論	
合劑	五十四
合劑ノ總義	五十四
合劑ノ調製法順序	五十五

合劑處方例	五十五
同橫文處方例	五十五
橫文處方ノ畧解	五十六
化學的變化ヲ起スベキ合劑	五十九
樹脂質ヲ含有スル酒精液ノ合劑	六十三
越幾斯類ノ合劑	六十五
豫製麻酔越幾斯	六十六
樹脂質越幾斯ノ合劑	六十八
酒精加水製越幾斯ノ合劑	六十九
○キニーネ鹽ノ合劑	六十九
○ヨードノ合劑	七十
振盪合劑	七十一
漿劑	七十四
リモナーデ	七十六
揮發性藥物ノ合劑	七十七
大結晶鹽類ノ合劑	七十八
百分ノ水中ニ溶解スル鹽類ノ表	七十八
鹽類ノ豫製溶液	七十九
飽和劑	八十一
飽和劑ノ總義	八十一

飽和劑ノ製法及處方例	八十一
飽和表	八十三
セルテル水	八十五
沸騰リモナーデ	八十六
○浸劑及煎劑	
浸劑ノ總義及其一般製法	八十七
浸劑ノ製法	八十八
煎劑ノ製法	八十九
重湯煎ノ裝置	九十
乾燥棚	九十一
浸劑ノ漉過法	九十二
簡便ノ浸劑器	九十三
多量ノ粘液質ヲ含ム藥物ノ煎劑	九十三
浸劑處方例	九十四
煎劑處方例	九十五
浸劑ノ處方例	百
浸劑及煎劑並其處方例	百一
冷浸劑及處方例	百一
長時間ノ煎劑又其處方例	百二
チットマン煎	百二

豫製浸煎劑	百五
浸煎劑分量表	百六
乳劑	
乳劑ノ總義及其種別	百七
種子乳劑及其製法	百八
複性乳劑及處方例	百九
油製乳劑及其處方例	百十
バルサム乳劑及其處方例	百十四
ゴム華爾斯乳劑及其處方例	百十七
華爾斯乳劑及其處方例	百十九
揮發油乳劑及其處方例	百二十
樟腦乳劑及其處方例	百二十二
磷乳劑及其處方例	百二十三
蠟カ、オ脂等ノ乳劑及其處方例	百二十四
〇 砥劑又煉劑	
砥劑ノ總義	百二十六
砥劑一般ノ製法及處方例	百二十七
〇 散劑	
散劑ノ總義	百二十八
散劑一般ノ製法	百二十九
散劑ヲ製スルノ注意	百三十
水飛法	百三十
散劑ノ賦形藥	百三十一
散劑一包ノ適量	百三十一
處方箋上散藥ノ分量	百三十一
散藥ノ分割	百三十二
單一ノ散劑處方例	百三十三
オブラートノ解	百三十三
複雜ノ散劑處方例	百三十四
バラヒン紙製法	百三十五
單複散劑ノ處方例	百三十六
丁幾類ノ散劑	百三十六
揮發性丁幾ノ散劑	百四十一
越幾斯ノ散劑	百四十二
越幾斯散劑ノ處方例	百四十三
鹽類ノ散劑	百四十五
變化ヲ起スヘキ鹽類ノ處方例	百四十七
沸騰散	百四十八
沸騰散ノ分量表	百五十
日本藥局方及英國沸騰散	百五十一

沸騰酸ノ處方例	百五十二
キニーネ鹽類ノ散劑及處方例	百五十三
揮發油散劑	百五十四
常用油糖劑	百五十四
マグネシウム鹽ノ散劑	百五十五
カムフル散劑及其處方例	百五十六
麝香ノ散劑	百五十八
〇 茶劑	
茶劑ノ總義	百五十九
茶劑ノ處方例	百六十
緩下茶劑	百六十一
〇 丸劑	
丸劑ノ總義	百六十二
截丸器	百六十三
展延板	百六十四
截丸器ノ使用法	百六十四
成丸器	百六十四
丸劑一般ノ調製法	百六十五
丸劑ノ衣	百六十六
丸劑ノ丸子數	百六十七
丸子數及其重量ヲ知ル法	百六十八
適當ノ丸子量	百六十八
丸劑ノ分割表	百七十
丸劑ノ賦形藥	百七十四
丸劑ノ結合藥	百七十四
丸劑ノ投與法	百七十五
越幾斯類ノ丸劑	百七十六
越幾斯丸劑ノ處方例	百七十七
石鹼丸劑及其處方例	百七十九
バルサム類、油類及エーテル製越幾斯ノ丸劑及其處方例	百八十二
グレオソート丸	百八十四
鹽類ノ丸劑其處方例	百八十八
キニーネ鹽ノ丸劑及其處方例	百九十
硫酸鐵ト炭酸カリウムノ丸劑	百九十二
酸類ノ丸劑及其處方例	百九十三
磷ノ丸劑及其處方例	百九十六
勃李又巨丸及其處方例	百九十八
常用丸劑表	二百
〇 膠囊劑	

○ 膠劑ノ總義及其處方例	二百一	○ 巴布劑及其處方例	二百二十九
○ 錠劑		○ 撒布劑及其處方例	二百三十
○ 錠劑ノ總義及其處方例	二百七	○ 藥用齒磨粉ノ處方例	二百三十二
○ 錠劑型及其使用法	二百八	○ 含嗽劑	
○ 錠劑器械	二百九	○ 含嗽劑及其處方例	二百三十四
○ 點眼水		○ 灌腸劑	
○ 點眼水ノ總義及其處方例	二百十三	○ 灌腸劑及其處方例	二百三十六
○ 注入劑		○ 液膏劑又擦劑	
○ 注入劑ノ總義及其處方例	二百十六	○ 液膏劑及其處方例	二百三十八
○ 皮下注射劑及其注意	二百十七	○ 彩粥劑	
○ 油ヲ賦形藥トナス注射劑	二百十八	○ 彩粥劑及其處方例	二百四十
○ 酒精及グリセリンヲ賦形藥トナス注射劑	二百十九	○ 軟膏劑	
○ 注射劑投與ノ注意	二百二十一	○ 軟膏劑	二百四十二
○ 洗滌劑		○ 日本藥局方規定ノ軟膏製法	二百四十三
○ 洗滌劑及其處方例	二百二十二	○ 軟膏ノ臨時調製法	二百四十三
○ 塗擦劑		○ 越幾斯軟膏	二百四十四
○ 塗擦劑及其處方例	二百二十四	○ ヨード軟膏	二百四十四
○ 罨法劑		○ 複方ヨード軟膏	二百四十四
○ 罨法劑及其處方例	二百二十七		

○ ヨードカリウム軟膏	二百四十四	○ 常用坐藥及腫球ノ表	二百六十四
○ 分解シ易キ鹽類ノ軟膏	二百四十五	○ 附錄	
○ 軟膏劑處方例	二百四十六	○ 日本藥局方第一表	二百六十三
○ 硬膏劑		○ 日本藥局方第二表	二百六十四
○ 硬膏劑	二百五十	○ 日本藥局方第三表	二百六十四
○ 日本藥局方規定ノ硬膏製法	二百五十	○ 日本藥局方第四表	二百六十六
○ 硬膏ノ貯蓄法	二百五十一	○ 日本藥局方外藥物ノ極量	二百六十六
○ 硬膏劑ノ投與	二百五十二	○ ハーゲル氏ノ小兒極量表	二百七十一
○ 絆瘡膏	二百五十二	○ 外國調劑藥價表	二百七十四
○ スバラドラバ	二百五十二	○ 同 調劑料定價表	二百八十四
○ 蠟膏	二百五十二	○ 尺度比較表	二百八十三
○ 硬膏ノ貯蓄法	二百五十二	○ 溶解表	二百八十四
○ 硬膏製法ノ注意	二百五十三	○ 內務省令毒藥劇藥ノ品目	二百八十六
○ 硬膏ノ處方例	二百五十四	○ 禁忌藥大要	二百八十九
○ 坐藥劑		○ 注意スヘキ配伍藥	二百九十五
○ 坐藥劑	二百五十五	○ 危害ヲ起スヘキ藥品配伍	三百一
○ 坐藥賦形藥	二百五十六	○ 解毒藥畧表	三百二
○ 坐藥一般ノ製法	二百五十六	○ 製劑術ノ總義	三百九
○ 腔坐藥	二百五十八	○ 製劑室ニ於テ遵守スヘキ規則	三百九
○ 坐藥ノ處方例	二百五十九	○ 業務日誌	三百十一

液類ヲ傾瀉スル法	三百十三
補缺及詰換	三百十五
藥物貯藏法	三百十六
藥物陳列法	三百十七
藥草ノ採集及乾燥	三百十九
細挫粉末法	三百十九
乾燥法	三百二十
濾過法	三百二十一
蒸餾法及其裝置	三百二十四
比重檢定法	三百二十六
沈澱法	三百二十六
丁幾ノ製法	三百二十七
越幾斯ノ製法	三百二十八
流動越幾斯製法	三百二十九
硝子技術	三百二十九
防火法	三百三十二
藥局製劑	自三百三十三
調劑用略語解	至四百二十九
英獨服用語	四百三十
異字同義	四百三十九
	自四百四十二
	至四百八十二

横文處方書體例說明
横文書方書體例

自四百八十一
至四百九十一
卷尾自一號
至二十號

調劑術講本

醫科大學教授藥學博士 丹波敬三 校閱
元醫科大學模範藥局藥劑師 小林九一 編纂

總論

調劑術 *Receptur*. トハ即チ藥學 *Pharmacie*. ノ應用術ニシテ醫師ノ處方箋 *Recepti*. ニ據
 フ適正ノ藥劑ヲ調製シ之ヲ患者ニ授與スルノ技術ヲ云ヒ之ヲ正確ニ實行スルノ責ニ任
 スル者ヲ藥劑師 *Pharmaceut. Receptarius*. ト云フ蓋シ藥劑師ノ調劑ニ於ケルハ恰モ醫師
 ノ診察ニ於ケルカ如ク醫師醫學ニ精シカラサレハ其診察ニ依ル治療モ亦正當ナラス藥
 劑師藥學ニ達セサレハ其調劑ニ依ル藥劑モ亦確實ナラス藥學ノ大家 *Dr. H. Hager* 氏曾
 テ云ヘラク *Die Receptur ist der wahre Firtzweck der Pharmacie und alle anderen Aufg-*
aben und Bestrebungen der pharmaceutischen Kunst bezwecken genau genommen nur die
Hilfsmittel zur ausführung der Receptur. 調劑ノ業務ハ實ニ藥學終局ノ目的ニシテ之ニ
 關スル諸般ノ學課ハ畢竟調劑ヲ行フノ階梯幫助ナリト是レ調劑技術ノ全ク他ノ藥學諸

調劑術ノ總義

課ト雖ル可ラサルヲ謂フ即チ之ヲ換言スレハ凡ソ藥劑師カ醫師ノ處方ニ依リ或ル藥物ヲ動物體內ニ輸送セシメントスルニ當リ之レカ形狀ヲ如何ニセバ最モ確實ニ且ツ安全ニ服用セシメ得ヘキヤ又其配合藥ヲシテ化學的變化ヲ起サシメサルヤ且ツ秤量シタル分量ヲシテ其變化ノ爲ニ過不足ヲ生セシムルコトナキヤ等ニ就キ驗査研究セントスルニハ種々ノ必要學科ヲ豫修セサルベカラサルヲ謂フ。

處方箋 Recept. Prescripta. トハ醫師ヨリ患者ニ附與シタル藥方書ノ義ニシテ醫師自ラ筆書セルカ或ハ之ヲ模寫シタルモノヲ云フ其記載ノ方式及順序ハ左ノ如シ。

- (1) 患者ノ姓名及年齡
- (2) 處方
- (3) 藥名及ヒ其分量
- (4) 調製法及ヒ服用法
- (5) 年月日
- (6) 醫師ノ氏名及ヒ調印

今此方式ニ從テ常用ノ處方一二ヲ例示スレハ左ノ如シ。

(1) 何ノ誰

處方箋ノ書式例

- (1) 處方
- (2) ヨードカリウム 二・〇
- (3) 苦味丁幾 三・〇
- (3) 單舍利別 一五・〇
- (3) 蒸留水 一八〇・〇
- (4) 右混和合劑ト爲シ投與
- (4) 用法一日三回宛二日分服
- (5) 明治何年何月何日
- (6) 醫師 何ノ某 印
- (1) 處方 何誰何年
- (2) 次硝酸蒼鉛 二・〇
- (3) ゲンチアナ根末 一・〇
- (3) 白糖末 三・〇

(4) 右混和散トナシ六包ニ分チ一日三回一包ツ、
 (5) 何年何月日
 (6) 醫師 何某
 實地ニ使用ス可キ處方箋ハ種々ノ意匠ニ依リ多少其欄廓ヲ異ニスト雖モ大概第一圖ノ
 雛形ニ準據スル者ナリ

第一圖

患者 何 誰 殿	
處方	沃土加里 二、〇
	苦味丁幾 三、〇
	單舍利別 一五、〇
水	一八〇、〇
右一日三四二分服	
三分投與	
明治 年 月 日	
醫師 何某 (印)	
藥劑師 何 誰 藥局	

醫師	何之誰殿	藥劑師
紀元2554	年 月 日 25/11	
Rp. Kalii jodat 1.0		
Tinct amar 2.0		
Aqua 100.0		
右日三四分服		

處方箋ノ實例

處方箋上藥物ノ種類

凡ソ處方箋上ニ記載スル藥物ハ其所用ノ目的ニ依テ左ノ四種ニ區別ス。

- (1) 主藥 Basis, Hauptmittel.
- (2) 佐藥 Adjuvans, Unterstützungsmittel.
- (3) 調味藥 Corrigena, Verbesserungsmittel.
- (4) 賦形藥又成形藥 Constituens, (Excipients), Gestalt gebendes Mittel.

今前ニ掲ケタル處方ニ就キ此種訓ヲ付スルトキハ「ヨードカリウム及次硝酸蒼鉛ハ主藥ニシテ苦味丁幾及ゲンチ
 アナ根末ハ佐藥單舍利別及白糖末ハ調味藥水ハ賦形藥ナリ然レトモ各處方箋上必スシモ此四種類ノ藥物ヲ併記ス
 ルモノニアラス或場合ニ依リ一二ヲ缺グコトアリ或ハ一味ニシテ兩種ヲ兼メルコトアリ例之ハ苦味丁幾ト單舍利
 別ノ代リニ橙皮舍利別ノ一味ヲ用ヒ或ハ白糖末ヲ調味藥兼成形藥トシテ用ユルカ如シ。

凡ソ至急ノ投藥ヲ要スル處方箋ニハ其傍ニ至急 Cito. 或ハ即時 Statim. 等ノ記載アルヘ
 シ若シ斯クノ如キ處方箋ヲ受領シタルトキハ縱令他ノ業務ニ從事シ居ルモ之ヲ中止シ
 テ暫時モ猶豫スルコトナク直ニ其調劑ニ從事セザルベカラズ蓋シ急病患者ノアル場合
 ナレハ藥劑師ノ業務上避クベカラザル義務ナリ。

醫師若シ前方 Reiteratum, Repetitur. ト記載スルトキハ前處方ニ據リ再ヒ其投藥ヲ求ム
 ルモノニシテ若シ前處方箋數葉アルトキハ最近ノモノニ從テ之ヲ調製スルヲ法トシ又
 一葉ノ處方箋中數方ヲ記載スルモノニシテ其一ヲ要スル場合ニ於テハ前方何劑ト書シ

前方投與

至急ノ處方箋

テ之ヲ指定シ又一葉ノ紙片ニ數多ノ處分ヲ列記スルトキハ通常其中間ニ井字形或ハ單ニ縱線ヲ引キテ之ヲ區分スルヲ法トス例之ハ

十月三十日 處方

ヨードカリウム

二〇〇

苦味丁幾

二〇〇

單舍利別

一五〇〇

水

一八〇〇〇

右一日三回宛二日分服

次硝酸蒼鉛

二〇〇

ゲンチアナ根末

一〇〇

白糖

三〇〇

右六包トナシ一日三回一包宛

十一月一日

前方水劑二日分投與云々

藥劑師ノ職務

藥劑師ハ日夜一定時間其監理スル藥局ニ在テ公衆ノ依頼ニ應シ醫師ノ處方ニ依リ諸般ノ藥劑ヲ調製投與スルヲ職務トス故ニ藥劑師ハ最モ貴重ナル人命ニ係ル責任ヲ負フモノナレバ常ニ局内ヲ整理シ且ツ藥局方ノ規定ニ適合セル純正ノ藥劑ヲ貯有セサルヘカラス而シテ自己ノ品行方正ヲ嚴守スルハ勿論公衆ニ對シテハ慇懃懇篤ニシテ職業ニ親切タルヘク苟モ其信用ニ關連スルカ如キ言行ハ瑣事ト雖モ之ヲ慎マサルベカラス平常其技術ニ熟練シ極メテ精密ニシテ規律正シキ習慣ヲ涵養スルヲ緊要トス蓋シ藥劑師ハ我同胞ノ隣ムヘキ病者ニ對シテ特ニ惠愛ヲ以テ之ヲ待遇スルノ義務ヲ有スルモノナリ故ニ至急ノ處方箋來ルトキハ時間外ト雖トモ其依頼ニ應スルノ義務アリ。

藥劑師今一葉ノ處方箋ヲ受領スルトキハ先ツ之ヲ初ヨリ終リ迄再三通讀シ其文面ニ脱誤等ナキヤ否ヲ検査シ且ツ特ニ左ノ條件ニ注目スベシ。

醫師ニ復問スヘキ條件

劇毒藥ノ記載アルトキハ其量藥局方規定ノ極量 Maximaldose. ニ超過セサルヤ否其記載量若極量ニ超過シタルトキハ一定ノ符票!! 或ハ▽アルヤ否又藥物配伍ノ關係ニ由リテ著シキ化學的變化ヲ起スヘキヤ否又水劑中藥物ノ溶否如何等云々。

右ノ條件若クハ他ノ箇條ニ就キ疑ハシキ廉アルトキハ其處方箋ニ疑問書ヲ添ヘ之ヲ處方醫ニ質スヘシ萬一答辭ヲ得ルコト能ハサルトキハ近隣ノ醫師ニ就テ其判定ヲ請ヒ若

投藥ノ手續

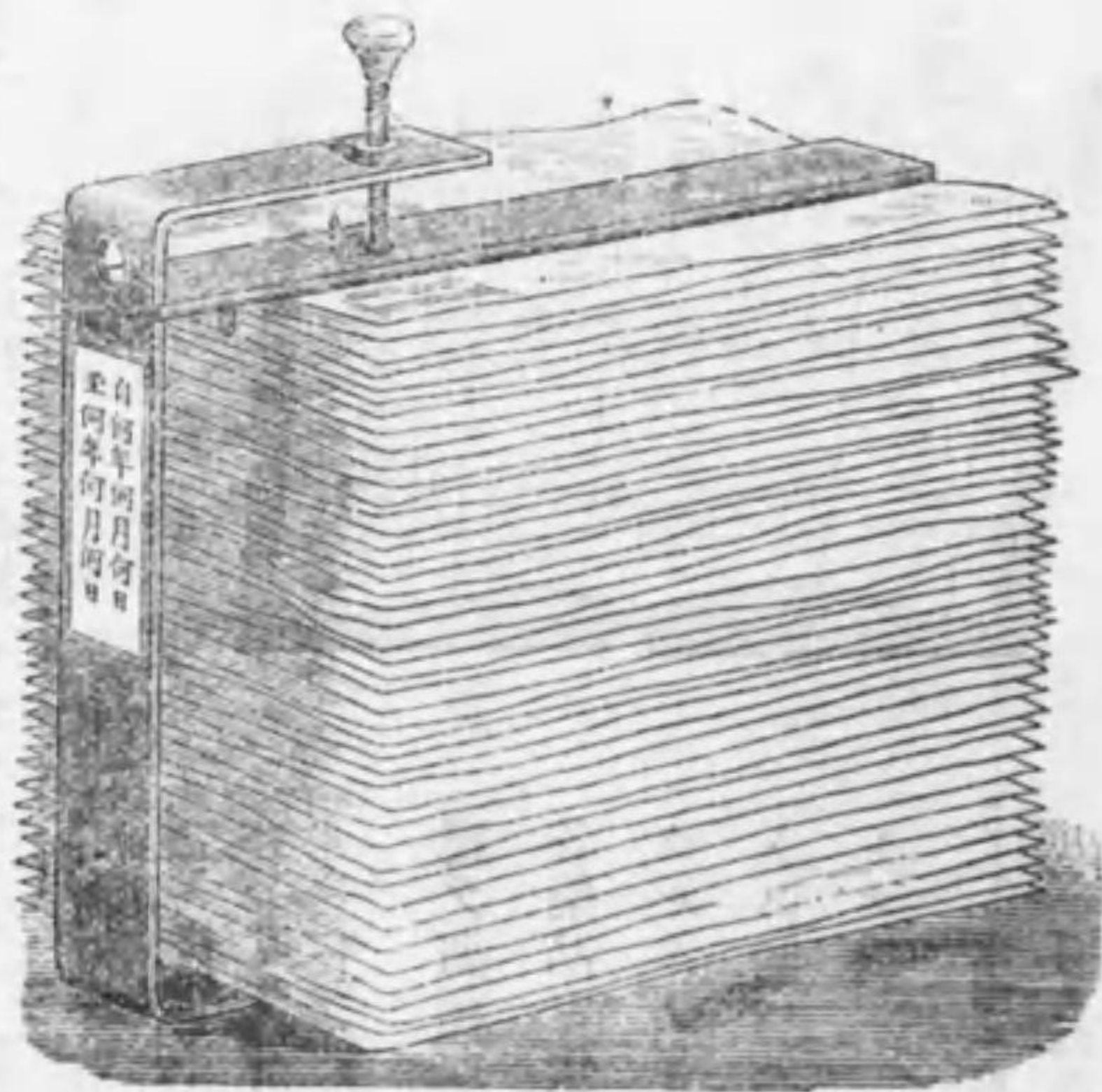
シ近隣ニ質問スヘキ醫師ナク遠隔ノ醫師ニ照會スルノ時間ヲ遷延シ難キ場合ニ於テハ止ムヲ得ス藥劑師自己ノ學識ト經驗トニ依テ先ツ之ヲ修正シテ投劑シ置キ然ル後之ヲ處方醫ニ通報スヘシ乃チ藥劑師ハ一病者ノ處方ヲ調劑スレバ固ヨリ之ニ關連スル藥劑上ノ責任ヲ負ハサル可ラス故ニ其調劑ノ正確ヲ保タンカ爲メ該藥方ニ不審ノ點アルトキハ其處方醫ニ之ヲ復問スルノ權利アルモノトス。

新ク受領セル處方箋果シテ正確ノモノナルトキハ先ツ之ヲ調劑机上ニ定置シ成規ノ調劑法ニ據リ其調製ニ從事スベシ而シテ全ク其調劑ヲ終リタレバ直ニ一定ノ紙片ニ其用法 *Signature* ヲ記載シ再ヒ該處方箋ヲ熟讀シ其調劑ノ果シテ正確ナルコトヲ認メタルノ後之ヲ請求者ニ投與スヘシ若シ多數ノ患者一時ニ集來スルトキハ各自ニ其姓名ヲ呼ハシメ正ニ該藥劑ノ請求者ト認ムルモノニアラサレハ容易ニ之ヲ交附スヘカラス蓋シ姓名ノ錯誤ヨリ不慮ノ危害ヲ招キタルノ實例少カラサレハナリ。

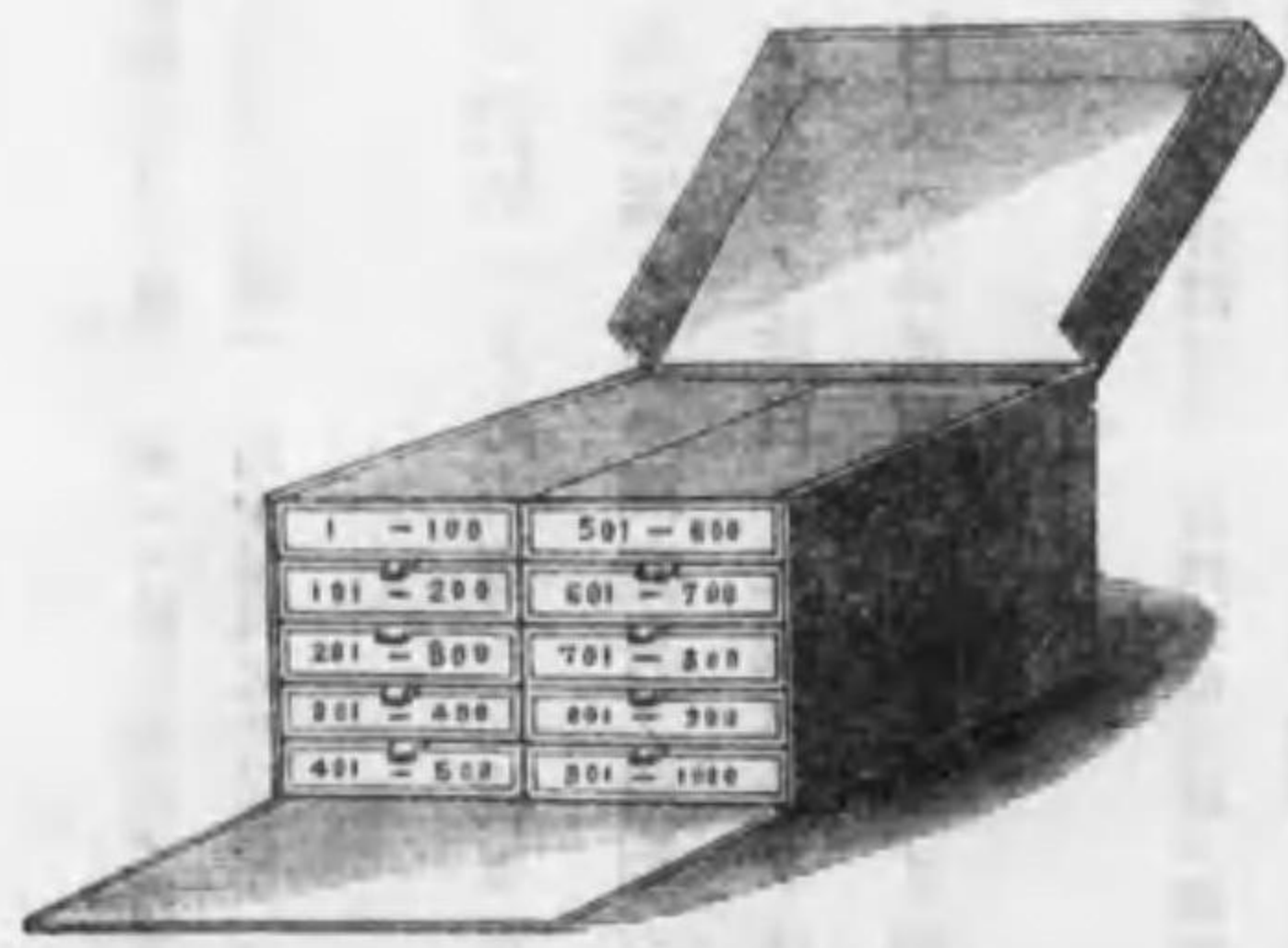
總テ調劑ヲ終リタル處方箋ハ一定ノ順序例之バ其日附或ハ姓名ノ「イロハ順等ニ合綴シ一定ノ場所ニ一定期間保存スルヲ要ス其目的ニハ第二圖(一日分ノ處方箋數枚ヲ一個ノ袋内ニ入レタル者)ニ示ス所ノ處方箋挾或ハ第三圖(番號ヲ以テ區別シタル處ニ一葉宛ヲ入ル)ニ示ス所ノ處方箋函ヲ用ユ是レ他日點檢ノ必要ナル場合ニ臨ミ容易ニ搜索シ得

處方箋ノ保存法

第 二 圖



第 三 圖



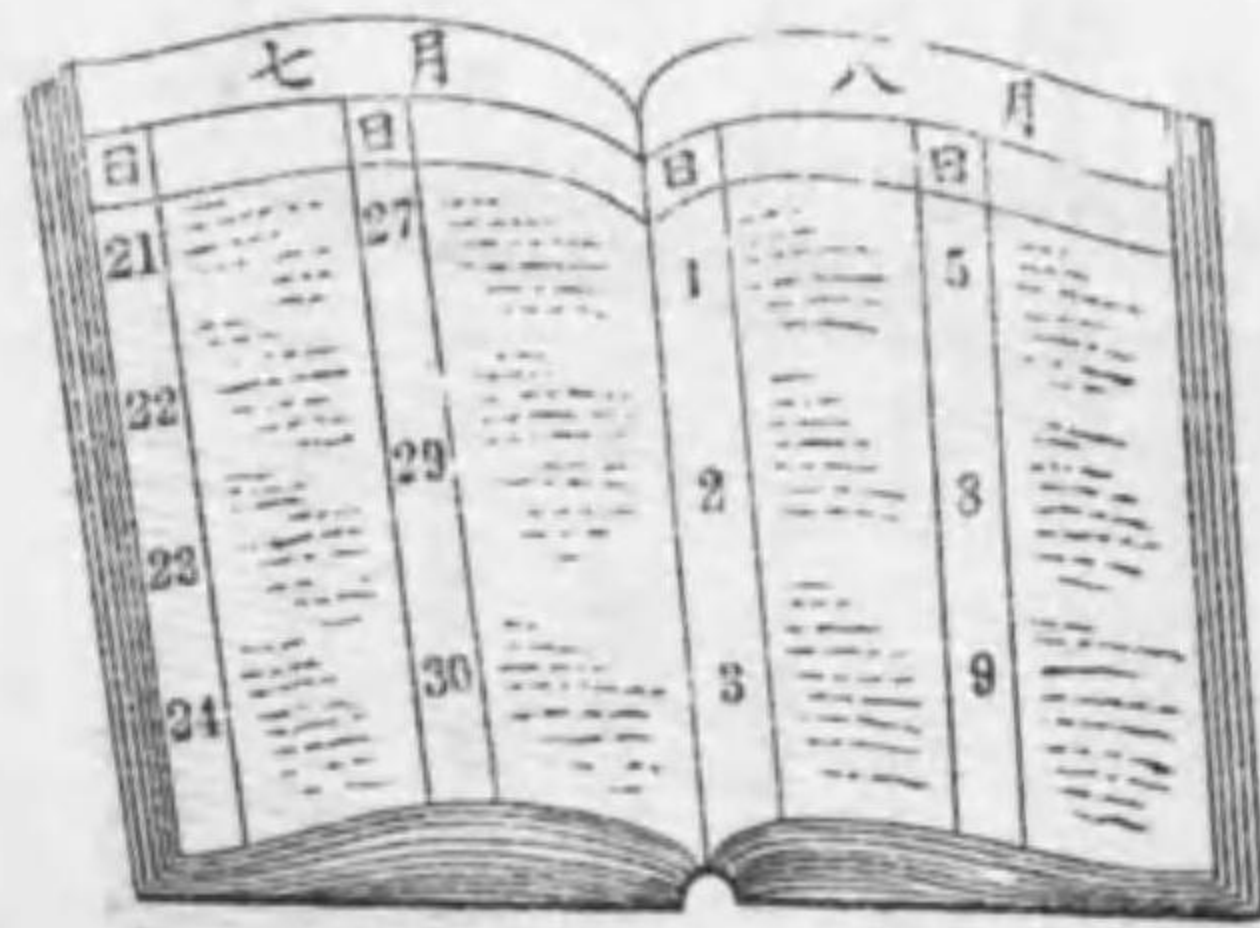
ルガ爲メナリ然レトモ 或ル場合ニ於テハ患者ノ懇望ニ依リ醫師ノ附與シタル處方箋ヲ其藥劑ト共ニ請求者ニ交附スルノ止ムヲ得サルコトアリ又或ル原因ニ由リ其保存シタル處方箋ヲ消失スルコトナシトセス故ニ藥局ニハ常ニ適當ノ處方箋寫簿ヲ具ヘサルヘ

調劑錄

劇毒藥ノ処方箋
保存法

カラス所謂調劑錄是レナリ此帳簿ニハ日々調劑シタル總テノ処方箋ヲ謄寫シ置キ他日
點檢ノ用ニ備フルモノトス第四圖ハ其雛形ヲ示ス。
前記ノ方法ニ依テ總テノ処方箋ヲ保存シ得ヘシト雖モ就中劇毒藥ヲ記載スル処方箋ハ
通常藥ノモノト區別シテ保存セサルヘカラス蓋シ劇毒藥ハ最モ叮重ノ取扱ヲ必要トス
レハナリ。

第四圖



藥劑ノ代價

總テ調劑シタル藥劑ノ價格ハ其処方箋ニ記載セル
各藥品定價ノ總加ト其容器ノ價ニ調劑料ヲ附加シ
タルモノニシテ是ヲ処方箋ノ餘白ニ記載スルヲ法
トス例ヘハ上部ノ餘白又ハ其裏面ニ記載スルヲ例
トス。

本邦ニ於テハ未ダ内務大臣ノ公認シタル調劑藥價表並ニ調劑
料ノ規定ナキカ故ニ藥劑ノ價格區々ニシテ一定ノ規律ナキカ
如シ當時醫科大學模範藥局ニ於テハ右ノ方法ニ基キタル一種

法律第十號藥品營業並藥品取扱規則ニ據レハ毒藥劇藥ノ処方
箋ハ藥劑師檢印シテ処方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スベ
キモノト規定セリ。

ノ藥價徵收法ヲ制定シテ試ニ之ヲ實行シツ、アリ今其全表ヲ記載スレハ左ノ如シ(卷末ニ外國ノ調劑藥價法ヲ掲
ケ以テ參考ノ資トナス)。

調劑料徵收法

調劑藥類	一劑ノ分量	秤量手數	調劑注意	調劑時間	調劑料
散劑	壹包	1	3	2	II
液劑	〇一〇六	2	6	4	IV
注液	〇一〇六	3	4	9	V
皮下注	〇一〇六	5	10	2	III
軟膏	〇一〇六	1	3	5	IV
硬膏	〇一〇六	1	3	5	IV
水劑	〇一〇六	3	7	5	V
乳劑	〇一〇六	3	4	8	IV
丸劑	〇一〇六	2	8	8	VI
座劑	〇一〇六	2	4	9	V
浸劑	〇一〇六	1	5	6	IV
煎劑	〇一〇六	1	3	18	III
塗劑	〇一〇六	1	4	5	III
紙劑	〇一〇六	1	4	4	III

藥價徵收法

處方箋上グラム
量ノ書體

1 Grain gr
1 Ounce Oz 〓 四百三十七八半
1 Pound lb 〓 十六号 〓 七千八

處方箋上ニ記載セラル、グラム量ハ通常左ノ如キ書體ヲ用ユルモノトス。

十分一ミリグラム ○・〇〇〇一
一ミリグラム ○・〇〇一
一センチグラム ○・〇一
一デチグラム 一
一グラム 一〇〇
十グラム 一〇〇〇
百グラム 一〇〇〇〇
千グラム 一〇〇〇〇〇

前記ノグラム量トハ今尙ホ併用セラル、コトアルヲ以テ他日一般ニ「グラム量」ノミ専用セラル、ニ至ル迄ハ暫ク雙方ノ比較對稱ヲ知ラサル可カラス 乃チ其比較量ハ左表ノ如シ。

オンス量ト「グ
ラム量ノ比較

英國オンス量ト佛國グラム量トノ比較。

量ムラグ	量 号	量 号	量ムラグ
1.0 =	15,4323 号	1/4 号 =	0.0064
2.0 =	30,8646 号	1/2 号 =	0.0108
3.0 =	46,2969 号	1 号 =	0.0324
4.0 =	61,7292 号	5 号 =	0.0648
5.0 =	77,1615 号	10 号 =	0.3240
10.0 =	154,3203 号	15 号 =	0.6480
15.0 =	231,4845 号	16 号 =	0.9720
20.0 =	308,6460 号	30 号 =	1.0368
25.0 =	385,8075 号	48 号 =	1.9440
30.0 = 1 号	25,4690 号	60 号 =	3.1104
35.0 = 1 号	102,6305 号	80 号 =	3.8880
40.0 = 1 号	239,792 号	240 号 =	5.1840
45.0 = 1 号	256,9535 号	1 号 =	15.5520
50.0 = 1 号	334,115 号	5 号 =	28.3495
100.0 = 3 号	230,730 号	10 号 =	141.7475
150.0 = 5 号	27,345 号	12 号 =	283.4950
200.0 = 7 号	17,960 号	15 号 =	340.1940
450.0 = 15 号	382,035 号	16 号 =	425.2425
454.0 = 16 号	6,2642 号		453.5920

右ノ如ク精密ニ雙量ヲ比較スルトキハ各端數ヲ生シ甚タ實用ニ不便ナルカ故ニ今其小數ヲ除キ記憶ニ便ナル比較表ヲ作ルコト左ノ如シ。

本邦液量

本邦液量(明治二十四年法律第...)

- 一 勺 〇・〇一八〇四リッテル
一 合 〇・一八〇三九リッテル
一 升 一・八〇三九一リッテル
一 斗 一〇・八三九〇七リッテル
一 センチリッテル 〇・〇〇五五四升
一 デカリッテル 〇・〇五五四升
一 リッテル 〇・五五四三五升
一 デカリッテル 五・五四三五二升
一 ヘクトリッテル 五五・四三五四升
通常處方箋ヲ以テ患者ニ示スヘキ服用量ハ大約次ノ分量ヲ指定スルモノニシテ固ヨリ精密ノ重量ヲ記スルニアラス單ニ服用量ノ標準ヲ示スニ過キサルベシ。
一 小刀尖 一グラム
一 茶匙 四グラム乃至五グラム
一 小兒匙 八グラム乃至十グラム

處方箋上ノ服用量

一 食匙 十五グラム 半等
一 酒杯 百グラム乃至百二十グラム
一 水 蓋 百八十グラム
前ニ述ヘタル如ク處方箋ニ記載スル藥品ノ秤量ハ總テ重量ヲ用ユルヲ以テ調劑ノ正法トスレトモ從來醫師ノ慣習ニ由リテ屢々滴數ヲ以テ其量ヲ記スルコトアリ固ヨリ滴數ノ重量ハ壘口ノ大小形狀及其厚薄ニ因テ多少ノ差異アリト雖モ通常左ノ比例ヲ以テ大約一グラムニ對當スルモノト定ム。

滴量

- 水及稀鹽酸類 十六滴乃至二十滴
丁幾・脂肪油・重揮發油 二十滴
揮發油類・クロ、フォルム・エーテル精等 二十五滴
エーテル 五十滴

藥液ノ點滴法

總テ藥液ヲ點滴スルニハ可成明朗ノ方向ニ於テ先ツ其藥瓶ヲ振盪シタル後栓子ヲ抜キ其濕端ヲ斜メニ瓶口ノ下方ニ抵テ不意ニ多量ノ流下ヲ防キツ、徐々ニ其栓端ヨリ之ヲ滴下セシムルコト第五圖ニ示スカ如シ然レトモ通常滴數ヲ以テ記スルコト多キ藥液ニアリテハ豫シメ之ヲ滴瓶中ニ貯ヘ置キ之レヨリ點滴スルヲ便宜ナリトス滴瓶ニハ種々

第五圖



第六圖



其形狀ヲ異ニ
スルモノアリ
ト雖トモ通常
第六圖ニ示ス
カ如キ形ヲ以
テ最モ簡單ノ
モノトス今之
ヲ使用セント

欲セハ先ツ栓子ヲ回轉シ其栓體ニ穿テ爾兩溝部ヲ一方ハ瓶頸ニ開口セル大氣孔ニ他ノ一方ハ其滴口ニ通セシメ然ル後之ヲ圖ノ如ク傾斜シ點滴セシムルニアリ而シテ使用終レハ再ヒ其栓ヲ舊位ニ回轉シテ之レヲ閉鎖スベシ。

通常液類ノ點滴ヲ示スニ以テ此符號ハ *Mixtum* ヨリ採レル者ニシテ元來最小量タル「ミニム」量ヲ指定シタル者ナレトモ古來ノ習慣ヨリ誤テ遂ニ點滴ノ符號トナルニ至レリ故ニ處方箋上幾ムト記載アルトキハ茲ニ記載スル滴數ト見做スヘキモノナリ前ニ滴量ノ大畧ヲ記シタリト雖トモ猶ホ屢々應用セラル、各藥品ニ就キ大約一グラムニ對當スヘキ滴數ヲ掲ケレハ左ノ如シ。

鉛醋

十六滴

醋酸

十六滴

調劑上常用ノ藥品一グラムニ對スル滴數

鹽酸	十二滴	薑薑油	二十五滴
稀鹽酸	十六滴	過クロール鐵液	十二滴
水	十六滴	ホーレル水	十六滴
硝酸	十二滴	檸檬油	二十五滴
杏仁水	十六滴	揮發苦扁桃油	二十滴
コバイバールサム	二十滴	橙花油	二十五滴
ペルーパールサム	十六滴	ベルガモト油	二十五滴
クロムフェルム	二十五滴	カヤプテ油	二十五滴
クレオソート	二十滴	丁香油	二十滴
茴香油	二十五滴	サビナ油	二十五滴
磷酸	十六滴	エーテル酒精製丁類	二十五滴
硫酸	十滴	酒精製丁類	二十五滴
稀硫酸	十六滴	エーテル精	二十五滴
桂皮油	二十滴	甘硝石精	三十滴
巴豆油	二十滴	酒精	三十滴
杜松實油	二十五滴	稀酒精	二十五滴
薄荷油	二十五滴	舍利別類	十二滴
オレーフ油	二十滴	エーテル製鐵丁類	二十五滴

重錘 Gewicht, weight, トハ前ニ列記シタル重量ヲ定知スヘキ要器ニシテ一名玆瑪ト名

總論 一グラムニ對スル滴數

二十五

重錘ハ正確ナラサルベカラズ

ツクルモノナリ即チ此器ヲ以テ諸種ノ藥品ヲ定量スルモノナレハ常ニ正確ナル者ヲ備ヘサルヘカラス然ルニ日々之ヲ繁用スルトキハ塵埃鋪衣等ニ依テ多少不正トナルヘシ故ニ其標準トナスヘキ正確ノ原基重錘即チ通常使用セサル檢定重錘ヲ備ヘ置キ時々之ト比較シ其正否ヲ検査スルヲ要ス或ハ時々互ニ之ヲ交換シテ各自ノ平均ヲ稱試スルモ可ナリ例之ハ二百グラムノ重錘一個ト百グラムノ重錘二個トヲ比秤シ或ハ五十グラムノ重錘一個ト二十グラムノ重錘二個及ヒ十グラムノ重錘一個ト比較秤量スルガ如シ若シ不正ノモノアルトキハ直ニ之ヲ正確ノモノト交換スベシ。

重錘ノ保存法

總テ重錘ハ眞鍮ニケル或ハ白金等ノ金屬ヲ以テ製造シタルモノニシテ之ヲ清潔ニ保存スルニハ時々使用ノ後稀酒精ニ醋ノ少量ヲ加ヘタル液ニ暫時浸漬シクク之ヲ拭濕スルニアリ或ハ極メテ細末ナル磨粉ヲ用ヒテ輕ク拭磨スルモ可ナリ強テ重錘ノ光輝燦然タルヲ要セズ。

重錘ノ種類

通例藥局ニ備フヘキ重錘ハ左ノ種類及個數ヲ要ス即チ一グラム以上ト其以下トハ別ニ箱入トナシ秤器一基ニ此重錘一組ヲ定置スヘシ而シテ大量ヲ秤ル秤器ニ附屬スル重錘箱ハ左ノ十三個ノ重錘ヲ容ル、ヲ便トス。

- 一 グラム 二 グラム 二 グラム 五 グラム

大玻璃瑪

小玻璃瑪

- 十 グラム 二十グラム 二十グラム 五十グラム
- 百 グラム 二百グラム 二百グラム 五百グラム
- 千 グラム

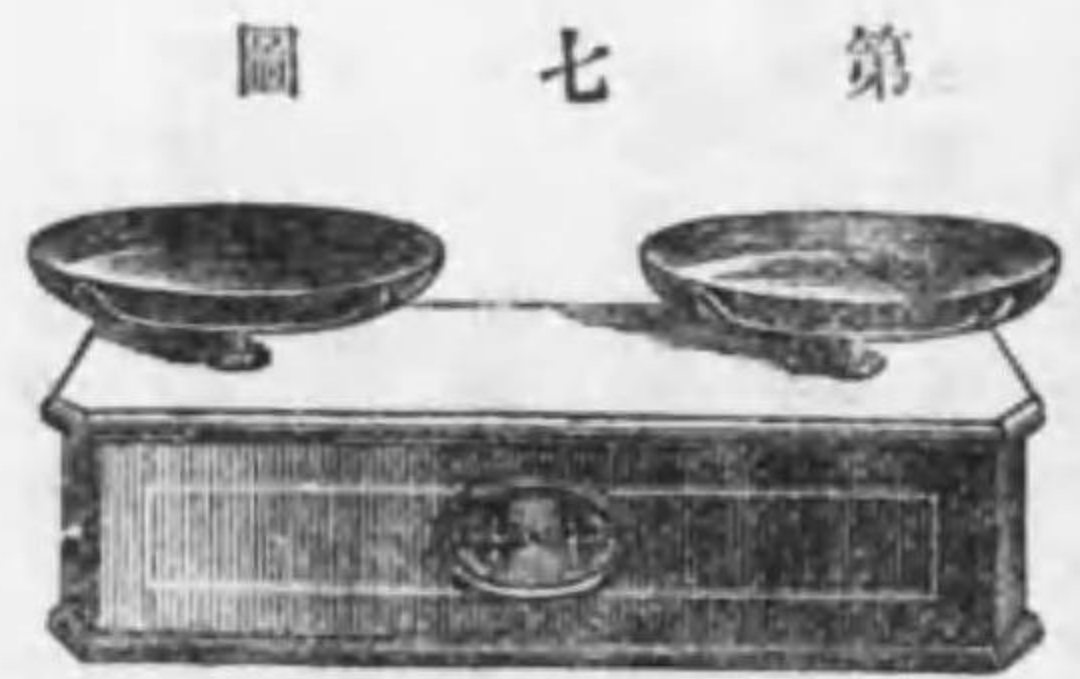
又小量ヲ秤ルベキ秤器ニ附屬スル重錘箱ハ左ノ十三個ノ重錘ヲ容ル、ヲ要スベシ。

- 一ミリグラム 二ミリグラム 二ミリグラム 五ミリグラム
- 一センチグラム 二センチグラム 二センチグラム 五センチグラム
- 一デチグラム 二デチグラム 二デチグラム 五デチグラム
- 一グラム

秤量器

秤量器ノ種類

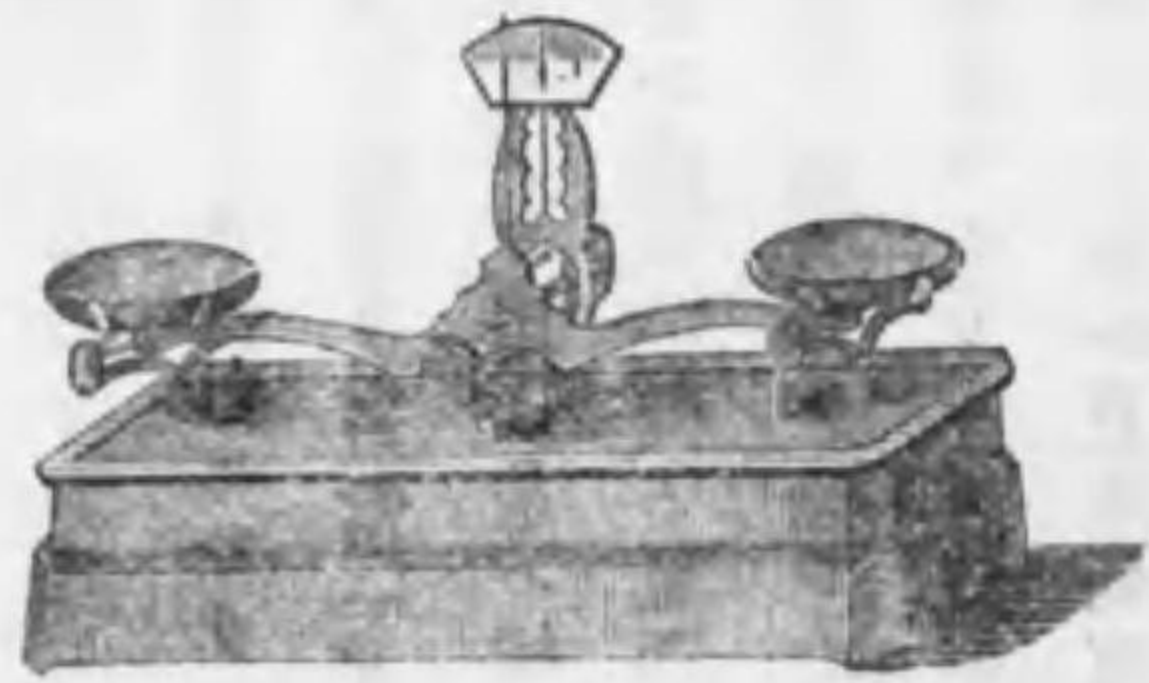
秤量器 Waage, Balance. ハ最も重要ナル器具ニシテ藥局内ニハ大小數種ヲ備ヘサルベカラス而シテ其造構ニ依リ種々ノ形狀アリ通常一グラム以上五百グラム以下ノ量ヲ秤ルニハ皿秤 Tellerwaage. ト稱スルモノヲ用ユ是ハ槓杆ノ上ニ秤皿ヲ載置シタルモノナレハ其秤量極メテ容易ナリ即チ第七圖ハ一種ノ皿秤ニシテ同器ノ全裝置多ク臺箱内ニ在ルヲ以テ塵埃等ノ爲メニ其銳敏ヲ害スルノ恐レナキモノトス又第八圖ハ繁忙ノ藥局ニ備フヘキ秤器ニシテ其兩面ニ指針ヲ立ツルカ故ニ其兩側ニ於テ使用シ得ヘク且其臺箱内ニ重錘ヲ入ルベキ抽斗ヲ付スルトキハ更ニ便宜ノ者タルベシ又センチグラム以上



第七圖



第八圖



第九圖

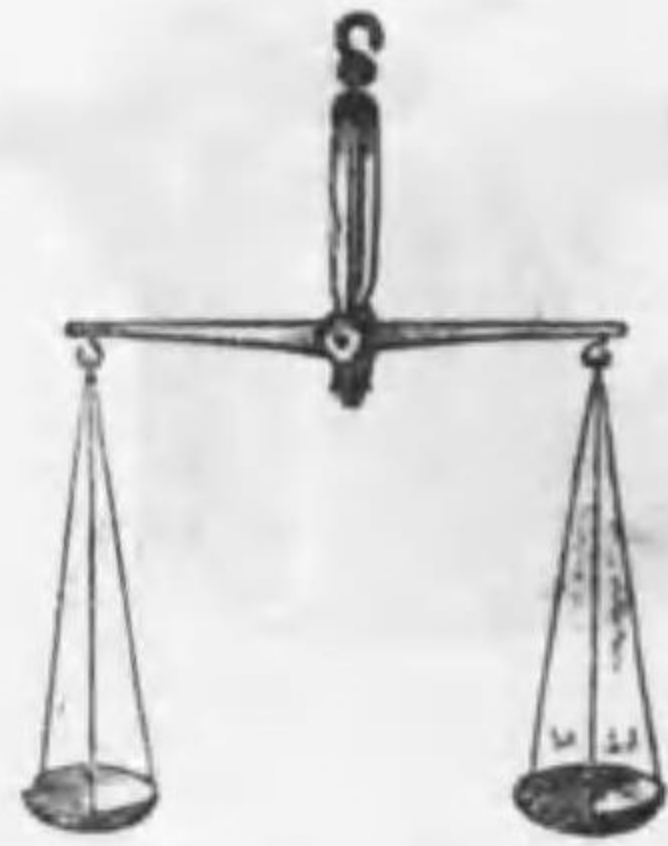


グラム以下ノ少量ヲ秤ルニハ精巧ナル天秤ヲ要ス即チ槓杆ノ下ニ秤皿ヲ懸垂スル者ニシテ第九圖ノ如キ装置ヲ用ヒ其雙皿上ニハ更ニ同一ノ重量ヲ要スル時計硝子各一個ヲ具フ通常之レヲ毒藥天秤 Giltwaage. ト稱ス蓋シ劇毒藥ノ秤量ニ用ユルカ故ナリ又一グラム以下一デチグラム以上ノ量ヲ秤ルニ最モ便宜ナル手秤 Handwaage. ト稱スル者アリ第十圖ノ如シ。

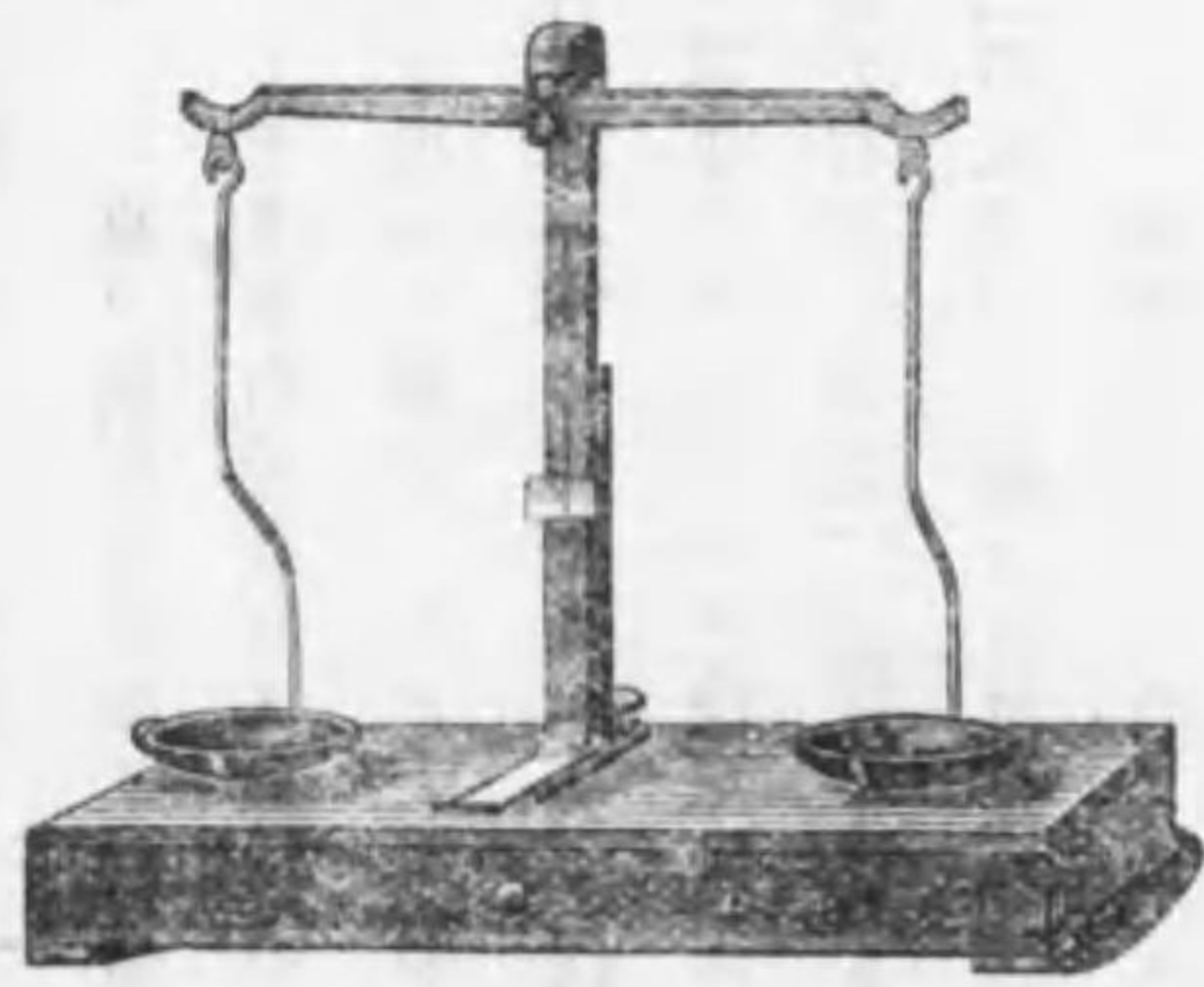
總テ皿秤ニ附屬スル秤皿ハ常ニ金屬ヲ以テ製造シタルカ故

秤量器ヲ扱フ注意

第十圖



第十一圖



ニ之ヲ用ヒテ秤量スルニハ直接ニ藥物ヲ登載スヘカラス先ツ同大ノ小紙片(例之藥包紙)ヲ雙皿上ニ置キ此上ニ重錘及秤量スヘキ物質ヲ登載スヘシ然レトモ毒藥天秤ノ秤皿ハ硝子製ナルガ故ニ直接ニ物品ヲ登載スルヲ得ヘシ又手秤ニ在テハ其秤皿多クハ水牛製ノモノナレバ直接ニ藥品ヲ登載スルヲ得ヘシト雖モ液体ハ勿論固體ナルモ液体ニ變シ易キモノ或ハ濕氣ヲ帶フル者又ハ之ヲ吸引シ易キモノ等ハ直接ニ登載スルコトヲ避クヘシ其他調劑用風袋秤 Recepturairwaage. ト名クル一種ノ稍大量ヲ秤ルヘキ秤器アリ之レハ劇藥天秤ノ外圍ヲ除キ之ヲ數倍大形ニ構造シタルモノニシテ之ヲ用ユレハ一容器内ニ數種ノ藥物ヲ秤入スルニ頗ル便宜ナルカ如シ然レトモ其秤皿槓杆ノ下ニ懸垂セラル、ヲ以テ其秤量ニ

秤量器ノ使用法

ハ大ニ手數ヲ要スベシ然レトモ一種ノ風袋秤ニシテ通常越幾斯天秤 (Extraktwaage) ト稱スルモノハ專ラ軟稠越幾斯ヲ秤量スルノ用ニ供シ其秤皿ヲ自由ニ去就シ得ヘク構造シタルノミナラス尙越幾斯ヲ秤量シタルマ、其秤皿ヲ他ノ液體中ニ投シ直ニ之ヲ溶解セシムルヲ得ベキ便宜ノモノナリ第十一圖ノ如シ。

總テ秤量器ハ常ニ均整ノ平均ヲ保ツベシト雖トモ之ヲ使用スルニ當リ先ツ其正否ヲ驗シ正ニ其平均ヲ認メタル後左皿(秤器ニ向テ左手ノ方)上ニ必要量ノ重錘ヲ置キ右皿(秤器ニ向テ右手ノ方)上ニ秤量スヘキ藥品ヲ少許ツ、盛り將ニ平均ニ近カントスル前左手ノ第二指頭ヲ以テ輕ク其皿縁ヲ押ヘ秤品ノ過量ニ至ラサル様注意シツ、雙皿ヲシテ相平均セシメ其指針全ク中心ヲ示スニ至ラシムヘシ又手秤ヲ使用スルニハ先ツ之ヲ左手



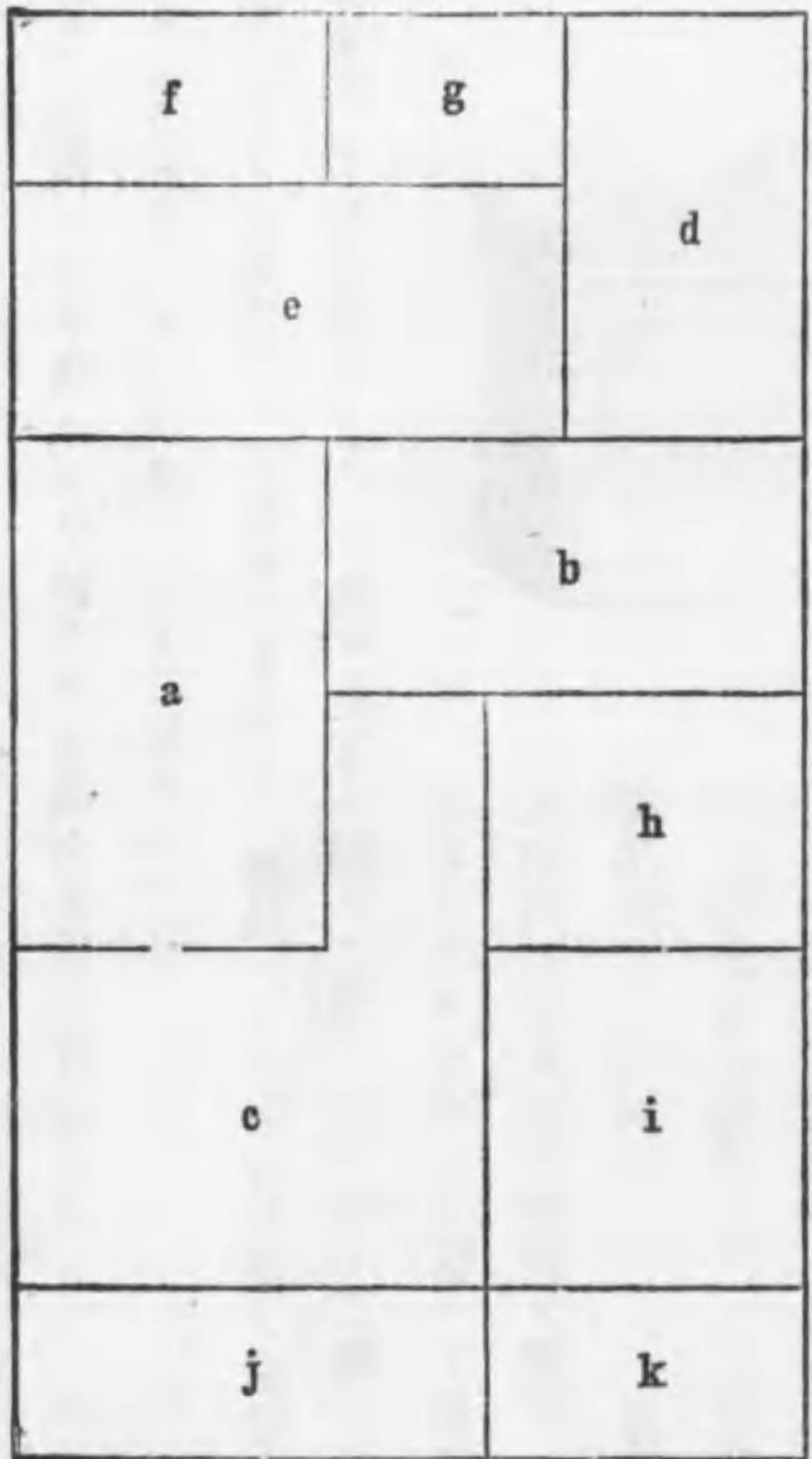
圖二十第

ニ取り拇指ノ先端ヲ其懸垂環中ニ挿入シ自餘ノ四指ヲ以テ狹柄ノ上部ヲ輕ク握リ其舌針ヲシテ手掌ト小指上節トノ間ニ於テ少ク運動セシメツ、皿秤ニ於ケルカ如ク重錘ヲ左皿ニ秤物ヲ右皿ニ採リ相平均セシムヘシ而シテ秤皿重錘及ヒ秤量スヘキ物品等ヲ扱フニハ凡テ右手ヲ用ヒ特ニ小形ノ重錘ヲ扱フニハ「ピンセット」ヲ用ユルヲ法トシ

風袋器ハ輕體ヲ要ス

風袋罐、風袋粒

圖三十第



可成手指ノ直接ヲ避クベシ。凡ソ秤量器ハ數回重量ヲ登載スルニ隨ヒ其銳敏ノ度ヲ減損スルモノナレハ濫リニ無用ノ重量ヲ過載スヘカラス即チ風袋ノ容器ニハ可及的輕體ヲ撰ヒ又一器内ニ數種ノ藥物ヲ秤入スル場合ニ於テハ其中最モ少重ノモノヨリ秤取シテ漸次多量ノモノニ及ボスベシ若シ否ラズシテ先ツ大量ノモノヲ秤量シタル後少量ノモノヲ秤ルトキハ秤器ノ銳敏ナル感動ヲ損シ其秤量ハ正確ヲ得ルコト難カルベシ。

又容器等ノ風袋ヲ平均セシメントスルニ其重量ヲ知ルノ

藥局ノ構造

藥局棚ノ種別

圖 四 十 第



必要ナキトキハ重錘ノ代リニ適宜大ノ砂粒、散彈丸或ハ鉛粒等ヲ用ユルコトアリ故ニ平常適宜ノ器内ニ之ヲ備ユルヲ便トス通例之ヲ風袋粒 Tarischrot. ト云ヒ其容器ヲ風袋罐 Tarikännchen. ト云フ其形第十二圖ノ如シ。

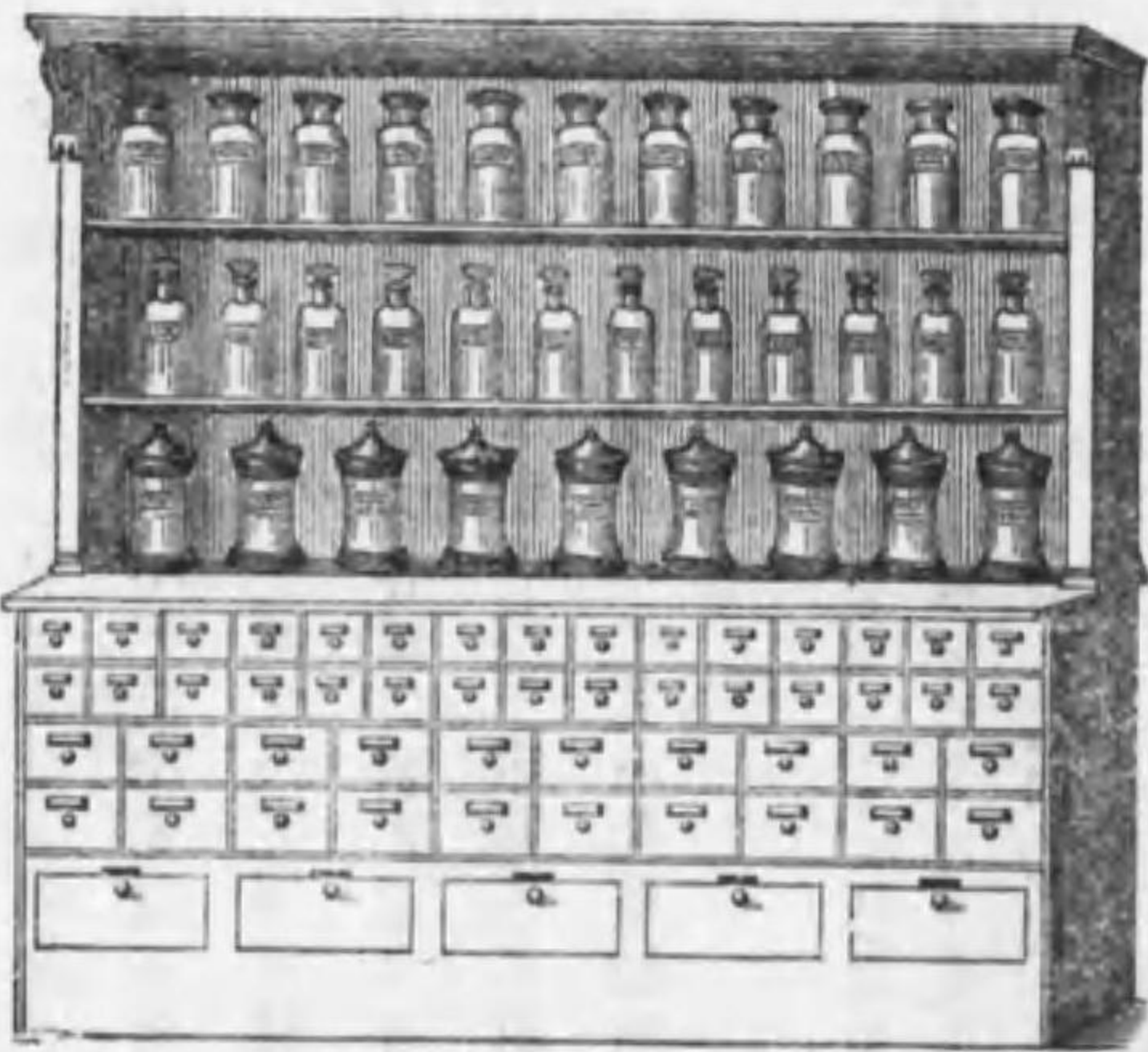
調劑室 Recepturzimmer. ハ藥局ノ主要ナル部局ニシテ其位置他ノ試驗室 Prüfungszimmer. or. 製煉室 Defekturzimmer. ト共ニ適宜ノ配置ヲ要ス大畧第十三圖ニ示スモノヲ以テ其標準トナスヲ得ベシ固ヨリ場所ノ廣狹局部ノ便宜如何ニ依テ多少變換ノ要アルベシ圖中(a)ハ調劑室(b)ハ試驗室(c)ハ製煉室(d)ハ考參室(e)ハ患者ノ控所(f)ハ會計室(g)ハ記錄室(h)ハ試驗室附屬(i)ハ倉庫(j)ハ製煉室附屬(k)ハ倉庫附屬ヲ示ス。

調劑室ニハ先ツ醫療上所要ノ數種藥品及ヒ其調劑ニ必要ナル諸器械等ヲ一定ノ場所ニ裝置スベシ日本藥局方所定ノ藥品類ハ勿論外國藥局方所載ノ者ト雖モ調劑上必要ノ藥品ハ其據ル處ノ藥

圖 五 十 第



圖 六 十 第



GALLAE
子倍五

瓶架算筒共長六尺 算筒高サ三尺 同整巾一尺三寸
瓶架總高サ三尺三寸 欄高サ内乘七寸三分 欄深サ六寸
抽屜深サ 上二段 五寸
中二段 六寸
下一段 八寸

局方名ヲ明記シテ陳列スルヲ要ス又執レノ藥局方ニモ記載セザル藥品ニシテ調劑上必要ノモノハ法文ノ規定ニ從ヒ特別ノ場所ニ貯フベシ。

總テ備附藥品ハ先ツ一定ノ容器ニ納メ毒藥 Medicamenta Venenae. 劇藥 Medicamenta fortiora. 通常藥 Medicamenta communis. ノ三種ニ大別シ特ニ毒藥ハ鎖鑰ヲ具ヘタル棚ニ定置スルヲ要ス第十四圖ハ毒藥棚ノ閉鎖シタルモノヲ示シ第十五圖ハ開扉シテ其内部ノ様ヲ示シタルモノナリ此圖ハ木戸ヲ有スレトモ通常ハ硝子戸ヲ用ユ又劇藥及通常藥ハ更ニ生藥品、固體藥品、液體藥品等ニ小別シ其順序ハ各羅甸名ノ順序ニ依ルヲ法トス之レ藥瓶常ニ同一處ニアルカ故ニ藥品ヲ搜索スルニ當リ最モ便宜ナリ第十六圖ハ通常藥棚ト生藥抽匣トヲ重積シタルモノヲ示シ其下ニ掲ケタル札ハ生藥抽匣ニ付スル木札ノ雛形ヲ示シタルモノナリ。

瓶棚ニ並列スル備瓶ノ順序ハ其藥品羅甸名ノアルハバツト順ニ依テ其位置ヲ定ムルヲ其狀恰モ辭書ノアルハバツト順ニ依テ其文字ヲ順列スルカ如シ例令ハ硝酸 Acidum nitricum. 鹽酸 Acidum hydrochloricum. ノ次位ニシテ硫酸 Acidum sulfuricum. ノ上位トス斯ノ如ク定置スルトキハ硝酸ハ常ニ其中間ノ位置ニ在テ他ニ混在スルコトナキカ如シ。

調劑室ニ備フル藥品ノ容器 Standglass. Standing vessel. ハ其大小及口頸ノ廣狹等ニ由リ其形狀ヲ異ニスト雖トモ多クハ硝子器或ハ磁器ヲ用ユ又大容ノ生藥類等ニシテ敢テ

藥品貯蓄容器ノ種別

圖七十第



圖八十第



圖九十第



圖十二第



圖一十二第



密閉器ニ貯フルヲ要セサルモノ、如キハ第十六圖ノ下部ニ示セル匣抽内ニ貯フベシ第十七圖ハ固體藥品ヲ容ルヘキ硝子瓶ニシテ第十八圖ハ液體藥品ヲ容ルヘキ硝子瓶ヲ示シ第十九圖ハ越幾斯類ヲ第二十圖ハ軟膏類ヲ容ル、磁製ノ壺ナリ又越幾斯或ハ軟膏ニアラサルモ之ニ類似スル藥品ニシテ格別密閉器ニ貯フル

ヲ要セサル藥物モ亦第十九圖及ヒ第二十圖ニ示ス壺内ニ貯フルヲ便トスルコトアリ第二十一圖ハ油類舍利別類其他濃稠ノ液體藥物ヲ容ルベキ硝子瓶ニシテ上部ノ帽狀ヲナス者ハ覆蓋栓ノ用ヲナシ其内ニ嘴口ヲ有スル管狀ノ内栓ハ其下部ニ凹溝ヲ有シ藥物ノ逆流口ト傾斜口トノ用ヲナシ使用ノ後其口外ニ附流スル液分ハ再ヒ壺内ニ流下セシム

藥名牋

ヘク構造シタルモノナリ通常之レヲ油瓶ト云フ。

藥名牋 Fillette Paper. ハ藥物ノ種類ヲ明瞭ニ區別センカ爲メニ先ツ毒藥、劇藥、通常藥ノ三種ヲ色別トシテ調製スルヲ要ス即チ其色ヲ黑色及赤色ノ二種トナシ通常藥ノ藥名牋ハ綠劃及ヒ文字ヲ黑色ト爲シ劇藥ノモノハ其綠劃ヲ赤色文字ヲ黑色トナシ毒藥ノモノハ其綠劃及ヒ文字ヲ赤色ト爲シ一目瞭然タル區別ヲ附スルニアリ。

藥名ヲ備瓶ニ明記スルニハ備瓶製造ノ際藥名ヲモ共ニ機附トスルヲ最良トスレトモ本邦ニハ未ダ一般ニ行ハレズ今簡便ニ之ヲ製スルニハ厚キ西洋紙ニ藥名ヲ印刷シタルモノヲ貼付スルカ或ハ藥液ヲ塗布シテ之ニ藥名ヲ筆記スル等ノ法アリ今左ニ一二ノ製法ヲ記スベシ。

(第一) 亞麻仁油ヲ用ルル法 先ツ炭酸鉛ヲ乳鉢ニ研末シ之ニ適宜ノ亞麻仁油ヲ注キ又能ク研和シ次ニ五%ノ白蠟ヲ加ヘ熔和ス此假漆ハ硝子瓶或ハ木札等ニ塗布シテ乾セバ白地ヲ構成ス此白地ニ藥名ヲ記スニ朱字ナラバ亞麻仁油ニ辰砂ヲ研和シ黒字ナラバ煤烟ヲ和合セシ者ヲ用フベシ若シ十分ニ全部乾燥セシ後薄キ「コパルラック」ノ溶液ヲ塗ラバ光澤ヲ呈スベシ。

(第二) 西洋紙ヲ用ルル法 西洋紙ノ適宜綠劃ノ所要ノ藥名ヲ印刷又ハ筆記シ之レニ「ゲラチン」膠ヲ塗リ克ク乾燥セシメ之レヲ「アラビヤゴム」ニテ貼付シ十分ニ乾ハクテ待テ之ニ「ラック」ノ酒精液ヲ塗ルベシ膜面光澤燦然タルベシ。

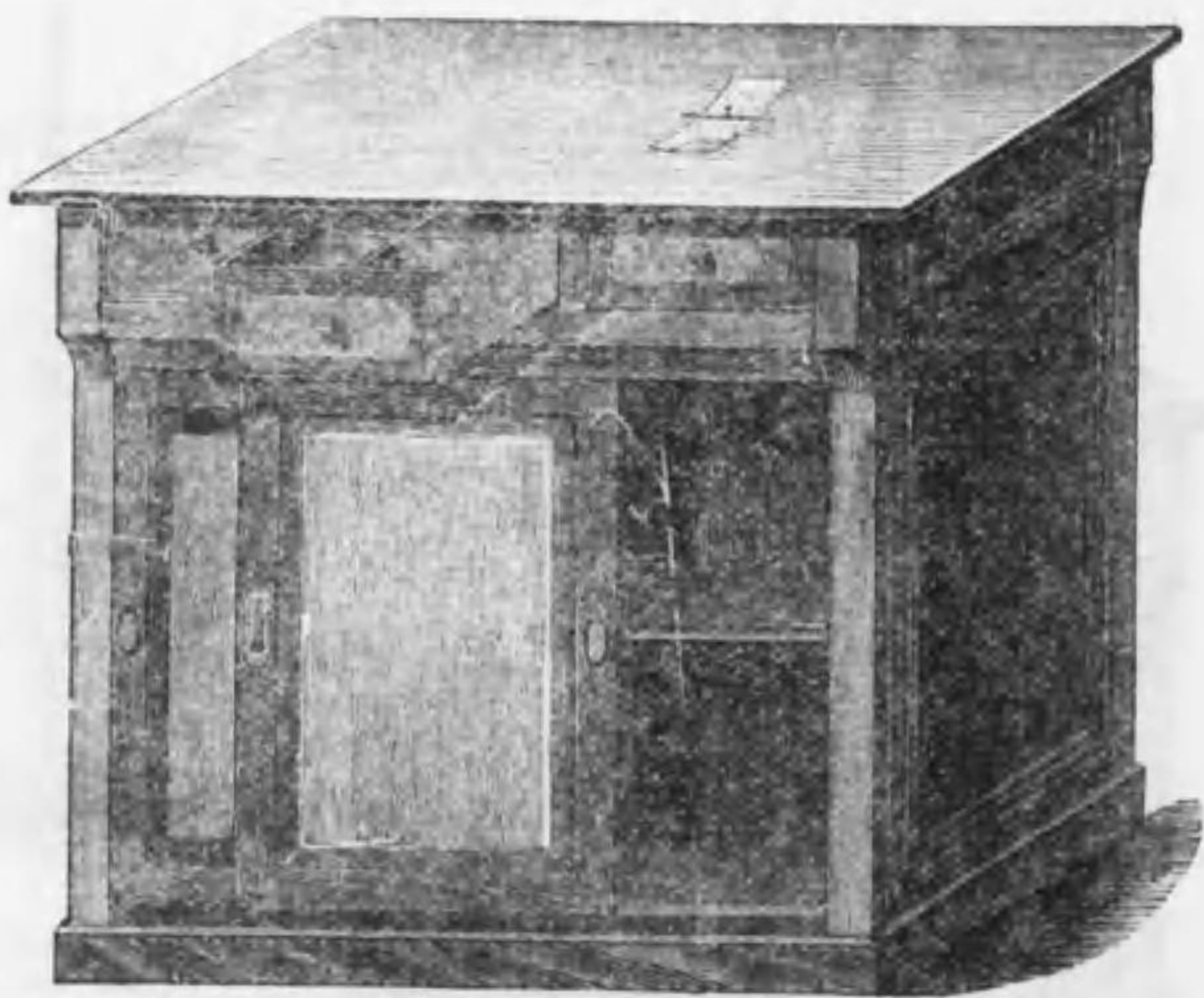
藥名牋ヲ貼付スルトキハ左ノ條件ニ注意スベシ。

- (一) 舊藥名牋ヲ剝離セバ直ニ新藥名牋ヲ貼付スベシ藥名牋ヲ剝離セシ儘ニテ久シク放置スヘカラス。
- (二) 鐵藥罐ハ護謄紙ヲ貼付スヘカラス剝落シ易ケレバナリ「ゲラチン」ノ酒精液ヲ以テ貼付スベシ。

調劑机 Receptirische Prescription Counter. ハ調劑室ノ主要ナル器具ニシテ通常其背側

調劑机

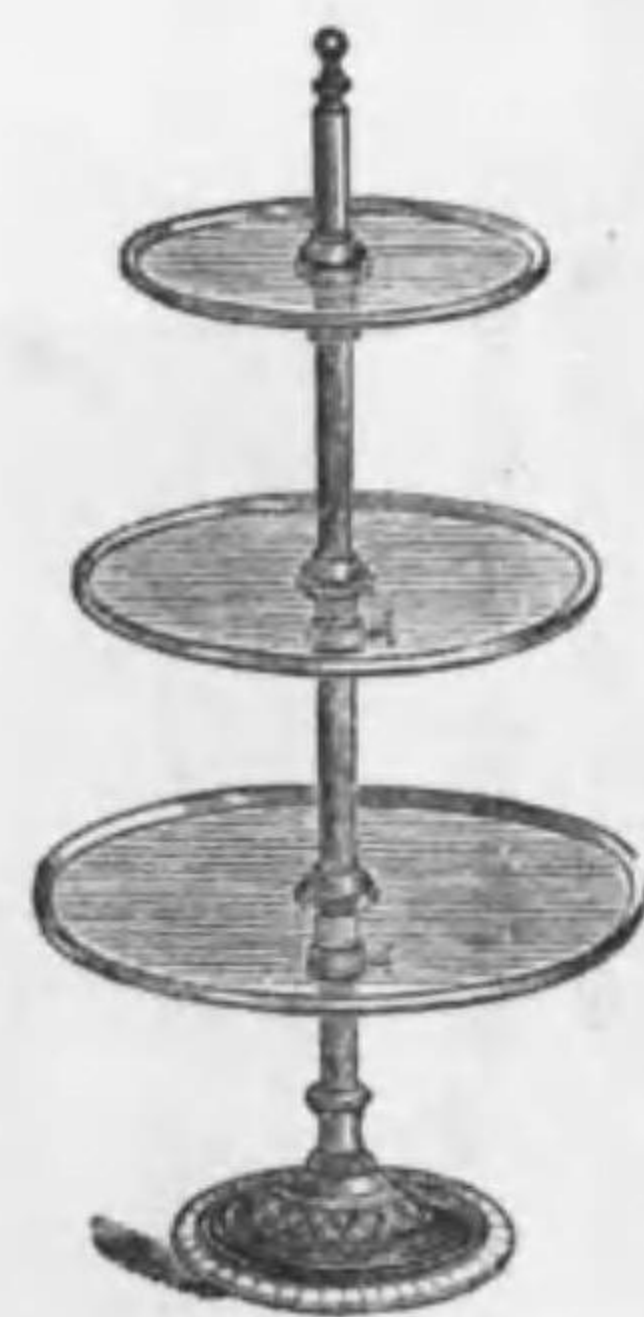
圖 二 十 二 第



横巾三尺五寸 縦巾二尺五寸 高さ二尺八寸
抽匣深サ三寸五分 同横巾八寸

面ニ遮板ヲ屏立セル者ト否ラサル者トノ二種アリ第二十二圖ハ即チ遮板ヲ附セサルモノヲ示セリ其抽匣及戸棚ハ調劑ニ必用ナル種々ノ器具ヲ納ル、ノ用ニ供ス而シテ通常藥ニ使用スル器具ト劇毒藥ヲ取扱フ器具トハ全ク其場所ヲ區別シテ定置スルヲ要シ又液體ヲ扱フ机ト固體ヲ扱フモノトヲ分別スルヲ法トス然シテ此机上ニハ調劑技術ニ要スル器具藥品ノ外一切留置スルヲ許サズ今一旦調劑終レハ直ニ之レヲ元ノ位置ニ復シ平時ハ一物ヲモ茲ニ留ムヘカラス第二十三圖ハ處方箋臺 Receptirgestell. Pres-

圖三十二第



cription Stand. ニシテ一時ニ數多ノ處
方箋幅糎スルトキ其混雜ヲ避クル爲メ
豫メ番號ノ順序或ハ到着ノ順ニ依テ之
ヲ並列シ置キ其順序ニ依リ調劑投與ス
ルノ便ニ供スルモノナリ但シ至急ノ處

書方箋臺

圖四十二第

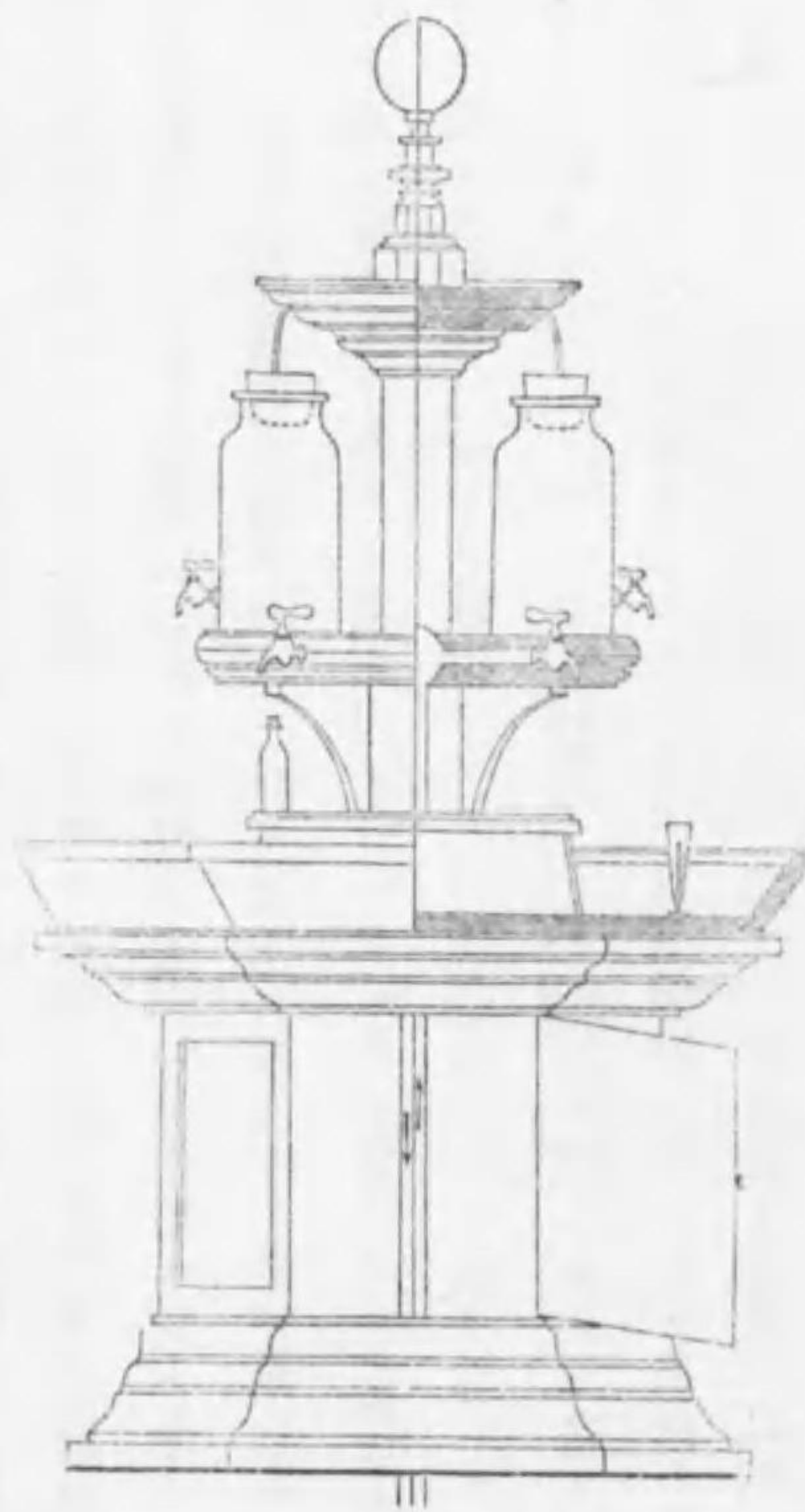


總高サ 四尺五寸 基礎ヨリ角度底迄高サ 三尺七寸 角度ノ下横巾 一尺七寸五分
斜面深サ 九寸 傾斜角 二寸二分 抽匣横巾 一尺四寸 抽匣深サ 三寸

方箋ハ其順序ニ拘ハラズ到着ノ都度最初ノ順序トスベシ第二十四圖ハ既ニ調劑ノ終リ
タル藥劑ニ其用法紙ヲ記貼スベキ書記臺 *Schreibisch. Writingdesk* ノ模型ヲ示ス此形
ハ狹隘ノ藥局ニ於テ使用スルニ適シ即チ一回ニ六人ニテ使用シ得ベキモノナリ机上ノ
中央部ニ洋筆、墨汁、印肉等ヲ裝置シ其抽匣及ヒ戸棚ニハ數種ノ用法紙並ニ藥袋其他之

用水臺

圖五十二第



總高サ 七尺
洗盤直徑 三尺
基礎ヨリ洗盤ノ底迄 二尺五寸
活栓付瓶直徑 五寸五分
同上ノ高サ 一尺二寸

洗盤臺

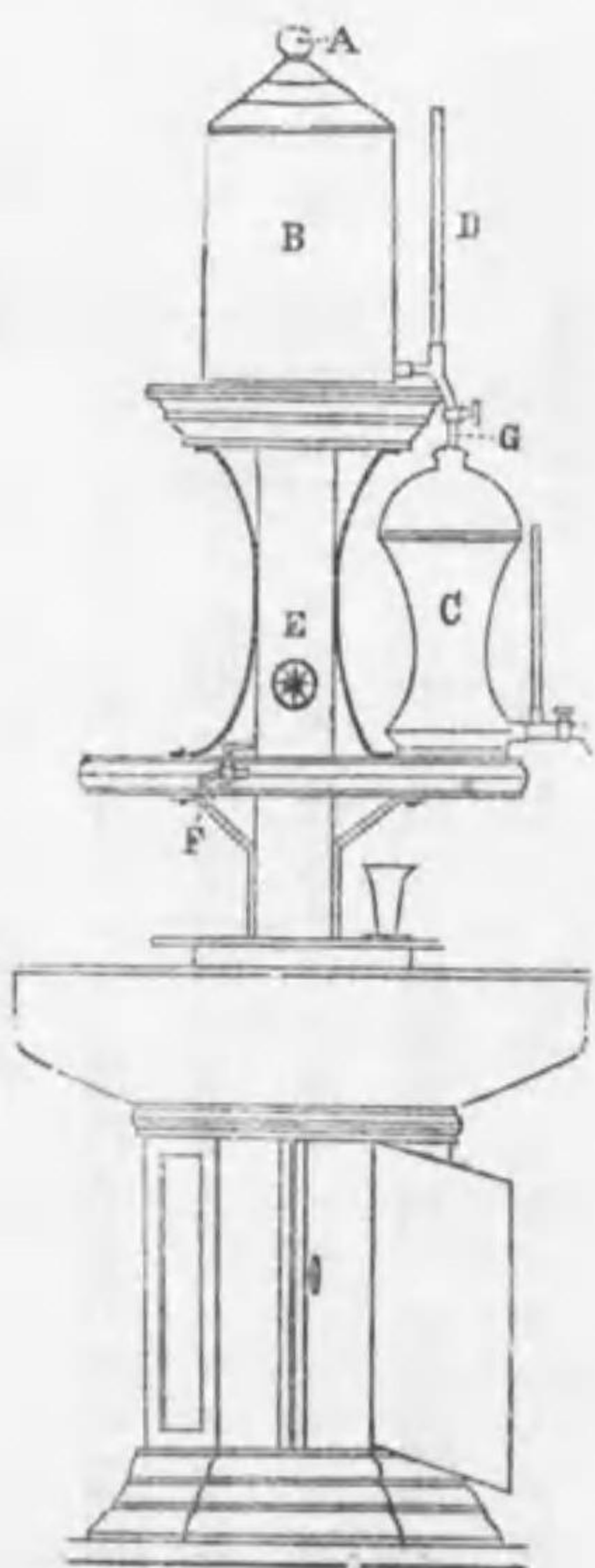
ニ附屬セル諸品ヲ納ル、ノ用ニ供スルモノナリ調劑室ニハ常ニ汚穢ノ器具等ヲ洗滌スル爲メ適宜ノ洗盤 Reinigenstisch. ヲ設ケサルヘカラス 第二十五圖ハ洗盤ヲ具フル用水装置 Wassereinigungsapparat. ニシテ現今醫科大學模範藥局ニ於テ使用セラル、モノヲ示ス圖中右半ハ其縱斷面ヲ示スモノニシテ其上ニ安置セル活栓附硝子瓶ハ既ニ濾過セラレタル淨水ヲ容ル、ノ器ナリ其瓶口ニハ一ツノ誘導管ヲ通セル栓子ヲ以テ密閉ス其誘導管ハ上端ノ球形部ニ通シ其球内ニハ昇汞綿及ヒ「バリト」水ヲ容レタルモノナリ今硝子瓶内ノ水ヲ出サシムルトキハ直ニ純粹ノ空氣(微菌及炭酸ヲ除却セルモノ) 此内ニ流入シ水面ヲシテ常ニ清淨ニ保タシムベキ構造シタルモノナリ又其盤縁ニ現ハル、活栓ハ他ノ高處ヨリ引キ來ル洗滌用ノ水ヲ噴出スル所ニシテ其下部ナル稍々廣キ凹溝ハ即チ洗盤ナリ其下部ニ矢ヲ以テ示シタルハ水ノ昇降ヲ示シタルモノナリ。

通常調劑ニ使用スル水ヲ左ノ三種ニ區別ス第一蒸餾水 Aqua destillata. 第二飲水 Aqua Communis. 第三沸水 Aqua Blasons. 或ハ熱湯 Aqua Ferrens. 之レヲ此執ニテ用ユルカハ處方箋ノ文面ニ依リ或ハ其配伍セル藥品ニ對シ其關係ノ如何ニ依リ之ヲ採用スルヲ要ス。

貯水器ト濾水器トヲ兼テタル洗盤

第二十六圖ニ示スモノハ貯水器 Wasserreservoir. ト濾水器 Wasserfilter. トヲ兼テタル一種ノ用水臺ニシテ其構造ハ臺ノ中心ヲナセル圓柱ノ内部ニ他ノ高處ヨリ流下スル原水ヲ輸上セシムル鐵管即チ導水管ヲ貫通シ「B」器ノ稍上端ニ達ス此「B」及「C」ハ共ニ

第二十六圖



總高サ 七尺三寸
洗盤直徑 三尺三寸
基礎ヨリ洗盤ノ基迄高サ 二尺四寸
B 高サ 一尺八寸
B 直徑 一尺一寸
C 高サ 一尺五寸
C 直徑 九寸

磁製ノ濾過器ニシテ「B」内ニハ濾砂及木炭ヲ容レ「C」内ニハ濾砂及海綿ヲ容ル又「B」ノ底部ヨリ其中心ヲ貫キ上方ニ樹立セル導水鐵管(此圖ニハ見エズ) アリテ其尖端ハ「D」ノ檢水管ト同一ノ高サニ達ス此導水管ノ先端ハ分岐シテ四方ニ屈曲シ之レヨリ原水濾砂ノ上

面ニ噴出スベク構造シタルモノナリ又「B」及「C」ノ右側ニ樹立セル直管ハ硝子製ノ檢水器ニシテ濾過器内ニ含有スル水ノ高低ヲ知ル爲メニ附セルモノナリ又「E」ナル星形鐵輪ハ導水管ヲ自由ニ開閉シ得ベキ活栓ヲ示スモノナリ。今此洗盤ヲ使用セント欲セハ先ツ「E」ナル活栓ヲ開キ之ヨリ原水(他ノ場所ニ於テ一度煮沸シタル後之ヲ高所ニ導キ之ヨリ鐵管ヲ以テ茲ニ通シタル者)ヲ輸上セシメ其水「B」

器内ニ充滿スレハ「E」ヲ閉チ「G」ナル活栓ヲ開キ一度「B」ニテ濾過シタル水ヲ再ヒ「C」器内ニ流入セシメ之レニ充滿スルニ至レハ「G」ナル活栓ヲ閉ツ斯ノ如クニシテ「B」内ノ水減少スルトキハ之ヲ補フ爲メ更ニ「E」ヲ開キ導水管ヨリ原水ヲ輸上セシメ常ニ之ヲ充滿セシムルヲ要ス今「C」器ノ活栓ヲ開ケハ茲ニ二回濾過シタル全ク消毒シタル清淨水ヲ得ヘシ「F」ハ導水管ヨリ支別スル洗滌用ノ原水ヲ噴出スル活栓ナリ「A」ハ單ニ「B」器ノ蓋ニシテ第二十圖ノ如キ吸氣孔ヲ有セサルモノトス。

液量器

液量器 (劃度杯) *Vaschglas, Meterglas.* ハ度目ヲ表劃セル圓筒杯ニシテ上部ノ一方



圖七十二第

ニ傾瀉口ヲ具フルモノナリ此器ハ調劑上單ニ水量ヲ定ムルノ用ニ供スルモノニシテ他ノ液類ヲ斗量スルニ用ユヘカラズ(此器ヲ以テ直チニ販賣ス可キ液類ヲ量ル可カラズ此用ニ供スル液量器ハ別ニ度量衡法ノ制規アリ)然レトモ水ト殆ント同一ノ比重ヲ有スル液體ニシテ格別精密ノ秤量ヲ要セサル場合ニ於テハ或ハ之ヲ適用スルコトアリ。此器ニ大小二種アリテ其小ナルモノハ一グラム乃至二十グラムノ度目ヲ刻シ大ナルモノハ五グラム乃至二百グラムノ度目ヲ刻ス「第二十七圖」ノ度目ハ常溫ニ於テ一

グラムノ重量ヲ有スル蒸餾水ノ占有スル容積ニ據テ刻劃セルモノナリ又一種ノ液量器ニシテ汚量 *Fluidounce* ヲ劃セルモノアリ其度目法ハ一石 *Fluidrachma* ヨリ順次上位ノ量ヲ刻劃スルコト前器ト異ナルコトナシ。

液量器ニハ種々ノ形狀アリト雖モ可及的其直徑短クシテ丈長キモノヲ最良トス即チ深キモノハ淺キモノヨリモ其使用ニ便ニシテ且正確ニ斗量シ得ベシ何トナレバ液量器ノ直徑大ニシテ淺キモノハ其液面廣キカ故ニ斗量ノ際誤テ僅ニ傾斜スルコトアルモ其過、不足ノ量從テ大ナレハナリ即チ其淺キモノヨリ深キモノヲ採用スル所以ニシテ

今此器ノ裏面(度目ヲ畫セサル方)ニ百グラム乃至二百グラムニ一致スル橫線ヲ引キ之レト其液面ヲ平準セシムレハ更ニ正確ノ量ヲ得ベシ。

液量器ヲ使用スルニハ先ツ其器底ノ上部ヲ左手ノ第一二三指ヲ以テ握リ次ニ指ヲ以テ其下面ヲ支ヘ而シテ所要ノ藥瓶ヲ右手ニ持チ左手ノ小指ヲ以テ其栓ヲ抜キタル儘之ヲ保持スルコト第二十八圖ニ示ス

液量器ノ使用法

圖八十二第



熱湯斗

乳鉢

圖九十二第



圖十三第



圖一十三第



如クシ且ツ其要スル度目線ヲ注意シツ、徐々ニ液體ヲ注
 入シ其液面ニ現出スル弦線ノ下面ヲシテ要量ノ度目線ト
 一致セシムルニアリ若シ過量ノ藥液ヲ注入スルコトアル
 モ決シテ其過量分ヲ原容器ニ復スヘカラス是レ純精ノ藥
 液ヲシテ漸次不純トナラシムルモノナリ故ニ若シ此ノ場
 合ニ於テハ其過量分ハ止ヲ得ズ棄捨セザルベカラス。

熱湯斗 *Mensura, Measure*. ハ傾斜口稍、長クシテ嘴狀ヲ
 ナシ一方ニ半環狀ノ持柄ヲ有セル一種ノ液量器ニシテ磁
 製或ハ金屬製ナリ此器ノ度目線ハ其内壁ニ刻劃セラレ且
 ツ其分割度目甚タ大ナレバ固ヨリ精密ノ斗量ヲ望ムベカ
 ラズ只熱湯ノ大量ヲ斗ルノ用ニ供シ得ルノミ其形第二十
 九圖ノ如シ。

乳鉢 *Mortar, Mortar*. ハ研和煉合又ハ研磨搗碎等ノ用ニ
 供スル厚壁堅固ノ器具ニシテ磁製金屬製又硝子製ノモノ
 アリ其形狀ハ殆ント同一ナリト雖トモ使用ノ目的ニ由テ

鐵鉢

乳鉢ノ使用法

圖二十三第



圖三十三第



稍、異ナリトス例之バ液體藥物ヲ扱フニハ第三十圖ニ示ス如キ一方ニ傾斜口ヲ具フルモ
 ノヲ用ヒ之ヲ合劑乳鉢ト云フ其他粉狀藥物ヲ扱フニハ傾瀉口ヲ有セサルモノ所謂散劑
 乳鉢ヲ用ユ又研和混合ニハ多ク磁製ノ乳鉢ヲ供用シ且ツ乳棒ハ稍、太キモノヲ使用スル
 ヲ常トシ煉合搗碎ニハ多ク金屬製殊ニ鐵製ノ乳鉢ヲ供用シ且ツ乳棒ハ稍、長キモノヲ使
 用スルヲ法トス第三十一圖ハ其縱斷面ヲ
 示ス又研和混合ニハ稍、淺キ乳鉢ヲ用ヒ
 煉合搗碎ニハ稍、深キモノヲ用ユルヲ便
 トス總テ乳鉢ノ底面ハ乳棒ノ圓形部ト其
 接觸面克ク適合スルモノニアラザレバ其
 用ヲナサザルモノトス。

乳鉢ヲ使用スルニ當リ
 煉合搗碎ニハ乳棒ノ後
 端ヲ掌中ニ握リ且ツ充
 分ニ力ヲ加ヘ又研和混
 合ニハ其中央ヲ摘持シ

乳鉢ノ種類

輕ク研合スルト同時ニ輪狀ニ研磨スルコト第三十二圖ニ示スカ如シ今乳鉢ヲ使用シタルトキハ直ニ之ヲ洗滌シ克ク乾燥セシメ一定ノ場所ニ復スヘシ。

總テ乳鉢ハ内外用ニ區別スルノミナラズ殊ニ劇毒藥ニ用ユル乳鉢ハ他ノ普通藥ニ用ユル乳鉢ト全ク區別シ置クヲ要ス第三十三圖ハ即チ劇毒藥用、内用及外用乳鉢ヲ區別シ其傍ラニ之ヲ記標セルモノヲ示スモノナリ即チ「い」ハ毒藥用「ろ」ハ内用

「は」ハ外用乳鉢ナリ又色別ヲ以テ區別スルモ可ナリ。

匙) Löffel, Spoon. ハ通常鋪衣シ難キ金屬(例之ハ銀、黃銅、白銅等)或ハ

象牙水牛角等ヲ以テ製シ固形藥物又ハ粉末藥類ヲ取扱フ器ニシテ通常多クハ金屬製ノモノヲ使用スト雖トモ金屬ニ觸レテ分解スル藥物ヲ扱

フニハ牛角又ハ象牙製ノモノヲ使用セザルベカラズ第三十四圖ハ通常使用スル所ノ牛角匙ノ小形ナルモノニシテ其大ナル一方ハ大量ヲ扱フ

ノ用ニ供シ他ノ小ナル一方ハ少量ヲ採ルノ用ニ供スルモノナリ總テ匙ハ可成輕ク取扱ヒ決シテ力ヲ加ヘテ乳鉢ヲ摩擦シ爲ニ不快ノ搔音ヲ發セシム可カラズ

之レ全ク無益ノ惡習ニシテ正格ナル藥劑師ノ最モ忌ム可キ條件トス而シテ其用終レハ直ニ布片或ハ紙片ヲ以テ能ク清拭シ一定ノ場所ニ復スヘシ然レトモ其用ニ臨ミ尙ホ一

第三十四圖



匙及其使用法

筥及其使用法

回清拭シテ之ヲ使用スルヲ法トス。

筥 Spatel, Spatula. ハ通常鋼鐵製ニシテ越幾斯類・軟膏劑・硬膏劑及丸劑煉合等ノ如キ稠度柔軟ノ物質ヲ取扱フ器具ニシテ若シ之レニ觸レテ分解スルノ恐レアル物質ニハ特ニ

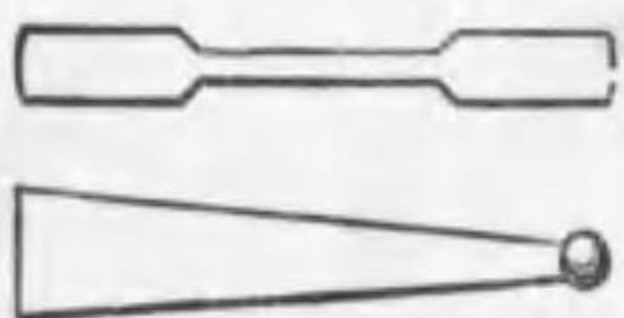
牛角象牙又ハ竹ヲ以テ製シタルモノヲ供用ス其形狀ハ各大同小異ナリト雖トモ通常硬固ニシテ粘着性ヲ有スル物質ヲ扱フニハ其質

剛強ナルモノヲ可トシ又柔軟ニシテ粘着性ニ乏シキ物質ヲ扱フニハ薄弱ニシテ特ニ彈力ヲ有スルモノヲ良トス第三十五圖ハ丸劑用

筥ノ模形ヲ示スモノニシテ第三十六圖ハ膏劑用ノ筥ヲ示スモノナリ通常越幾斯筥ト稱スルモノハ膏劑用ノモノヨリ稍小形ニシテ且

ツ剛強ナルモノヲ云フ總テ筥ヲ使用シタル後ハ直ニ布片或ハ紙片ヲ以テ能ク之ヲ清拭シ一定ノ場所ニ復スヘシ又之ヲ使用スル際ハ更ニ

第三十五圖



第三十六圖



清拭スルコトヲ怠ルベカラズ。

藥劑ノ容器 (Cedase, Vessel) ハ硝子製、磁製、木製又ハ紙製等アリテ各大小數種ヲ備ヘ

容器ノ種類

投藥瓶

サルヘカラス通常ノ藥劑ヲ容ル、ニハ無色硝子瓶ヲ用ヒ又光線ニ觸レテ變質スル藥物ハ着色瓶即黑色若クハ褐色ノモノヲ用ユ又軟膏劑ヲ容ル、ニハ磁製瓶ハ硝子製ノ壺若クハ廣口硝子瓶又ハ木製ノ曲物等ヲ供用スヘシ然レトモ柔軟性軟膏等ノ如キ半流動體ノ藥物ヲ容ル、ニハ特ニ密閉スヘキ容器ヲ要スベシ第三十七圖ニ示スモノハ合劑及ヒ其他ノ液體藥物ヲ容ルヘキ硝子瓶ニシテ通常之ヲ投藥瓶ト云フ此形ハ無線ノモノナレ

圖七十三第



圖八十三第



トモ或ハ其外壁ノ一部ニ平等ノ分服量ヲ示ス爲メ數條ノ横畫線ヲ附スルモノアリ之レ服用ノ際頗ル便宜ナルコトアリ然レトモ瓶壁ニハ自カラ厚薄アリテ其分割線常ニ均一ナラザレバ其服量ノ精密ヲ要スル場合ニハ或ハ却テ之ヲ不便トナスコトアリ故ニ今之レニ正確ノ分割線ヲ附セント欲セバ先ツ該瓶ニ就キ其底ヨリ上部ノ液面ニ至ル迄ノ高サニシテ且ツ要スル所ノ分割線ヲ平等ニ引キタル一紙片ヲ其外側ニ貼附スルニアリ又投藥瓶ニ藥劑師ノ姓名若クハ堂名等ノ文字ヲ畫出スルコトアリ

藥瓶ノ洗滌法

是レ自家ノ名稱ヲ普ク世上ニ發表スルノ利益アルノミナラス若シ其用法紙ヲ破損スルガ如キ場合ニ於テハ或ハ其藥劑ニ信用ヲ置カシムルノ便法トナルベシ。

凡ソ藥瓶ヲ洗滌スルニハ先ツ之ニ細小ノ砂粒ヲ投シ且ツ少許ノ水ヲ注キ克ク振盪シテ瓶ノ内壁ニ附着スル不潔物ノ悉ク洗滌セラル、ニ至リ其砂粉ヲ排出シ淨水ヲ以テ尙再三洗滌シ乾燥器内若クハ此目的ヲ以テ構造セル穿孔板ニ倒架シテ完ク其水分ヲ去ラシメ然ル後テ其用ニ供スベシ。

藥包紙

第三十八圖ハ磁製ノ壺ニシテ通常軟膏劑ヲ容レ投與スルニ用ユ第三十九圖ハ硝子製ノ壺ニシテ其口少シク狹隘ナルヲ以テ丸藥錠劑若クハ砥劑ノ如キ藥劑ヲ容レ投與スルニ適ス第四十圖ハ散劑丸劑或ハ錠劑等ヲ容ルヘキ紙質或ハ木製ノ圓形盒子 *Scatula rotunda*. ニシテ圖ノ如ク其蓋ヲ深ク冠ラシメタルモノナリ。

圖九十三第

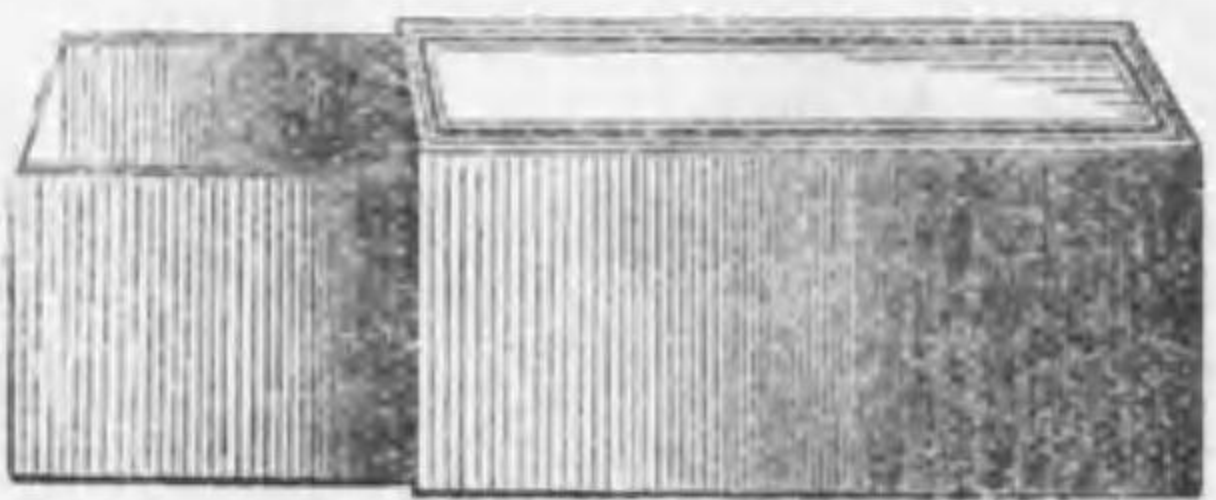


圖十四第



ナリ通常其質緻密ニシテ且ツ其面滑澤ヲ呈スルモノヲ最良トシ其大サハ大約幅四寸長五寸ノモノヲ適當トス又別ニ揮發性ノ物質又ハ濕氣ヲ含有スルモノ若クハ濕潤シ易キモノ

圖一十四第



圖二十四第



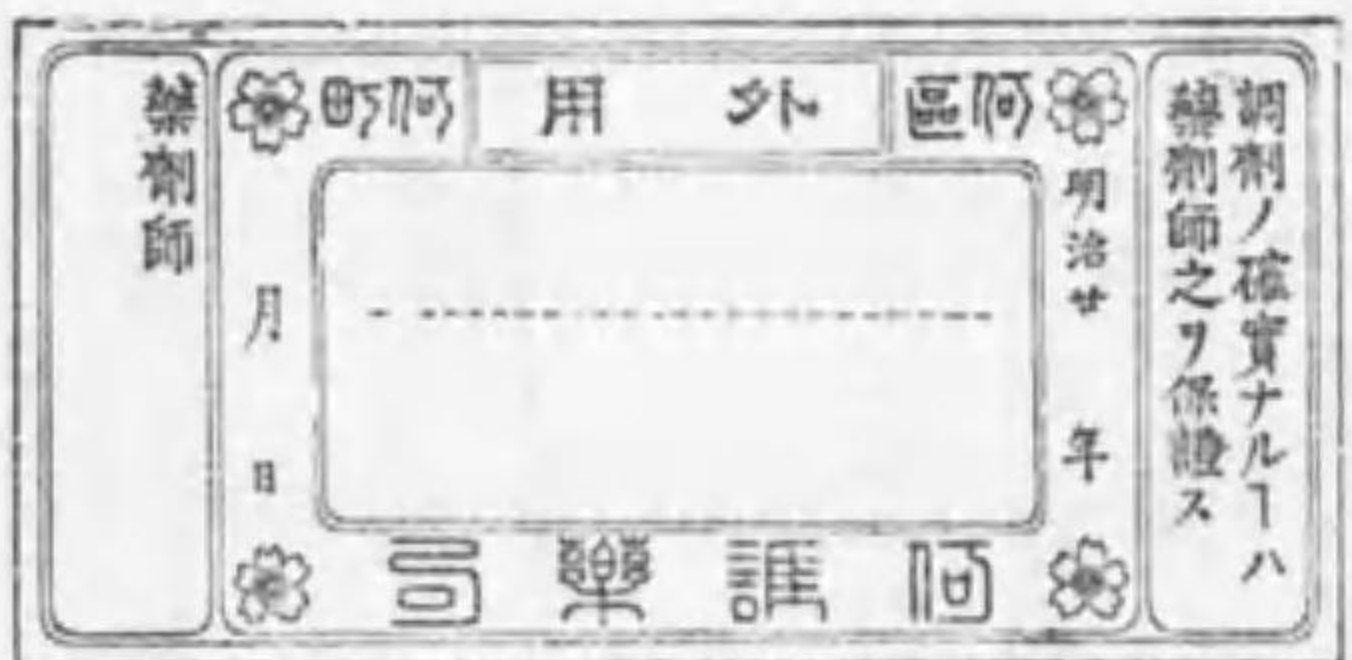
蠟紙、巴拉實紙
 包ムニハ蠟紙 *Charta cerata*。或ハ巴拉實紙 *Charta paraffinata*。ヲ供用ス又異種ノ藥物タルヲ知ラシムル爲メ特ニ着色紙ヲ用フルコトアリ例之ハ沸騰散ヲ與フルニ重炭酸ナトリウムヲ藍色紙ニ包ムガ如シ總テ藥包紙ハ薄キニ過ギス又厚キニ過ザル適宜ノ厚度ヲ有スルモノ即チ被包シ易キモノヲ撰用セザルベカラズ角形盒子 *Scatula anguli*。ハ散藥ノ分包セルモノ或ハ用法紙ヲ貼附シ能ハサル小容器又ハ坐藥等ヲ容ルヘキ覆裝ニシテ之ニ大小數種アリ第四十一圖ニ示スモノハ稍大形ナル紙製ノ角形盒子ニシテ其内

藥袋

用法紙

用法紙ノ貼附法

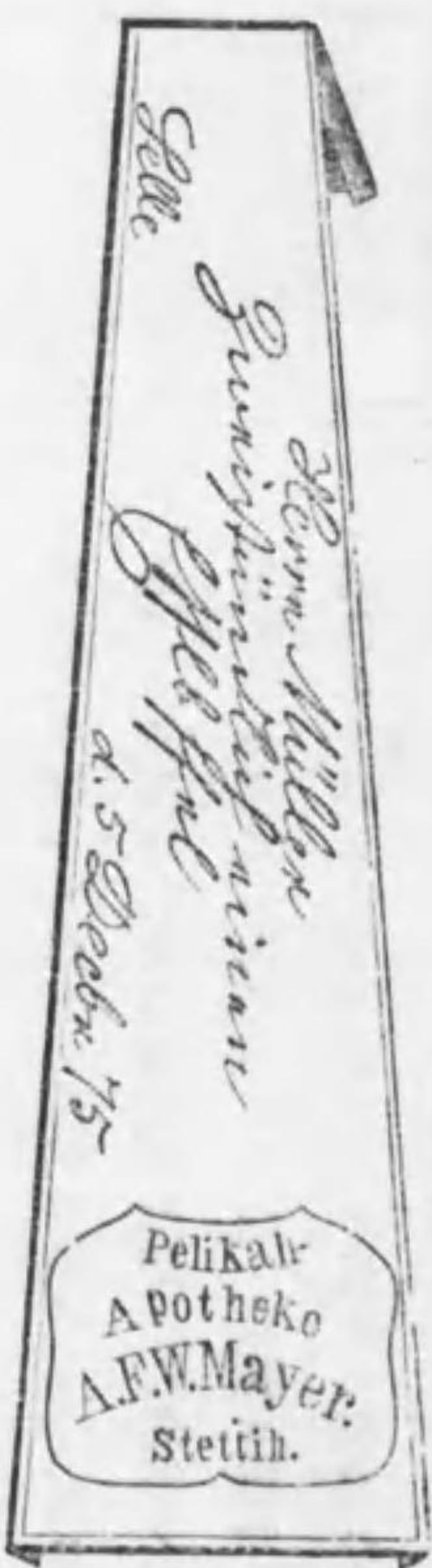
圖三十四第



部ノ半ヲ示シタルモノナリ。
 藥袋 *Saccus, Sack*。ハ紙質ヲ以テ製シタル封筒様ノ外裝ニシテ角形ノ盒子ト其用全ク同一ナリ唯盒子ニ比スレハ其形稍單簡ナルノミ其表面ニハ患者ノ姓名藥劑ノ用法及藥劑師ノ宿所姓名等一々丁寧ニ書スルヲ法トス第四十二圖ハ花草ヲ以テ飾彩ヲ附セル藥袋ノ雛形ニシテ通常色別ヲ以テ其内外用ヲ區別シ其中間ノ空所ハ藥劑ノ用法用量及患者ノ姓名等ヲ記入スル所トス。

用法紙 *Charta Signaturae*。ハ處方箋ニ記載セル藥物ノ用法ヲ患者ニ知ラシメンガ爲メ種々ノ容器ニ貼附スヘキ方形若クハ長方形ノ紙片ニシテ其容器ノ種類ニ從ヒ大小數種ヲ備ヘザルベカラス而シテ先ツ内用藥ト外用劑トノ區別ヲ明瞭ニ掲ケ其下ニ患者ノ姓名藥劑ノ用法、用量、調劑ノ年月日藥局ノ所在地名及藥局名藥劑師ノ姓名等ヲ記載スベシ其他患者ヲシテ尙ホ内外用ノ區別ヲ容易ニ認知セシメンカ爲メ其色別ヲ以テ之ヲ區別スルヲ良トス例之ハ青色ノモノヲ内用劑トシ赤色ノモノヲ外用劑トナスガ如シ而シテ之ヲ種々

圖四十四第



ノ容器ニ貼
附スルニハ
通常其藥瓶
ノ中央ヨリ
稍上部ニ
貼附スルヲ

例トス第四十三圖ハ即チ外用藥ノ容器ニ貼附スヘキ長方形ノ用法紙ニシテ其所要ノ記
入ヲナスヘク豫メ印刷シタルモノヲ示スモノナリ又外國ニ行ハル、合劑ノ用法紙ハ其
形短冊狀ニシテ覆胃ト共ニ瓶口ニ締結スルモノナリ第四十四圖ノ如シ。
又氣候ニ依リ藥物ノ變性ヲ防クガ爲メ或ハ藥瓶ヲ冷水中ニ貯フルコトアリ然ルトキハ

圖五十四第



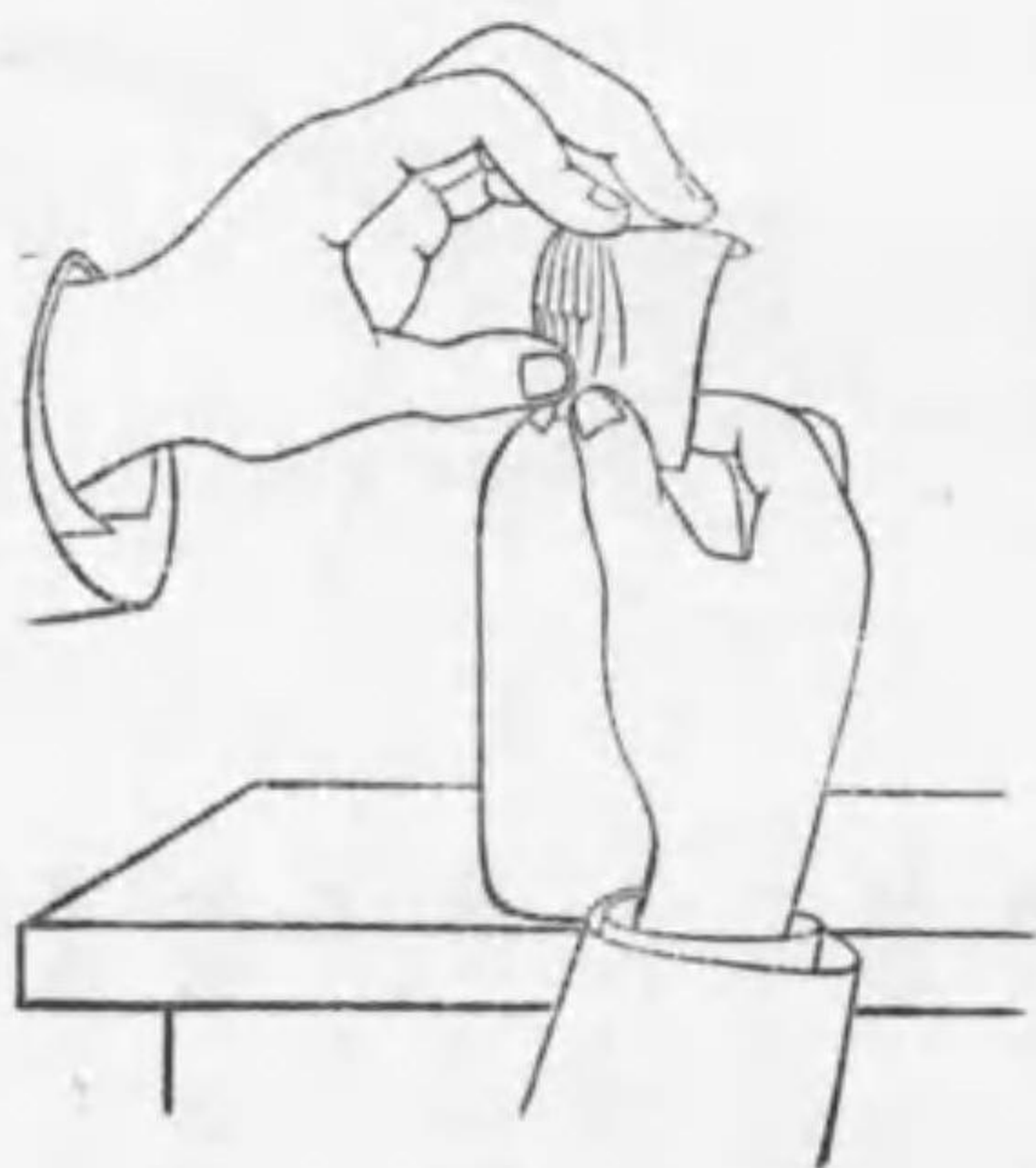
木札又ハ厚紙札例之ハ「ボール」ニ用法紙ヲ貼付シタ
ルモノ等ヲ以テ用法紙ニ代ユルヲ便トス即チ適宜大
ノ木札等ニ患者ノ姓名及其用法等ヲ明記シ之ヲ瓶口
ニ締結シ投與スルニアリ又病院ノ入院患者投藥ニモ
此法ヲ用ユルコトアリ。

覆胃

覆胃ノ被覆紙

封緘

圖六十四第



圖七十四第



覆胃 Tektur. ハ容器ノ栓塞部ヲ被覆スル封裝ニシテ通常表層ニ着色紙ヲ用ヒ下層ニ巴
拉賓紙ヲ敷キ絲ヲ以テ之レヲ瓶口ニ結締シ其絲ノ切端ニ封蠟ヲ熔着シ其上ニ緘印ヲ捺
スモノナリ第四十五圖ハ
用法紙ヲ貼附シタル合劑
瓶ニ覆胃ヲ附シタル狀ヲ
示スモノニシテ第四十六
圖ハ紙片ヲ以テ瓶口ヲ被
覆スル狀態ヲ示スモノナ
リ又此ノ如キ覆胃ノ手數
ヲ省キ重ニ封緘ノミヲ主
トスル場合ニ於テハ單ニ
一葉ノ封印紙ヲ其栓塞部
ニ貼附スルヲ便法トナス
ベシ第四十七圖ハ乃チ其封緘紙ノ模形ヲ示スモノニシテ是亦内外用ヲ色別トナシ其用
法紙ノ色ト同一ナラシムルヲ要ス。

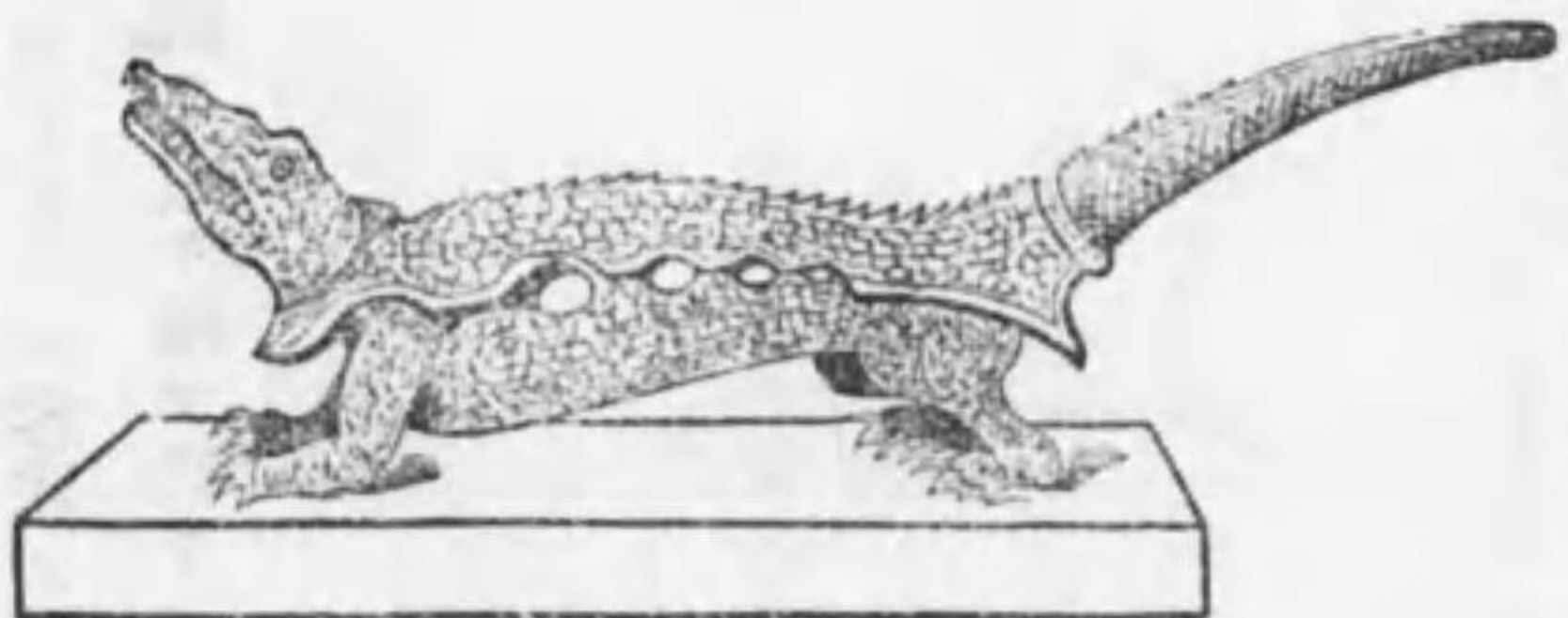
(獨) Mixturen.
(英) Mixtures.
(佛) Potions.

各論

合劑 Mixturen.

合劑トハ二味以上ノ藥物ヲ水液中ニ相混溶シタルモノ、總稱ニシテ其賦形水ニハ通例常水又ハ蒸餾水ヲ用ユルカ故ニ或ハ之ヲ水藥ト云ヒ單ニ一味ノ藥物ヲ水ニ溶解シタルモノ即溶液劑モ亦之レニ屬スルモノトス通常合劑トナスベキ藥物ハ主トシテ水ニ溶解スベキ諸種ノ鹽類越幾斯類丁幾類或ハ舍利別類等ヲ多シトス然レトモ此等ノ數種ヲ同時ニ水中ニ相混溶スルトキハ多少ノ化學的變化ヲ起シ又其混合セラレタル藥物ノ種類ニ依リテハ其交換分離ニ因テ一種ノ有毒性物質ヲ化成スルコトアリ之レ藥劑師ノ嚴密ニ注意ヲ要スルモノトス然レトモ其化生無害ニシテ處方ノ目的ヲ害セズ且ツ外觀上格別ノ障礙ナキモノ又ハ調劑技術ニ由テ多少其變化ヲ防止シ得ベキモノニ在テハ可成之ヲ調劑投與スルヲ

第四十八圖



合劑ノ調製法

合劑ノ調製法順

例トス。

凡ソ合劑ヲ製スルニハ先ツ少量ノ藥物ヨリ秤量シテ漸次多量ノモノニ及スベシ蓋シ少量ニ用ユル藥物ハ通常主要ノ効力ヲ有スルノミナラズ尙ホ斯ノ如クセサレバ秤器ノ感動ヲ害スルノ恐アレハナリ今配伍藥ヲ全ク混合シ終レハ先ツ明朗ノ場所ニ向テ之ヲ透見シ其混液ノ清澄ナルヤ否ヲ點スヘシ若シ其液中ニ浮遊物等ヲ混スルトキハ速ニ之ヲ濾過シタル後壓栓器^注Korkdrucker. (第四十八圖)ヲ以テ柔ラケタル木栓ヲ以テ密閉シ之ヲ掌上ニ顛倒シテ振盪スルモ完ク水滴ヲ洩スコトナキヲ認メタル後直ニ用法紙ヲ貼附シテ覆胃又ハ封緘紙ヲ裝附スルニアリ左ニ一般合劑ノ範典トシテ數種合劑ノ處方例ヲ掲ケ且ツ之ヲ羅甸文ニ譯シ初學者ノ溫習ニ資スベシ。

合劑處方例
橫文處方例

○處方
ヨードカリウム 11.0
苦味丁幾 11.0
單舍利別 15.0
蒸餾水 180.0
右混和シ與フ
用法毎二時一食匙宛
右ノ合劑ヲ製スルニハ先ツ少量ノモノ即チヨードカリウムニグラムレナ秤リ適宜大ノ合劑瓶ニ投入シ之ニ苦味丁

Rp.
Kali Jodati 3.0
Tincturae amarac 3.0
Sirupi simplicis 15.0
Aquaee destillatae 180.0
M. D.
S. 2 Stundlich einen Esslöffel.

各論 合劑

横文處方ノ解

糖三グラム及單舍利別十五グラムに加入シ次に餾水百八十グラムに注加シテ振盪混和スルニアリ繁忙ノ藥局ニ於テハ倍量ノ「ヨードカリウム液ヲ豫製シ置き合劑調製ノ便ニ供スルコトアリ。

茲ニ羅甸文ノ本式ヲ示シカ爲メ横文處方例ヲ附加シタリ今其大要ヲ説明スレハ先ツ横文處方箋ノ全文ヲ大別シ上記 Inscriptio. 處方文 Prescriptio. 下記 Subscriptio. ノ三部ト爲ス上記トハ患者ノ姓名、年齢等ノ記載ヲ云ヒ處方文トハ藥名分量調劑法服用法等ノ記載ヲ云ヒ下記トハ處方ノ年月日醫師ノ氏名等ノ記載ヲ云フ歐米諸國ニ於テハ處方文ヲ書スルニ羅甸語ヲ以テシ其用法紙ニ記スヘキ文字ヲ書スルニ各々國語ヲ以テスルナ法トス茲ニ譯セル用法ハ獨逸人ニ授與スル處方ト見做シ獨逸語ヲ以テ記載セリ以下之ニ倣フ而シテ其始端ニ書スル R. P. ナル文字ハ Recipe. ノ略ニシテ取レヨト云フ命令詞ナリ又各藥名ヲ記スルニハ第二格ヲ以テシ其分量ハ第四格ヲ以テス即チ何藥ノ幾グラム、ミチ取レ、ヨト云フ義ナリ又一種ノ藥物ノミチ處方スルトキハ其末端ニ D. S. ノ二字ヲ記シ數種ヲ混合スルトキハ M. D. S. ノ三字ヲ記ス即チ M. H. Misco. 混合セヨト云フ義ナリ又 D. S. 與テ S. H. Signa. 記セヨナル命令詞ノ略ナリ又何劑ト爲スヘキヲ記ストアリ例之ハ M. F. Pillula. 混和シテ丸劑ニ爲セヨ M. F. Pillula. 混和シテ散劑ニ爲セヨ等ノ如シ即チ F. H. M. 爲セヨナル命令詞ノ略ナリ尙卷尾附録ノ條ニ於テ詳述スヘシ。

右ノ方法ニ據テ調製シ得ヘキ合劑處方ノ數例ヲ掲ケ實地演習ノ便ニ供スベシ。

溫習スヘキ處方

- 例
- | | | | |
|----------|-------|--------|-------|
| ブロームカリウム | 六・〇 | 硝酸カリウム | 七・〇 |
| 顯草丁幾 | 四・〇 | 海葱丁幾 | 三・〇 |
| 桂皮舍利別 | 二〇・〇 | 橙皮舍利別 | 二〇・〇 |
| 常水 | 一七〇・〇 | 水 | 一五〇・〇 |
- 右混合シ與フ
- 用法一日三回二日分服

- | | | | | | |
|-------|--------------|-------|-----|------------|-------|
| 〇處方 | サリチール酸ナトリウム | 四・〇 | 〇處方 | 硫酸マグネシウム | 三〇・〇 |
| | 薄荷精 | 二・〇 | | 稀鹽酸 | 二・〇 |
| | 水 | 一〇〇・〇 | | 薑根舍利別 | 二〇・〇 |
| | 右混和シ與フ | | | 水 | 一五〇・〇 |
| | 用法朝夕二回ニ分服 | | | 右混和シ與フ | |
| 〇處方 | レゾルチン | 一五・〇 | 〇處方 | カル、ス泉鹽 | 一〇・〇 |
| | メルガモツト油 | 一滴 | | 苦味丁幾 | 二・〇 |
| | 水 | 三〇〇・〇 | | 水 | 一〇〇・〇 |
| | 右混和二十倍液ト記シ與フ | | | 右一日三回分服 | |
| 用法 外用 | | | 〇處方 | 流動ベール越幾斯 | 二〇・〇 |
| 〇處方 | アンチピリン | 二・〇 | | ヒロス丁幾 | 三・〇 |
| | 重炭酸ナトリウム | 三・〇 | | 阿片丁幾 | 十二滴 |
| | 苦味丁幾 | 三・〇 | | 單舍利別 | 一五・〇 |
| | 單舍利別 | 一五・〇 | | 水 | 一七〇・〇 |
| | 水 | 八〇・〇 | | 右一日三回宛二日分服 | |
| | 右一日三回宛二日分服 | | | | |

○處方	二・〇
ルブシン	一・〇
稀鹽酸	五〇・〇
ホルト酒	一五〇・〇
水	
右一日三回二日分服	
○處方	五・〇
吐根丁幾	八・〇
杏仁水	一五・〇
橙皮舍利別	一八〇・〇
水	
右二日量一日四回分服	
○處方	一〇・〇
尿素	一・〇
ストロファンツス丁幾	八・〇
單舍利別	一〇〇・〇
水	
右一日三回二分服	
○處方	四・〇
醋酸カリウム	一五・〇
單舍利別	八〇・〇
水	
右一日四回二分服	
○處方	二〇・〇
赤葡萄酒	一〇・〇
單舍利別	四〇・〇
水	
右一日數回分服	
○處方	三・〇
重碳酸ナトリウム	二・〇
苦味丁幾	一〇・〇
大黃舍利別	一〇〇・〇
水	
右一日三回分服	
○處方	二〇滴
過クロール鐵液	五・〇
グリセリン	一〇〇・〇
水	
右一日三回二分服	
○處方	六〇〇・〇
肝油	六〇〇・〇

化學的變化ヲ起スヘキ合劑ノ製法

總テ合劑ヲ調製スルニ當リ其配伍セル藥物ノ性質ニ由リ混和ノ順序若クハ混液ノ濃薄或ハ溶解ノ難易等ニ注目セサル可ラス若シ此等ノ方法ニシテ其當ヲ得サルトキハ其配伍藥或ハ分解ヲ起シ又ハ沈澱ヲ生成シ相互ノ混和ヲ得サルコトアリ例之ハ金屬鹽類ト粘漿性藥物或ハ「タンニン酸」ト植物鹽基類ヲ配伍スル場合ノ如キハ直接ニ之ヲ混合スレバ忽チ分解又ハ化合シテ水ニ不溶解ナル膠狀塊或ハ沈澱ヲ生スルコトアリ殊ニ注意ヲ要スベキハ植物鹽基ヲ配伍シタル處方ニシテ若シ不注意ノ調劑ニ由リ沈澱物ヲ生成シタルモノヲ投與スルトキハ之ヲ服用スルニ當リ患者ハ素ヨリ其何物タルヲ辨セサルカ故ニ始メ上清液ノミヲ内服シ終リニ全有効分タル沈澱物ヲ一時ニ服用シ爲メニ不慮ノ危害ヲ蒙ルノ恐ナシトセズ故ニ斯ノ如キ合劑ノ處方ニ接スルトキハ先ツ其賦形水ノ一部ヲ以テ各藥ヲ溶解シ稍稀薄トナシタル後相混合スベシ然ルトキハ或ハ其化合分解等ヲ減少シ得ベシ例之ハ

アルゼンフェラトール	二五・〇
單舍利別	八・〇
水	一〇〇・〇
右一日三回二分服	

右一日三回二分服
右ノ處方チ手ニシタル時ハ燒ノ一小片ヲ稱取シ之レニ肝油ノ一定量即チ〇・一%ニ相當スル量ヲ加ヘ微温ヲ與ヘ溶解シ後前記ノ處方ニ用ユルモノトス

同上處方ノ例

同上ノ製法

例 溫習スヘキ處方

○處方
 醋酸鉛 〇・11
 阿片丁幾 11・0
 橙皮舍利別 110・0
 蒸餾水 180・0
 ○右混和シ與フ

用法毎二時一食匙宛

之ヲ調製スルニハ醋酸鉛〇・2グラムヲ秤取シ先ツ賦形水ノ半量ヲ以テ之ヲ溶解シ別ニ阿片丁幾二・0グラム及橙皮舍利別二・0グラムヲ秤取シ賦形水ノ他ノ半量ヲ加ヘテ稀薄シタル後兩液ヲ混和スヘシ。

右ノ方法ニ依テ調製スベキ合劑ノ處方例ハ左ノ如シ。

○處方
 過クロール鐵液 11・0
 阿片丁幾 1・0
 アラビアゴム 30・0
 水 150・0
 右混和シ與フ
 用法毎時半食匙宛

○處方

Rp.
 Plumbi acetici 0,2
 Tincturae Opii simplicis 2,0
 Sirupi Aurantii Corticis 20,0
 Aquae destillatae 180,0
 M. D.
 S. 2. Stündlich 1 Esslöffel.

○處方
 硝酸ストリキニーネ 〇・11
 水製大黃丁幾 10・0
 桂皮舍利別 20・0
 水 150・0
 右混和シ與フ

○處方

阿片丁幾 11・0

番木甞丁幾 3・0
 重碳酸ナトリウム 7・0
 大黃舍利別 20・0
 常水 150・0
 右混和シ與フ

用法一日三回宛二日分服

○處方

林檎鐵丁幾 3・0
 重碳酸ナトリウム 3・0
 苦味丁幾 2・0
 水 95・0
 右一日三回食後分服

○處方

鹽酸モルヒネ 〇・〇1
 重碳酸ナトリウム 2・0
 龍膽丁幾 2・0
 橙皮舍利別 8・0
 水 90・0
 右一日三回分服

右一日三回分服

タンニン酸 〇・5
 桂皮舍利別 20・0
 常水 180・0
 右混和シ與フ

用法一日六回一食匙宛

○處方

吐根丁幾 1・0
 杏仁水 4・0
 アムモニア茴香精 2・0
 水 100・0
 右一日六回分服

○處方

キナ丁幾 2・0
 醋酸カリウム 8・0
 單舍利別 8・0
 水 90・0
 右一日三回分服

右一日三回分服

○處方	
重炭酸ナトリウム	三・〇
鞣酸	一・〇
鹽酸モルヒネ	〇・〇一
水	一〇〇・〇
右一日三回分服與二日分	
○處方	
重炭酸ナトリウム	三・〇
鹽酸コカイン	一・〇
大黃舍利別	一〇〇・〇
水	一〇〇・〇
右一日三回分服	
○處方	
シギタリス丁幾	二・〇
赤葡萄酒	二〇・〇
單舍利別	八・〇
水	七〇・〇
右一日四回分服	
○處方	
ウワウルシ浸	二〇〇・〇
アンチセリン	三・〇
蕃木鹽丁幾	一・五
單舍利別	一五・〇
右一日三回二日分服	
○處方	
吐根丁幾	四・〇
シギタリス丁幾	四・〇
稀鹽酸	二・〇
單舍利別	一五・〇
水	八〇・〇
右一日三回二日分服	
○處方	
重炭酸ナトリウム	三・〇
阿仙藥丁幾	四・〇
單舍利別	八・〇
水	一〇〇・〇
右一日三回分服與二日分	

樹脂質ヲ含有スル酒精液ノ合劑

樹脂質又ハ之ニ類スル物質ヲ含有スル酒精液例之バ印度大麻丁幾、瘡瘡木丁幾等ヲ合劑ト爲スニハ其配伍藥中ニ舍利別ヲ含ムトキハ先ツ之レト能ク乳鉢内ニ研磨シタル後徐々ニ賦形水ヲ注加スルニアリ若シ舍利別ノ配合ナキトキハ全量ノ賦形液中ニ其丁幾ヲ滴加シ振盪シツ、之ヲ混和セシムヘシ然ルトキハ其樹脂質細分セラレテ能ク水液中ニ混和セシメ得ヘシ若シ又著シク多量ノ樹脂質ヲ含有スル藥物ニシテ前方法ニ據ルモ尙ホ樹脂質ヲ浮遊シ到底均同ノ混和ヲ得サルトキハ其藥物ニ對スル等分ノ「アラビアゴム末ト共ニ之ヲ乳鉢内ニ研磨シタル後漸々ニ賦形液ヲ注加シ混和セシムルノ法ヲ採ルベシ然ルトキハ樹脂質ヲシテ能ク水液中ニ密和セシメ得ヘシ例之バ

同上處方ノ例

○處方	
印度大麻丁幾	一五・〇
葦苈丁幾	三・〇
橙皮舍利別	一五・〇
水	一八〇・〇
右混和投與、用法毎時半食匙宛	
Rp.	
Tincturae Cannabis indicac	2,0
Tincturae Scopoliae	3,0
Sirupi Aurantii Corticis	15,0
Aquae	180,0
M. D. S. Stündlich ½ Esslöfifel.	

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ印度大麻丁幾二グラム、橙皮舍利別一五グラム、乳鉢内ニ研磨シ後之レニ葦苈丁幾三グラム、水一八〇・〇グラムヲ加ヘタルモノヲ振盪シツ、徐々ニ注加スルカ或ハ初メ葦苈丁幾及橙皮舍利別ヲ印度大麻丁幾ト乳鉢内ニ研磨シタル後水ノ全量ヲ振盪シツ、注加スルニアリ。

温習スヘキ處方ノ例

右ノ方法ニ據テ調製スヘキ處方例ハ左ノ如シ。

○處方
 薄荷水 五・〇
 蘆薈木丁幾 一五・〇
 茴香油糖 一八〇・〇
 常水

右混和シ與フ
 用法毎時一食匙宛

○處方
 阿魏丁幾 各五・〇
 繡草丁幾 二〇・〇
 桂皮舍利別 一五〇・〇
 水

右混和投與一日六回宛二日分服

○處方
 ロベリア丁幾 各五・〇
 阿片安息香丁幾 二〇・〇
 アルテア舍利別 七〇・〇
 水

右混和一茶匙ツ、

○處方
 蘆薈丁幾 各一・五
 ヤラツバ丁幾 七・〇
 大黃舍利別 九〇・〇
 水

右混和シテ其倍量ヲ與フ
 用法一日二回宛二日分服

○處方
 重碳酸ナトリウム 三・〇
 ヤラツバ丁幾 二・〇
 單舍利別 八・〇
 水 一〇〇・〇

右一日三回分服

○處方
 プロームカリウム 三・〇
 杏仁水 各四・〇
 安息香丁幾 一〇〇・〇
 水

右混和シ與フ

越幾斯類ノ合劑

越幾斯類ヲ合劑ト爲スニハ其越幾斯若シ乾燥製ナレハ直ニ秤量シ先ツ之ヲ乳鉢ニ投シ
 克ク細粉トナシタル後先ツ少量ノ賦形水ヲ滴加シテ研和シツ、舍利別様ノ稠度ニ至ラ
 シメ然ル後徐々ニ殘餘ノ賦形水ヲ加ヘテ稀薄スルニアリ然レトモ其越幾斯若シ軟稠又
 ハ硬稠ノモノナルトキハ其秤量容易ナラス此場合ニ於テハ先ツ之ヲ越幾斯匱ニ取リ巴
 拉賓紙ヲ用ヒテ秤取シ之ヲ乳鉢ニ取リ少量ノ賦形水ヲ滴加シテ研和シ舍利別狀ノ稠度
 トナシタル後徐々ニ殘餘ノ賦形水ヲ加ヘテ稀薄スルニアリ又流動越幾斯ナルトキハ其
 調劑容易ナルカ故ニ直ニ之ヲ秤量シテ他ノ配藥伍及賦形水ト混和セシメ得ベシ總テ越
 幾斯ヲ配伍スル合劑中ニ他ノ藥物殊ニ酒精製劑ヲ混合スルニハ可及的稀薄シタル後ニ
 於テナスベシ若シ稀薄スヘキ賦形水ノ配伍ナキトキハ先ツ其越幾スト同量乃至倍量ノ
 水ヲ附加シ然ル後之ト混和スベシ例之ハ

○處方
 ミルラ丁幾 四・〇
 阿仙藥丁幾 四・〇
 薄荷水 五〇・〇
 右混和口中洗滌料

○處方
 プロームカリウム 六・〇
 繡草丁幾 五・〇
 カストリウム丁幾 一・〇
 餾水 五〇・〇

右毎半日三十滴宛頓服

同上ノ處方例

○處方
 莨菪越幾斯 0.1
 杏仁水 10.0
 セネガ合劑別 110.0
 水 150.0
 右混和シ與フ

用法一日六回宛二日分服

Rp.
 Extracti Scopoliae 0,1
 Aquae Pruni armeniacae 10,0
 Sirupi Senegae 20,0
 Aquae 150,0
 M. D.
 S Täglich 6 mal, für 2 Tage zu nehmen.

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ先ツ莨菪越幾斯〇・一グラムヲ巴拉賓紙上ニ秤取シ之ヲ乳棒ノ先端ニ附着セシメ先ツ少許ノ賦形水ト共ニ乳鉢内ニ研磨シツ、均等ニ混溶シタル後徐々ニ殘餘ノ賦形水ヲ加ヘテ稀薄シ豫メ杏仁水一〇グラム及ヒ「セネガ合劑別二〇グラム」ヲ秤入セル合劑瓶中ニ注加シテ尙一回賦形水ヲ乳鉢ニ注キテ其内壁ニ附着スル越幾斯分ヲ充分洗滌シ再ヒ合劑瓶中ニ注加シテ賦形水ノ全量百五十グラムトナルニ至ルマテ水ヲ加フニアリ。

麻酔性越幾斯、ヒヨス越幾斯等ノ如キハ豫メ一定ノ溶液ト爲シテ備フルコトアリ此溶液ハ便宜上三倍用ニ製シ或ハ五倍用ニ作ルコトアリト雖モ通常十倍用ニ調製スルヲ便宜トス今其調製法ヲ示スコト左ノ如シ。

麻酔性越幾斯 十分
 酒 精 十五分
 グリセリン 十五分
 蒸餾水 六十分

例 溫習スヘキ處方
 豫製麻酔性越幾斯ノ製法

右混和シテ密閉器中ニ貯フ此豫製越幾斯ハ酒精及グリセリンレナル防腐藥ヲ含有スルモ餘リ久時ニ過クヘカラス凡ソ所用ノ繁緩ニ由リ其適宜量ヲ製シ置クヘシ而シテ其藥名等ニハ十倍用何々越幾斯溶液 Extractum N. N. Sol.

utrum 10 plura. ト記載スヘシ。

右ノ方法ニ據リ調製スヘキ處方例ハ左ノ如シ。

○處方
 硼砂 各五・〇
 甘草越幾斯 二〇・〇
 アルテア合劑別 一七〇・〇
 水 右混和シ與フ
 用法毎二時一食匙宛

○處方

ヒヨス越幾斯 一・〇
 杏仁水 一〇・〇
 エーテル精 二〇・〇
 右混和投與
 用法毎二時十滴宛

○處方

アコニツト越幾斯 〇・五
 醋酸アムモニウム 〇・五
 蒸餾水 五・〇
 右混和一日三回五滴乃至十滴宛

各論 合劑

○處方

莨菪越幾斯 〇・三
 アムモニア茴香精 二・五
 水 一五・〇
 右每三時十乃至廿滴宛

○處方

キナ越幾斯 八・〇
 設利酒 一二〇・〇
 橙皮丁幾 八・〇
 單合劑別 一五・〇
 右混和每三時一食匙宛

○處方

麥角越幾斯 二・〇
 タンニン酸 一・〇
 桂皮合劑別 二〇・〇
 蒸餾水 一八〇・〇
 右混和シ與フ
 用法一日六回宛二日分服

○處方

王水 一・〇
 蒲公英越幾斯 一・〇
 單舍利別 一五・〇
 水 二〇〇・〇

右混和一日三回宛二日分服

○處方

サギタリス越幾斯 〇・二
 覆盆子舍利別 一〇・〇
 水 一〇〇・〇

右一日數回分服

○處方

稠厚牛膽 一〇・〇
 桂皮水 一五〇・〇
 甘硝石精 五・〇
 薑根舍利別 二五・〇

右混和每時一食匙

○處方

コンゲユランゴ越幾斯 二・〇
 橙皮舍利別 三〇・〇
 蒸餾水 一八〇・〇

右混和一日四食匙宛

エーテル製或ハ酒精製ノ樹脂質越幾斯例之ハ綿馬越幾斯又ハ柘榴根皮越幾斯等ノ合劑
 ハ水ニ溶解セサルヲ以テ之レト同量乃至倍量ノ「アラビアゴム末ト共ニ乳鉢中ニ研磨シ
 テ充分密和スルニ至リ漸々ニ賦形水ヲ加ヘテ一定量トナスニアリ例之ハ

○處方

綿馬越幾斯 五・〇
 アラビアゴム末 一〇・〇
 薄荷水 一〇〇・〇

○處方

柘榴根皮越幾斯 八・〇
 薑根舍利別 一五・〇
 水 一〇〇・〇

酒精加水製越幾斯ノ合劑

右混和シ與フ

用法一時間ヲ隔テ二回ニ頓服ス

酒精加水製越幾斯例之バ「ヒヨス越幾斯、大黃越幾斯、莨菪越幾斯等ノ如キ水及酒精ヲ以テ製シタル越幾斯類ハ強酒精ニ溶解セサルヲ以テ之ニ逢フトキハ暗褐色ノ不溶分ヲ析出スルガ故ニ豫メ半量乃至同量ノ水ヲ以テ越幾斯ヲ溶解シ爾後酒精若クハ丁幾劑ヲ加ヘ混和スベシ爰ニ越幾斯ヲ溶解スルニ用タル水量ハ若シ賦形水ノ配伍アルトキハ之ヨリ減却スベシ假令バ

○處方

ヒヨス越幾斯 二・〇
 罌草丁幾 二・〇
 エーテル精 二〇〇・〇

右混和シ與フ

用法口授

○處方

莨菪越幾斯 一・〇
 酒精 三・〇
 蒸餾水 一五・〇

右混和酒精トシテ與フ

用法口授

キニーネ鹽ノ合劑

キニーネ鹽類ヲ合劑ト爲スニハ其溶否ニ注意セサルベカラス硫酸キニーネ「ハ水ニ溶解シ難シト雖トモ特ニ酸類ノ配伍アルトキハ之レカ爲メ其溶解頗ル容易ナルベシ然レトモ處方中酸類ノ配伍ナキ場合ニ於テハ通常之ト同量以下ノ稀硫酸又ハ稀鹽酸ヲ加ヘテ

溶解セシムルヲ例トス即チ先ツ「キニーネ鹽ヲ合劑瓶ニ取り凡ソ二十倍量ノ賦形水ヲ混加シタル後適宜ノ酸ヲ加ヘテ振盪シ溶解セシムルニアリ又之レニ他ノ藥物殊ニ「アルカリ性ノ物質ト甘草越幾ストヲ直ニ混和セシムルトキハ化學的變化ヲ起スヘキ恐レアルヲ以テ先ツ之レヲ稀薄シタル後相混スベシ例之ハ

○處方

醋酸カリウム	八・〇
鹽酸キニーネ	一・〇
單舍利別	二〇・〇
水	一七〇・〇

右混和シ與フ
用法一日三回宛二日分服

○處方

硫酸キニーネ	一・〇
稀硫酸	一・〇
甘草越幾斯	八・〇
常水	一九〇・〇

右混和投與
用法毎二時一食匙宛

ヨードノ合劑

ヨードノ合劑ハ其處方ニ「ヨードカリウム」ノ配伍アルトキハ先ツ之ト共ニ合劑瓶ニ取り少量ノ水ヲ加ヘ振盪シテ溶解セシムヘシ然レトモ其配伍セラレタル「ヨードカリウム」ノ最僅少ニ過クルトキハ該ヨードヲ全ク溶解スルコト能ハサルカ故ニ其量常ニ「ヨード」ノ倍量ナラサルベカラス然レトモ其處方ニ「ヨードカリウム」ノ配伍ナキ場合ニ於テハ凡ソ十倍量ノ白糖末ト共ニ乳鉢内ニ研磨シ漸々賦形水ヲ混和シテ製スベシ而シテ

白糖末一分ニ換フルニ單舍利別一・五分ヲ以テスルモ可ナリ例之ハ

○處方		○處方	
ヨード	〇・〇五	ヨード丁鹽	七滴
ヨードカリウム	〇・一	單舍利別	一〇・〇
蒸餾水	一〇〇・〇	蒸餾水	二〇〇・〇
右混和投與		右混和シ與フ	
用法口授		用法一日三回分服	
○處方		○處方	
ヨード	〇・一	ヨード	〇・〇五
ヨードカリウム	〇・二	白糖	五・〇
肝油	五〇・〇	薄荷水	一〇〇・〇
右混和一日二回一食匙宛		右溶和シ與フ用法口授	

振盪合劑

振盪合劑 *Schüttelmixtur*, *Shakingmixture*. トハ不溶解性若クハ僅カニ溶解性ヲ有スル藥物ヲ以テ製シタル一種ノ合劑ニシテ之ヲ製スルニハ先ヅ其不溶解物ヲ有口乳鉢ニ取り克ク研磨シ初メ賦形液ノ少量ヲ加ヘテ尙ホ研磨シツ、漸々殘餘ノ賦形液ヲ注加シテ稀薄シタル後之ヲ合劑瓶ニ傾瀉スルニアリ然レトモ暫時之ヲ靜置スルトキハ其不溶解分ハ瓶底ニ沈降スルヲ以テ克ク振盪シテ服用ニ供スルモノナリ例之ハ

同上ノ方處例

○處方
 重酒石酸カリウム 二〇・〇
 硝酸カリウム 八・〇
 香木甙丁幾 二・〇
 單舍利別 二〇・〇
 水 一五〇・〇

右混和シ與フ
 用法一日三回振盪シテ一食匙宛

同上ノ製法

温習スヘキ處方例

右ノ方法ニ依テ調製スヘキ處方例ハ左ノ如シ。

○處方
 サリチール酸 一・〇
 苦味丁幾 二・〇
 アルテア舍利別 七・〇
 水 九〇・〇

右混和シテ其三倍ヲ與フ
 用法一日三回宛三日分服

Rp.
 Kalii Bitartrici 30,0
 Kalii Nitrici 8,0
 Tincturae Strychni 2,0
 Sirupi simplicis 20,0
 Aquae 150,0
 M. D.
 S. 3mal täglich auf die Schüttelung
 2 Esslöfel.

○處方
 次硝酸蒼鉛 三・〇
 芳香阿片酒 二・〇
 薑根舍利別 一五・〇
 サレップ漿 一八〇・〇

右混和シ與フ
 用法一日三回二食匙宛

○處方
 黃連越幾斯 五・〇
 水 一〇〇・〇
 右一日三回分服

○處方
 アンチフェグリン 〇・三
 桂皮舍利別 五・〇
 水 三〇・〇
 右振盪シテ頓服

○處方
 吐根末 〇・四
 ヒヨス越幾斯 〇・三
 單舍利別 一〇・〇
 水 一〇〇・〇
 右每二時一食匙

○處方
 炭酸マグネシウム 八・〇
 重炭酸ナトリウム 四・〇
 蒸餾水 一二〇・〇
 右一日三回分服

○處方
 假製マグネシア 八・〇
 大黃丁幾 七・〇
 橙皮舍利別 一五・〇
 蒸餾水 一五〇・〇
 右混和シ與フ
 用法一日六回宛振盪シテ二分分服

○處方
 ザロール 三・〇
 苦味丁幾 三・〇
 單舍利別 一五・〇
 水 二〇〇・〇
 右二日三回分服

○處方
 次硝酸蒼鉛 五・〇
 阿片丁幾 〇・五
 單舍利別 八・〇
 水 一〇〇・〇
 右一日三回分服

漿劑

○處方
 カスカラサグラダ越斐斯
 單舍利別 一〇〇〇
 水 一五〇〇
 右一日三回二日分服

○處方
 金硫黃 〇・三
 ヒヨス越斐斯 〇・五
 單舍利別 一〇〇〇
 水 一〇〇〇
 右每二時二茶匙宛

○處方
 石松子末 六〇〇
 橙皮舍利別 一〇〇〇
 水 九〇〇
 右每二時一食匙宛服用振盪スヘシ

○處方
 酒石英 四〇〇
 水 三〇〇
 右頓服

漿劑 Mucilago ハ「アラビアゴム・サレップ根・澱粉・トラガ、ンタ等ノ如キ粘液質ヲ含有
 スル藥物ヲ水液中ニ糊化セシメタル濃漿液ニシテ之ヲ調製スルニハ先ツ其藥物ヲ煎劑
 鍋ニ取り一定量ノ冷水ヲ注加シテ重湯煎上ニ温メ攪拌シツ、溶解シ或ハ其藥物ノ粉末
 ヲ取り少量ノ熱湯ニ加ヘテ強ク混攪シタル後他ノ熱湯ヲ漸々注加シテ攪拌シツ、均等
 ノ粘漿ト爲スモ可ナリ而シテ通常サレップ漿及トラガ、ンタ漿ハ其藥物ノ一分ヲ以テ百
 分ノ漿ヲ製シ又澱粉漿ハ其藥物ノ二分ヲ以テ百分ノ漿ヲ製シ楡梓漿ハ楡梓仁二分水百
 分ヲ以テ製スルヲ例トス又アラビアゴム漿ハ日本藥局方ノ規定ニ從ヒ五十倍ニ調製ス
 ヘシ漿劑ノ製法ハ殆ンド煎劑ニ類スルヲ以テ往々處方箋ニハ「サレップ煎或ハ澱粉煎ト

記スルコトアリ例之ハ

○處方
 サレップ煎(サレップ漿) 一八〇〇
 林檎酸丁幾 五〇〇
 橙皮舍利別 一五〇〇
 右混和シ與フ
 用法一日三回宛二日分服

○處方
 アラビアゴム漿 三〇〇
 阿片丁幾 一〇〇
 右頓服

○處方
 トラガ、ンタ 一〇〇〇
 次硝酸砒鉛 一〇〇
 サレップ香阿片酒 八〇〇
 アルテマ舍利別
 右一日三回分服用時振盪スヘシ

○處方
 楡梓漿 五〇〇
 薔薇水 五〇〇
 右一日三回分服

○處方
 澱粉漿(澱粉煎) 一〇〇〇
 次硝酸砒鉛 一〇〇
 單舍利別 一〇〇
 右混和シ與フ
 用法振盪シテ每二時二茶匙宛

○處方
 カラゲーン 一〇〇
 杏仁水 五〇〇
 セ子ガ舍利別 一五〇
 水 一五〇
 右爲漿劑一日四回二日分服

○處方
 イスラント苦 一五〇
 白糖 五〇〇
 水 二〇〇
 右爲漿劑後
 メラドンナ丁幾 二〇
 扁桃水 五〇
 ヲ加ヘ混和シ與フ用法口授

リモナーデ

○處方
アラビアゴム漿 一〇〇〇
ヨアイゼン(10%) 三〇〇
單舍利別 一〇〇〇
右混和シ與フ
用法一日三回分服

○處方
サレツプ漿 一〇〇〇
芳香阿片酒 二〇〇
單舍利別 八〇〇
右一日三回分服

リモナーデ Limonade. Lemonade. トハ糖分ヲ含有スル酸性飲料ノ通稱ニシテ元來檸檬實ヲ絞搾シテ得タル津液ニ砂糖及水ヲ調和シテ製造シタルモノナリ然ルニ近來ハ種々ノ鑛酸類ヲ以テ簡易ニ之ヲ調製シ又之ニ「リモナーデ」ノ名稱ヲ附シ汎ク醫療上ニ應用スルニ至レリ例之ハ

リモナーデ
處方例

○處方
鹽酸リモナーデ 三〇〇〇
右投與
用法一日六回二分服

○處方
枸橼酸リモナーデ 二〇〇〇
枸橼油 一滴
右混和シ與フ
用法一日數回二分服

○處方
磷酸リモナーデ 三〇〇〇
赤葡萄酒 三〇〇
右混和シ與フ
用法一日數回二分服

○處方
硝酸リモナーデ 二〇〇〇
薄荷水 三〇〇
右一日三回二分服

リモナーデ
製法

通常リモナーデトシテ醫療上ニ常用セラルモノハ左ノ數種ナルガ故ニ茲ニ其製法ヲ示スベシ。

○鹽酸リモナーデ
稀鹽酸 一〇〇
單舍利別 三〇〇
水 一七〇〇
右混和ス

○枸橼酸リモナーデ
枸橼酸 一〇〇
單舍利別 三〇〇
水 一七〇〇
右混和ス

○酒石酸リモナーデ (佛國局方)
酒石酸 一〇〇
單舍利別 一〇〇〇
蒸餾水 九〇〇〇
右混和ス

○磷酸リモナーデ
磷酸 二〇〇
單舍利別 三〇〇
水 一七〇〇
右混和ス

○硝酸リモナーデ (佛國局方)
稀硝酸(10%) 二〇〇
單舍利別 一二五〇
蒸餾水 八七五〇
右混和ス

○硫酸リモナーデ (佛國局方)
稀硫酸(10%) 二〇〇
單舍利別 一二五〇
蒸餾水 八七五〇
右混和ス

揮發性藥物ヲ合劑ニ加フル注意

リモナーデ又ハ他ノ合劑ニ揮發油或ハ其酒精溶液ノ少量ヲ加フルコトアリ此場合ニ於テハ先ツ揮發油等ヲ舍利別ト混和シタル後徐々ニ水ニ加フハシ然ルトキハ著シク油滴ヲ浮遊スルコトナシ且ツ可成溫熱ヲ避ケ又ハ攪拌濾過等ヲ爲スベカラス。

大結晶ノ鹽類合劑

鹽類ヲ合劑ト爲スニ當リ細小ノ結晶或ハ粉末狀ヲナセルモノ例之ハ礬砂・醋酸カリウム・サリチール酸ナトリウム等ノ如キハ之ニ水ヲ加ヘテ振盪スレハ容易ク溶解スヘシト雖トモ巨大ノ結晶ヲナセル者ニシテ稍々溶解シ難キモノ例之ハ磷酸ナトリウム・酒石酸カリウムナトリウム・硫酸ナトリウム等ノ如キハ先ツ之ヲ乳鉢ニ取り克ク研末シ少量ノ水ヲ加ヘテ猶ホ研磨シ漸々ニ賦形水ヲ注加シテ溶解スヘシ或ハ始メ之ヲ熱湯斗ニ取り之ニ熱湯ヲ注加シテ攪拌シ溶解セシムルモ亦可ナリ然レトモ賦形液少量ニシテ其溶解度ニ超過スルトキハ一度其温熱ノ爲メニ溶解セラレタルモノ冷後再ヒ結晶ヲ析出スルモノナレバ凡ソ鹽類ヲ水ニ溶解スルニハ先ツ其溶解量ニ注目セサルヘカラス今若シ溶解スヘキ水量ノ不足ニシテ之ヲ全ク溶解シ能ハサル場合ニ於テハ其他和溶液ニ至ル迄水ヲ増加スヘシ又數種ノ鹽類ヲ同一ノ液中ニ溶解シ或ハ鹽類ヲ含有スル液中ニ之ヲ溶解スルトキハ單純ノ水ヨリモ多量ニ溶解スルコトアリ之レ可溶性ノ復鹽或ハ酸性鹽ヲ生成スルニ因ルヘシ今調劑上屢々應用セラル、諸鹽類ノ常温ニ於テ「百グラム」ノ水中ニ溶解スヘキ分量ヲ示スベシ。

百分ノ水中ニ溶解スル鹽類ノ分量

炭酸アムモニウム	三三・三	ヨードカリウム	一二五・〇
礬砂	三三・三	炭酸リチウム	一・〇
硝酸銀	五〇・〇	硫酸マグネシウム	五〇・〇

礬砂	六・〇	鹽酸モルヒネ	五・〇
鹽酸キニート	三・〇	酒石酸カリウムナトリウム	三七・〇
硫酸キニート	〇・一三	クロールナトリウム	三三・〇
硫酸銅	三〇・〇	磷酸ナトリウム	三三・〇
昇末	五・〇	重碳酸ナトリウム	六・〇
醋酸カリウム	一〇〇・〇	硝酸ナトリウム	五〇・〇
硝酸カリウム	二〇・〇	磷酸鉛	五〇・〇
硫酸カリウム	七・〇	クロール亞鉛	二五〇・〇
ブロームカリウム	八〇・〇	硫酸亞鉛	三七・〇

總テ鹽類ヲ水ニ溶解スルトキハ常ニ多少ノ混濁又ハ塵埃ヲ浮遊スルカ故ニ大概之ヲ濾過セザルヘカラス之ヲ以テ屢々合劑ト爲スベキ鹽類ニアリテハ毎回其溶解及濾過等ノ手數ヲ省ク爲メ豫メ之ヲ一定ノ溶液トナシ濾過シテ貯フルヲ便トス今之ヲ製スルニハ一定量ノ鹽類ヲ採リ之レニ蒸餾水ヲ加ヘテ溶解濾過シ之ヲ藥名牋上ニ明記シ其容器ニ貼付スルニアリ通常左ノ割合ヲ以テ製スルヲ便トス。

- (1) 醋酸カリウム溶液
 二倍用 〓 五十プロセント
 Kalium aceticum solutum.
 Santatur 2 plum. = 50%
- (2) ブロームカリウム溶液
 三倍用 〓 三十三・三プロセント
 Bromum kalium solutum.
 Santatur 3 plum. = 33.3%

鹽類ノ豫製溶液

- (3) Kalium bromatum Solutum. Sumatur 3 plum. = 3.3%
クロール酸カリウム溶液 二十倍用 = 五プロセント
- Kalium chloricum Solutum. Sumatur 30 plum. = 5%
ヨードカリウム溶液 二倍用 = 五十プロセント
- (4) Kalium iodatum Solutum. Sumatur 30 plum. = 50%
硝酸カリウム溶液 五倍用 = 二十プロセント
- (5) Kalium nitricum Solutum. Sumatur 5 plum. = 20%
硫酸マグネシウム溶液 二倍用 = 五十プロセント
- (6) Magnesium sulfuricum Solutum. Sumatur 2 plum. = 50%
重炭酸ナトリウム溶液 二十倍用 = 五プロセント
- (7) Natrium bicarbonicum Solutum. Sumatur. 20 plum. = 5%
クロールナトリウム溶液 五倍用 = 二十プロセント
- (8) Natrium chloratum Solutum. Sumatur 5 plum. = 20%
硫酸ナトリウム溶液 五倍用 = 二十プロセント
- (9) Natrium sulfuricum Solutum. Sumatur 5 plum. = 20%

飽和劑 Saturaciones. *Salvaciones.*

(獨) Saturationen.
(英) Saturations.
(佛) Saturations.

飽和劑ハ炭酸鹽類ト酸類殊ニ有機酸類トヲ中和セル一種ノ合劑ニシテ殆ント「アルカリ性及酸性ヲ消失シ其液中ニハ茲ニ化成セル有機酸鹽ヲ溶解シ且ツ遊離セル炭酸ノ一部ヲ飽有スルモノナリ之ヲ供用スルノ目的ハ通常此遊離炭酸ヲ主トスルモノナレハ調製ノ際注意シテ可成炭酸ノ逃散ヲ防クヘシ即之ヲ調製スルノ際温熱ヲ與ヘ若クハ振盪攪拌或ハ濾過等ヲナスヘカラス。

總テ飽和劑ヲ調製スルニハ先ツ稍々大ナル器中ニ炭酸鹽類ヲ取り之ヲ可及的多量ノ賦形液中ニ溶解シ極メテ輕ク振盪シツ、液狀或ハ粉末トナセル酸類ヲ徐々ニ投加シテ之ヲ飽和セシムルニアリ今其分量ヲ知ラント欲セハ相互ニ中和スヘキ分子量ニ依テ算出スルヲ得ヘシ而シテ之ニ他ノ藥物ノ配伍アル場合ニ於テハ先ツ其配伍藥ヲ液狀或ハ粉末トナシ本劑ノ全ク飽和シテ其揚泡終了スルノ後ニ於テ靜カニ之ヲ附加スヘシ又飽和劑ヲ投與スル際ニハ常ニ之ヲ冷所ニ靜置スヘキ旨ヲ諭示スヘシ例之ハ

○處方

重炭酸カリウム	五・〇	Kalii bicarbonici	5.0
稀醋酸	適宜	Acidi acetici diluti	q.s.

同上ノ製法

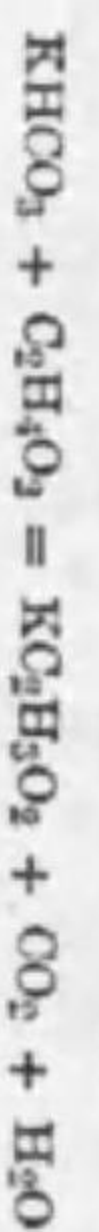
重炭酸カリウム
五グラムニ對
スル稀醋酸ノ量
ヲ算定スル式

右混和シテ一八〇・〇ト爲シ
海葱丁幾 五・〇
橙皮舍利別 一五・〇
右混和シ與フ
用法毎三時ニ食匙宛

Ad perfectam Saturatinem 180,0
Ade
Tincturae Scillae 5,0
Simplicium Auranti Corticis 15,0
D. S, 3 Stundlich 2 Esslöffel.

之ヲ調製スルニハ重炭酸カリウム五・〇グラムヲ稍々大ナル合劑瓶ニ取り水一三〇・〇グラムヲ注加シテ溶解シ
之ニ稀醋酸五〇・〇グラムヲ徐々ニ注加シテ輕ク振盪シ冷ト泡沫ヲ認メサレニ至リ則ニ海葱丁幾五・〇グラム
及橙皮舍利別一五・〇グラムヲ加フルニアリ。

重炭酸カリウム五・〇グラムニ對スル稀醋酸ノ量ハ左ノ式ニ據テ得マシ。



右ノ化學方程式ニ依テ

$$100 \text{ KHCO}_3 : 60 \text{ C}_2\text{H}_3\text{O}_2 = 5 \text{ KC}_2\text{H}_3\text{O}_2 : x$$

$$x = 5 \text{ C}_2\text{H}_3\text{O}_2$$

カリウムノ分子量三十九、水素ノ分子量一、炭素ノ分子量十二、酸素ノ分子量十六、ノ三倍四十八ヲ合スレハ
一〇〇・〇トナル之レ (KHCO₃)ノ分子量ナリ又炭素ノ分子量十二ノ二倍二十四水素ノ分子量一ノ四倍四酸素ノ
分子量十六ノ二倍三十二ヲ合スレハ六〇・〇トナル之レ (C₂H₃O₂)ノ分子量ナリ故ニ $\frac{60 \times 5}{100}$ ノ式ヲ以テ三分
子ノ醋酸ヲ要ス。

稀醋酸ハ六分ノ醋酸 CH₃·COOH ヲ含有スルモノナルニ依リ

$$6 \text{ C}_2\text{H}_3\text{O}_2 : 100 \text{ 稀醋酸} = 3 \text{ C}_2\text{H}_3\text{O}_2 : x$$

$$x = 50 \text{ 稀醋酸}$$

即チ五〇・〇グラムヲ要スヘキナリ。

現今屢々飽和劑トシテ應用セラル、藥物ニ就キ右ノ方法ニ據テ算定シタル分量ハ左表
ノ如シ。

飽和表第一

アルカリ	酸	稀醋酸	枸橼酸	酒石酸	海葱醋	芳香醋
炭酸アルミニウム 10	グラム	191,1	10,84	12,54	955,3	176,4
純炭酸カリウム 10	グラム	123,5	9,27	10,80	148,2	114,0
重炭酸カリウム 10	グラム	100,0	6,40	7,50	120,0	92,4
重炭酸ナトリウム 10	グラム	118,3	7,62	8,93	142,0	109,2
炭酸マグネシウム 10	グラム	214,7	13,73	16,09	957,6	198,1

飽和表第二

酸	アルカリ	炭酸アルミニウム	純炭酸カリウム	重炭酸カリウム	重炭酸ナトリウム	炭酸マグネシウム
稀醋酸 100	グラム	5,23	8,10	10,0	8,45	4,66
枸橼酸 10	グラム	9,20	10,80	15,60	13,10	7,28
酒石酸 10	グラム	7,87	9,20	13,30	11,20	6,20
海葱醋 100	グラム	4,44	6,74	8,33	7,04	3,88
芳香醋 100	グラム	5,67	8,77	10,82	9,17	5,05

溫習スヘキ飽和劑ノ處方例

今飽和劑ノ處方ヲ例示スレハ左ノ如シ。

○處方

重碳酸カリウム 五・〇

稀醋酸 五〇・〇

右充分飽和スルニ至リ單舎一〇・〇ヲ加フ

右一日三回分服

○處方

芳香醋 二五・〇

重碳酸ナトリウム 二・三

覆盆子舎利別 一五・〇

單舎利別 五・〇

水 一〇〇・〇

右一日數回分服

○處方

酒石酸 二・〇

重碳酸ナトリウム 二・三

桂皮舎利別 三〇・〇

水 二〇〇・〇

右一日數回二分服

○處方

重碳酸ナトリウム 五・〇

枸橼酸 三・八

單舎利別 二〇・〇

枸橼油 一滴

右混和毎二時一食匙

○處方

海葱醋 七一・〇

重碳酸カリウム 五・〇

橙皮舎利別 三〇・〇

水 一〇〇・〇

右一日三回二分服

○處方

重碳酸ナトリウム 五・〇

ザギタリス醋 七〇・〇

單舎利別 三〇・〇

薄荷水 三〇・〇

右一日六回二分服

○處方

重碳酸カリウム 五・〇

海葱醋 一一七・〇

橙皮舎利別 三〇・〇

水 五〇・〇

右一日三回二分服

○處方

炭酸アムモニウム 四・〇

枸橼酸 五・〇

メンタ水 一〇・〇

水 一五〇・〇

右毎二時一食匙宛

○處方

炭酸マグネシウム 二・二五

コルヒクム醋 五〇・〇

生姜舎利別 一五・〇

水 一〇〇・〇

右一日六回二分服

○處方

炭酸マグネシウム 四・〇

酒石酸 六・〇

枸橼油 一滴

覆盆子舎利別 二〇・〇

水 一五〇・〇

右一日數回分服

セルテル水

人工セルテル水

前ノ飽和表ニ掲クル酸類及醋類ハ現行日本藥局方及獨逸藥局方ニ規定シタル者ニシテ此表ニ載セサル者即チ「ザギタリス醋、コルヒクム醋」ハ獨逸藥局方第一版ニ從テ其飽和量ヲ定メタル者ナリ。多量ノ遊離炭酸ヲ含有スル礦泉ニ砂糖液ヲ加ヘ屢々飽和劑ニ代用スルコトアリ例令ハ「セルテル水」ヨセフ日本産礦泉平野水等ノ如シ若シ斯ノ如キ天然水ヲ得難キ場合ニ於テハ人工的ニ之ヲ複製スルコトアリ例令ハ人工セルテル水ノ如シ即チ左ノ處方ハ器械瓶一劑ノ量ヲ示スモノナリ。

○處方

重碳酸ナトリウム

七・五

セルタル水ノ製法

美味ノ人工セルタル水

之ヲ製スルニハ先ツ厚壁ノ器桶瓶ニ重炭酸ナトリウムヲ採リ之ニ單舍利別ヲ加ヘ後極メテ靜カニ水ヲ加ヘテ二液層ヲ作り然ル後一頓ニ酸ヲ注加シ速ニ栓塞シテ振盪スルニアリ此方ハ天然ノ「セルタル水」ニ模造シタルカ故ニ其味稍不真ナリ今之ヲ美味ノモノニ改製セントセハ左ノ方ヲ用ユヘシ。

○處方

稀硫酸	三〇・〇
稀硫酸	二・〇
單舍利別	五〇・〇
水	四二〇・〇
右飲料トス	
重炭酸ナトリウム	一〇・〇
枸橼酸	八・〇
單舍利別	二二〇・〇
水	三〇〇・〇
右飲料トス	
重炭酸ナトリウム	一〇・〇
枸橼油糖	一・〇

沸騰リモノナーテ

遊離炭酸ヲ含有スル「リモノナーテ」モ亦飽和劑ノ一種ニ外ナラス今其一例ヲ掲クレハ左ノ如シ。

沸騰リモノナーテ Limonada Rasosa.	
枸橼汁	七・五
水	五〇〇・〇
單舍利別	一〇〇・〇
重炭酸ナトリウム	三・〇

ヲ適宜ノ厚壁瓶内ニ充タシ之レニ

ヲ加ヘ速ニ栓塞シ固ク之ヲ密閉ス此瓶ヲ直ニ冷室ニ移シ一二時間放置シタルノ後其用ニ供スヘシ少シク酸量ヲ増ストキハ頗ル美味ノ飲料トナリ又アルカリ性ノモノヲ要スルトキハ水量ノ三分一ノ酸及倍量ノ重炭酸ナトリウムヲ取ルヘシ。

○浸劑及煎劑 Infusa et Decocta.

浸煎劑ノ總義

浸劑及煎劑トハ即チ合劑ノ一種ニシテ重湯煎ノ温ヲ以テ生藥類ノ可溶成分ヲ水ニ浸出シタルモノナリ初メ熱湯ヲ灌注シ一定時間温浸シテ冷却ノ後濾過スルモノヲ浸劑ト云ヒ初メ冷水ヲ灌注シ一定時間煎出シタル後直ニ壓濾スルモノヲ煎劑ト云フ而シテ其効分ヲ溶易ク容出シ得ヘキモノ或ハ揮發性ノ成分ヲ含有スルモノ等ハ浸劑ト爲シ又長時間ノ温浸殊ニ熱水ニアラサレハ其効分ヲ溶出シ難キモノ或ハ粘性性ノ成分ヲ含有スルモノ等ハ煎劑ト爲スヘキモノトス然レトモ之ニ供用スル藥物ノ全効分ハ悉ク溶出シ得可キモノニ非ラス唯一定ノ方法ニ據テ其溶出シ得ヘキ効分ノ一分量ヲ含有シ得ヘキノミ故ニ浸液ノ多寡温度ノ高低及時間ノ長短各一定セザレハ其浸出液中ニ溶存スヘキ効分ノ含量ニ自カラ差違アリ是ヲ以テ各國皆自國藥局方ニ特別ノ製法ヲ規定セリ今日本藥局方ニ規定セル製法ヲ掲クレハ左ノ如シ。

浸劑 Infusa.

(獨) Aufgüsse.
(英) Infusions.
(佛) Infusée.

浸劑ヲ製スルニハ之ニ供用スル藥物ヲ必要ノ場合ニハ細切シ沸湯ヲ注キ時々振盪シツ、五分時間重湯煎上ニ置キ冷後漉過スヘシ。
處方中藥物ノ分量ヲ記載セサルトキハ藥物一分ニ付キ十分ノ浸液ヲ得ヘキ液量ヲ取ルヘシ。

劇藥ニ屬スル藥物ニ於テハ醫師必ス其分量ヲ記載スヘシ。

獨逸藥局方ハ全ク日本藥局方ト同一ナレトモ米國ニ於テハ其藥局方ニ規定セサル者及醫師其量ヲ記載セサル特別ノ浸劑ハ左ノ規則ニ從テ調製スルヲ法トス即チ藥物十分ヲ浸劑器ニ採リ之ニ沸湯百分ヲ注キ能ク蒸氣シ二時間放置シタル後之ヲ漉過シ水ヲ加ヘテ其全量百分トナスニアリ劇藥ノ浸劑ハ醫師必ス其量ヲ記載スヘキ者トス英國ニ於テハ其藥物ニ依リ浸出時間等一定セサレトモ概シテ藥物一分ニ付其浸液二十分乃至四十分ヲ採リ其時間ハ十五分乃至三十分間ナリトス佛國ニ於テモ亦其藥物ニ依リ各其製法ヲ異ニスレトモ概シテ浸出液ニ對スル藥物ノ量ハ一プロセント乃至五プロセントニシテ浸出時間ハ半時間乃至二時間トス。

煎劑 Decocta.

(獨) Abkochungen.
(英) Decoctions,
(佛) Decotes.

煎劑ヲ製スルニハ之ニ供用スル藥物ヲ必要ノ場合ニハ細切シ水ヲ注キ時々振盪シツ、三十分時間重湯煎上ニ熱シ温ニ乘シテ壓濾スヘシ。
處方中藥物ノ分量ヲ記載セサルトキハ藥物一分ニ付キ十分ノ煎液ヲ得ヘキ液量ヲ取ルヘシ。

劇藥ニ屬スル藥物ハ醫師必ス其分量ヲ記スヘシ又多量ノ粘液質ヲ含有スル藥物ニ於テハ藥劑師其分量ヲ定ムヘシ。

獨逸藥局方ハ日本藥局方ト同一ニシテ之ニ附スル粘液質ヲ含有スル物質ノ煎出法ヲ以テセリ即チ「アルデア煎及亞麻仁煎ハ半時間冷水巾ニ浸漬シ(攪拌)後強壓ヲ加ヘシテ漉過スベシ米國ニテハ其藥局方ニ記載セサル者及醫師其分量ヲ明記セサル煎劑ハ藥物一分ニ付冷水十分ヲ注キ蒸氣シテ十五分間煮沸シ後攝氏四十五度ニ至ル迄冷却シ漉過シ其液ニ水ヲ加ヘテ百分トナスニ在リ然レトモ劇藥ニ屬スル藥物ハ醫師必ス其分量ヲ記スヘシ英國ニ於テハ各藥物ニ付其煎出方ヲ異ニスレトモ凡ソ一般ノ規則トシテ藥物一匁ニ冷水一巴ヲ注キ浸劑器ニ入レ徐々ニ十分間煮沸シ漉過シ向ホ其殘渣ニ適量ノ水ヲ加ヘテ浸出シ煎液ニ合シテ其全量ヲ一巴トス今茲ニ一例トシテ「キナ煎 Decoctum Cinchonae.」ノ製法ヲ掲ケレハ赤キツ皮末一二五分蒸餾水二〇〇分ヲ注キ十分間煮沸シタル後冷却セシメ漉過シテ其殘渣ニ水ヲ加ヘ浸出シテ前液ト合シ全量二〇〇分トナス。

前條規定ノ方法ニ從ヒ浸劑及煎劑ヲ調製スルニハ先ツ處方中ニ記載スル藥物ヲ細判若クハ搗碎シテ均同ノ粗末トナシ磁製若クハ鍍錫セル金屬製ノ煎劑鍋ニ取り一定量ノ冷水又ハ熱水ヲ灌注シ重湯煎上ニ於テ一定時間温浸或ハ煎出スルニアリ之ニ用ユル浸

出器ハ第四十九圖ニ示ス如キ形狀ヲ有シ磁製或ハ金屬製ニシテ其内面ニ鍍錫セルモノナリ通常浸劑及煎劑共ニ之ヲ用ユレトモ特ニ之ヲ煎劑鍋ト云フ。



圖九十四第

浸煎劑ノ製法

重湯煎ノ裝置

重湯煎 Wasserbad. Waterbath. ニハ大小又ハ單復ノ差異アリト雖トモ通常藥局ニ於テハ第五十圖ニ示スカ如キ裝置ヲ具フルヲ便トス此裝置ハ煎劑鍋ヲ架スヘキ重湯煎ノ他ニ尙ホ蒸發器及蒸餾水ヲ製スヘキ蒸餾器ノ設ケアリ圖ノ中央ニアル大圓筒ハ即チ冷却罐

圖 十 五 第

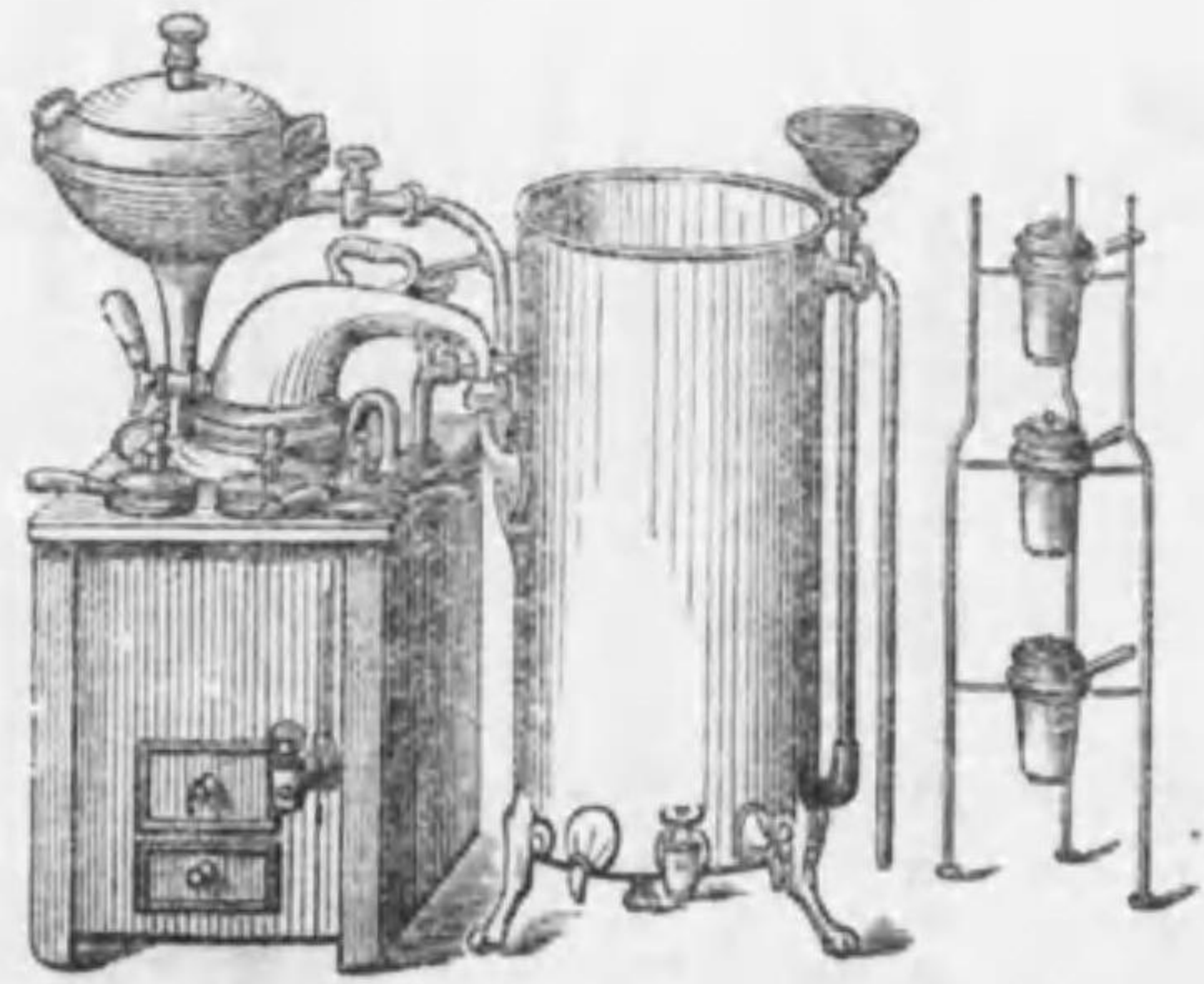
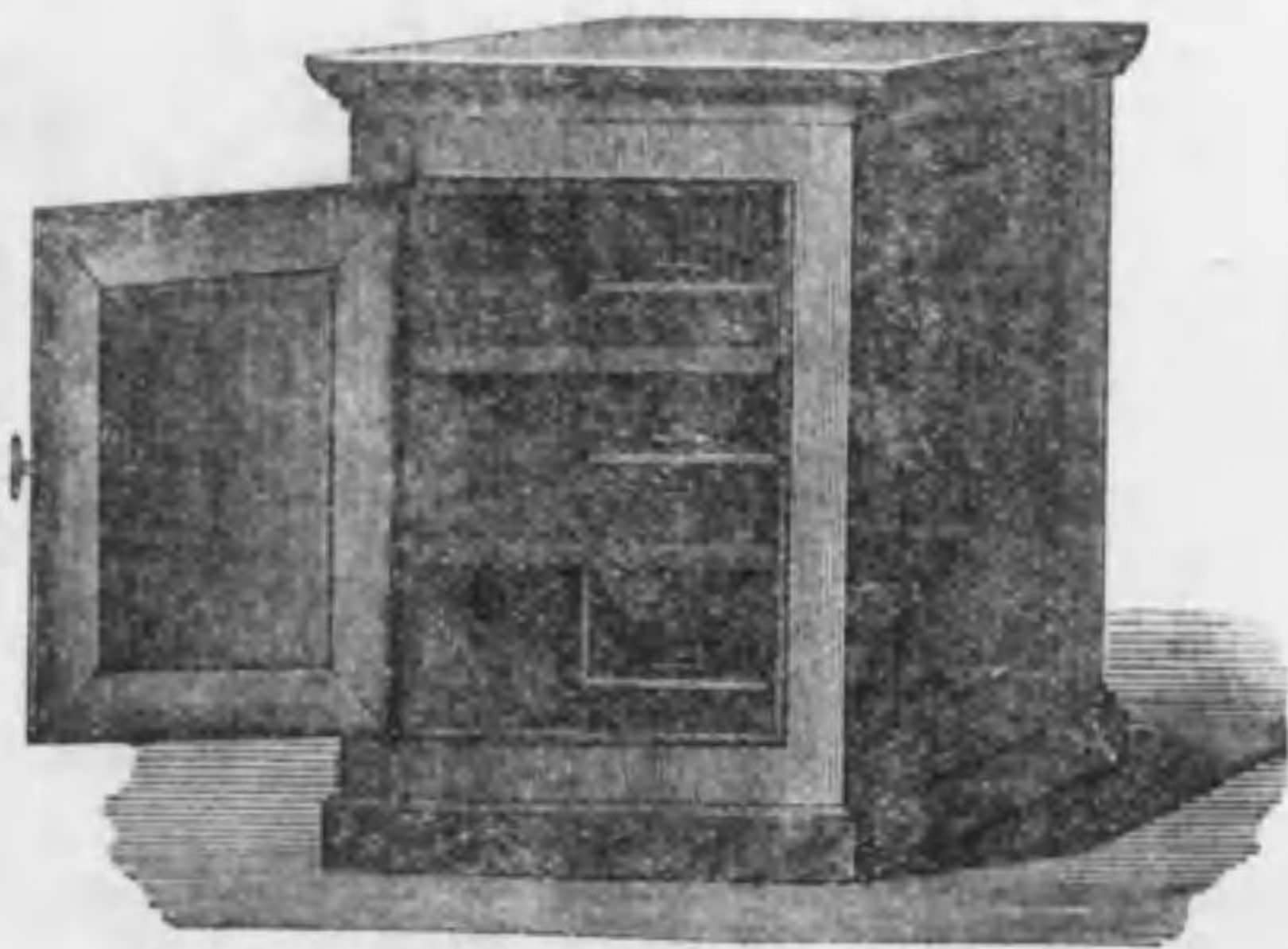


圖 一 十 五 第



乾燥機

ニシテ其下部ニハ罐内ノ蛇管ニ通セル嘴狀ノ口ヲ有シ之ヨリ蒸餾水ヲ排出ス又罐ノ右側ニアル三脚臺ハ不用ノ煎劑鍋ヲ架置シ或ハ浸煎劑ヲ放冷スル爲ニ安置スルノ用ニ供ス此蒸餾器ヲ尙完全ノ裝置トナスニハ別ニ乾燥室ヲ設クルニアリ其構造ハ即チ第五十一圖ノ如キ戸棚ニシテ其内ニ重湯煎ノ上部ヨリ蒸氣管ヲ通シ之ヲシテ乾燥器内ヲ回繞セシメ其温度ニ依テ兩内ヲ温暖ナラシムルニアリ而シテ此蒸氣ヲ再ヒ兩外ニ出シ冷却罐内ノ蛇管ニ通セシメ以テ其水蒸氣ヲ更ニ蒸餾水トナラシムルヲ得ヘシ。

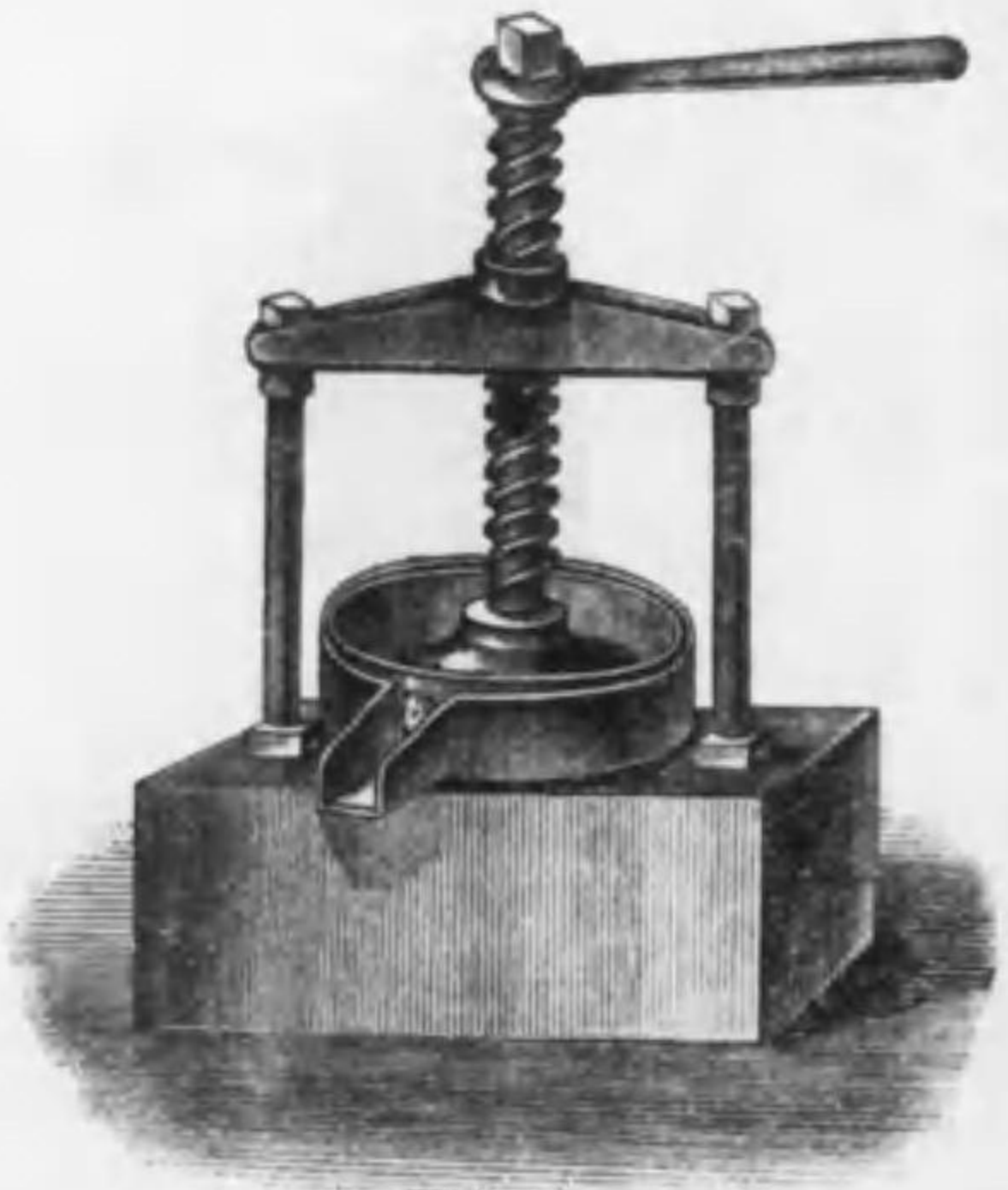
圖二十五第



メ藥物及冷水ヲ注加シタル煎劑鍋ヲ架置シテ一定時間浸出スルニアリ。出ノ用ニ供シ其煎劑器ヲ架シテ一定時間浸出スルニアリ。浸煎劑ヨリ其殘滓ヲ除去スルニハ適宜大(凡ソ一尺平方位)ノ布片ヲ以テ漉過スヘシ此

浸煎劑ノ濾過法

絞搾器



圖三十五第

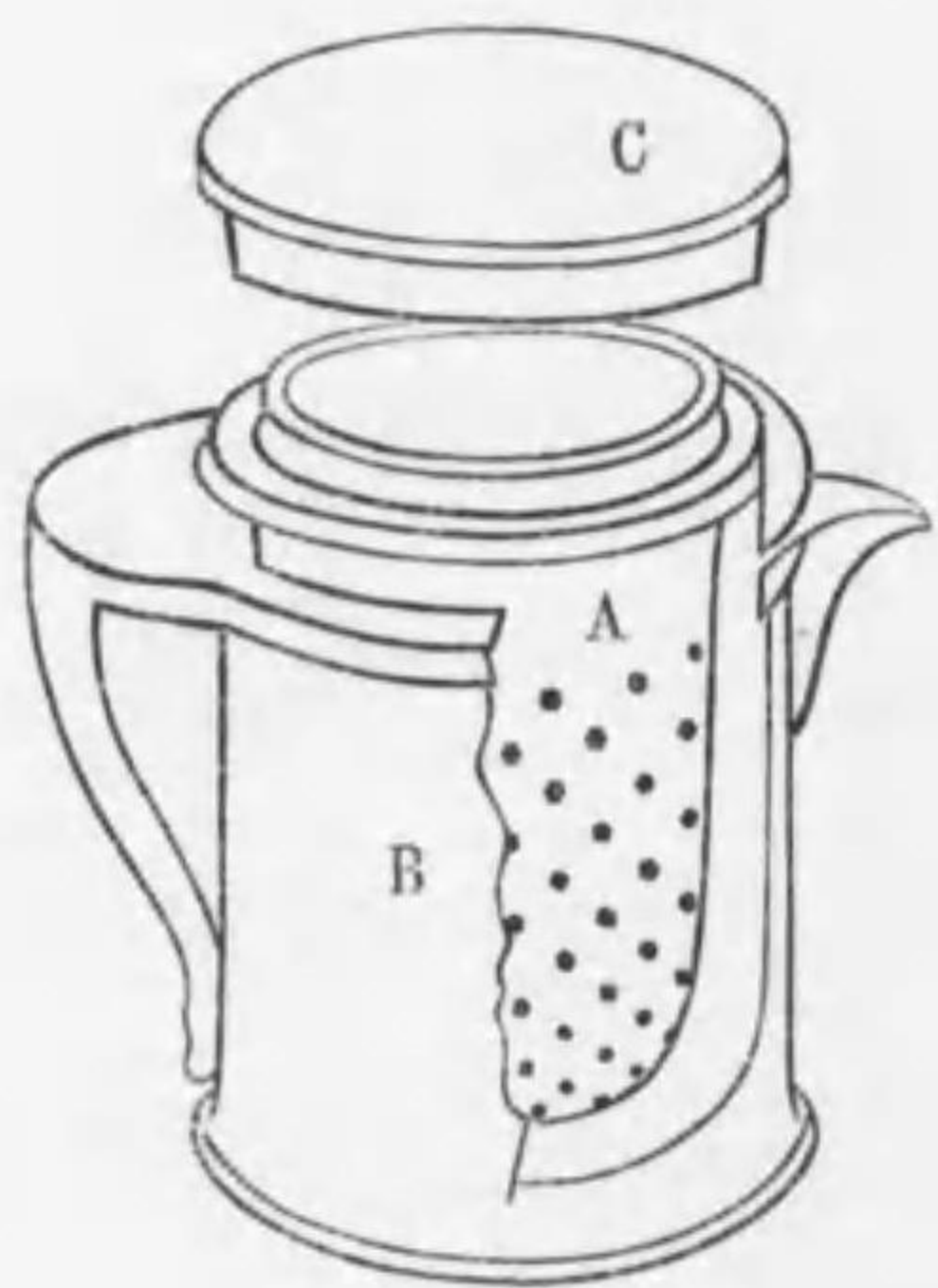


圖四十五第

濾布ハ亞麻布又ハ綿布ノ緻密ナルモノヲ選用スベシ其用ニ臨ミ先ツ流入スベキ器上ニ之ヲ廣布シ其中央部ヲ稍々凹陷セシメ其上ニ浸煎劑ヲ傾瀉シ其液ノ殆ント漏出シタル後濾布ノ相對スル兩端ヲ探リ管狀ニ卷キ其双端ヲ把握シテ絞搾スヘシ若シ其殘滓過多ナルトキハ適宜ニ之ヲ分ケテ絞搾スルカ或ハ第五十三圖ニ示ス如キ壓搾器ヲ用ユヘシ又浸劑ノ如キハ濾布ヲ濾廓(第五十四圖)ニ張リ濾過シテ終リニ輕ク絞搾スルヲ可トス之レニ用ユル濾液受器ハ通常片口又ハ磁製或ハ金屬製ニシテ注口ヲ有スル稍々扁平ナル器皿ヲ用ユベシ。

第五十五圖ニ示スモノハ浸劑ノミニ用ユベキ一種ノ磁製器ニシテ先ツ之ニ藥物ヲ入レ沸湯ヲ注キ浸出シタル後單ニ其

一種ノ浸劑器



圖五十五第

ニ注口ヲ有スルヲ以テ熱湯斗、流入鉢等ノ用ヲモ兼示其上部ノ(C)ナル圓板ヲ以テ其蓋トナスモノナリ。

日本藥局方ノ規定ニ據レハ多量ノ粘液質ヲ含有スル藥物ニ於テハ藥劑師其分量ヲ定ムルモノトセリ蓋シ斯ノ如キ藥物ニ於テハ適宜ノ粘液ヲ供用スルノ目的ナルカ故ニ其分量ハ醫師ヲシテ記定セシムルヨリ寧ロ藥劑師ニ任カシ適宜ノ稠度ヲ有スル粘漿液ヲ調製セシムルヲ便宜トスルモノナリ故ニ藥劑師ハ適宜ニ其分量ヲ加減シ之ニ適當ノ稠度ヲ與フルヲ要ス例之ハ「アルテア煎二〇〇・〇」ヲ製スルニハ「アルテア根一五・〇」ヲ用ヒ

浸液ヲ傾瀉スルノミニ依テ製出シ得ヘキ簡便ノ裝置ナリ圖中(A)ナル內器ハ藥物ヲ入レ沸湯ヲ注加スル所ニシテ自由ニ抽出シ得ヘク構造セラレ且ツ浸液ヲ漏出セシムル爲メ其側面ニ無數ノ小孔ヲ穿ツ故ニ之ヲ傾瀉スルノ際濾布ノ用ヲモ兼スルモノナリ又(B)ナル外器ハ浸劑器ノ用ヲナスノミナラス其一方

多量ノ粘液質ヲ含ム藥物ノ煎劑

亞麻仁煎二〇〇・〇ヲ製スニハ搗碎セサル亞麻仁一〇〇・〇ヲ用ヒ「サレップ煎二〇〇・〇ヲ製スルニハ」サレップ根末二〇・〇ヲ用ユルカ如キ是レナリ。
 今左ニ浸劑ノ處方例二三ヲ掲ケ且ツ調製法ヲ附記スヘシ。

浸劑處方例第一

〇處方	
顯草根浸	1100.0
橙皮浸	600.0
桂皮舍利別	400.0
右混和シ與フ	
用法毎二時一食匙宛	

Rp.
 Infusi Radicis Valerianae 200,0
 Infusi Corticis fructs, Aurantii 60,0
 Sirupi Cinnamomi 40,0
 M. D. S. Zwei stundlich einen Esslöffel.

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ細到セル顯草根二〇〇グラム及細到セル橙皮六〇グラムヲ浸劑器ニ取リ沸湯二六〇〇グラムヲ注キ時々攪拌シツ、五分時間重湯煎上ニ置キ冷後濾過シテ其濾液ヲ豫メ桂皮舍利別四〇〇グラムヲ秤入シタル合劑瓶ニ注入シテ不足ノ水量ヲ補ヒ輕ク振盪混和スルニアリ。

〇處方

吐根浸(〇・四)	150.0
杏仁水	100.0
セチガ舍利別	110.0
右混和シ與フ	
用法一日六回宛二日分服	

Rp.
 Infusi Ipecacuanae (0,5) 150,0
 Aquae Pruni armeniacae 10,0
 Sirupi Senegae 20,0
 M. D. S. Täglich 6 mal für 2 Tage zu nehmen.

浸劑ノ處方例第二

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ搗碎シテ木質部ヲ除去シタル吐根〇・五グラムヲ浸劑器ニ取リ沸湯一五〇〇グラムヲ注キ時々攪拌シツ、五分時間重湯煎上ニ置キ冷後濾過シテ其濾液ヲ豫メ杏仁水一〇〇グラム及セチガ舍利別二〇〇グラムヲ秤入シタル合劑瓶ニ注入シテ不足ノ水量ヲ補ヒ輕ク振盪シテ混和スルニアリ。

煎劑處方例第一

〇處方	
キノ皮煎	150.0
赤葡萄酒	300.0
稀鹽酸	11.0
單舍利別	110.0
右混和シ與フ	
用法一日三回二食匙宛	

Rp.
 Decocti Corticis Chinæ 150,0
 Vini rubri 30,0
 Acidi hydrochlorici diluæ 2,0
 Sirupi simplicis 20,0
 M. D. S. Täglich 3 mal 2 Esslöffel.

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ細到セル「キノ皮一五〇グラム」ヲ煎劑鍋ニ取リ冷水一〇〇〇グラムヲ注キ時々攪拌シツ、三十分時間重湯煎上ニ熱シ温ニ乘シテ壓濾シ之ヲ豫メ稀鹽酸二〇〇グラム單舍利別二〇〇グラム赤葡萄酒三〇〇〇グラムヲ秤量シタルモノト混シ尙不足ノ水分ヲ補ヒ輕ク振盪シテ全量二〇〇〇グラムトナスニアリ。

煎劑處方例第二

〇處方	
ウラウルシ葉	100.0
ヲ取リ	
煎劑	1800.0
ト爲シ	
橙花舍利別	110.0
ヲ加ヘ與フ	
用法一日六回一食匙宛	

Rp.
 Foliae Uvae Ursi 10,0
 fat Decoet. colatur 180,0
 Adde
 Sirupi Aurantii Florum 20,0
 Da Signa Täglich 6 mal 1 Esslöffel.

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ均同ニ細對セル「ワウワルシ葉一〇・〇グラム」ヲ煎劑鍋ニ取り之レニ冷水一八〇・〇グラムヲ注キ時々攪拌シツ、三十分時間重湯煎上ニ熱シ温ニ乘シテ壓流シ其流液ヲ冷却シタル後像メ橙皮舍利別二〇・〇グラムヲ秤入シタル液量器ニ之ヲ注入シ尙不足ノ水量ヲ追加シ輕ク振盪シテ混和シ之ヲ投藥瓶ニ傾注スルニアリ。

〇處方

多量ノ粘液質ヲ含ム煎劑ノ處方例

亞麻仁煎

一八〇・〇

芳香丁幾

五・〇

單舍利別

一五・〇

右混和シ與フ

用法一日六回宛二日分服

同上ノ製法

之ヲ調製スルニハ亞麻仁(種子ノ儘)九・〇グラムヲ煎劑鍋ニ取り之ヲ冷水一八〇・〇グラムヲ注入シ時々輕ク攪拌シツ、三十分時間重湯煎上ニ熱シ温ニ乘シ輕ク壓流シテ其流液ヲ殆ント冷却シタル後像メ芳香丁幾五・〇グラム單舍利別一五・〇グラムヲ秤入シタル液量器ニ注入シ尙不足ノ水量ヲ補ヒ輕ク振盪シテ混和スルニアリ。

右ノ方法ニ依テ調製スヘキ浸煎劑ノ處方例ヲ掲クレハ左ノ如シ。

浸劑ノ例

〇處方

センナ葉浸

七〇・〇

マンナ

硫酸マウチシウム

〇一五・〇

右混和シ與フ

用法口授

Rp.

Delecocti Seminis Lini

180,0

Tincturae aromaticae

5,0

Sirupi simplicis

15,0

M. D. S. Täglich 6 mal 1 Esslöffel.

〇處方

麥角

三〇・〇

右熱湯ヲ以テ浸出八〇・〇ノ流液ト爲シ之ニ

桂皮舍利別

二〇・〇

ヲ加ヘ與フ

用法毎二時一食匙宛

〇處方

ヤボラシヤ葉

四〇・〇

右沸湯適宜ヲ注キテ暫時浸出シ其混液三〇・〇

ヲ採リ之ニ

橙皮舍利別

八〇・〇

ヲ加ヘ投與スヘシ

用法臨床一回頓服

〇處方

ワウワルシ浸

一八〇・〇

プロームカリウム

六〇・〇

苦味丁幾

四〇・〇

生姜舍利別

二〇・〇

右一日三回二日分服

〇處方

カスカリヲ浸(八・〇)

一二〇・〇

甘硝石精

五〇・〇

生姜舍利別

一〇・〇

右一日三回二日分服

〇處方

大麥

三〇・〇

茅根

三〇・〇

水

三〇〇・〇

右爲煎劑一日數回服用

〇處方

蒲公英根

三〇・〇

右煎劑二五〇・〇トナシ

重酒石酸カリウム

一五〇・〇

單舍利別

二五〇・〇

右朝夕二回ツ、二日分服

〇處方

アギタリス葉浸(一・〇)

一五〇・〇

硫酸カリウム

八〇・〇

橙皮舍利別

一五〇・〇

右混和シ與フ

用法一日六回宛二日分服

○處方	セ子ガ根煎(一五〇〇)	二〇〇〇
	杏仁水	各一〇〇
	醋酸アムモニウム	五〇〇
	白葡萄酒	三〇〇
	橙皮舍利別	
	右混和シ與フ	
	用法一日六回宛三分服	
○處方	コロムボ根	一〇〇
	ヲ取リ	
	煎劑	一七〇〇
	ト爲シ之ニ	
	阿片丁幾	二〇
	薑根舍利別	二〇〇
	ヲ混和シ與フ	
	用法一日八回一食匙宛	
○處方	フラングラ皮	一〇〇
○處方	カミルレ浸(五〇〇)	一五〇〇
	薄荷水	三〇〇
	重炭酸ナトリウム	三〇
	右一日數回其一食匙ヲ熱湯適宜ニ和シ服用ス	
○處方	薄荷葉	三〇〇
	泥菖根	三〇〇
	杜松實	一五〇
	センナ葉	一〇〇
	ヲ取リ浸劑一〇〇〇	
	ト爲シ投與ス	
	用法一茶匙頓服	
○處方	葛蒲浸(二〇〇)	一〇〇〇
	アラビアゴム漿	六〇
	單舍利別	五〇
	右混和毎二時一茶匙宛	
○處方		

右煎劑二二〇〇トナシ	一〇〇	
硫酸ナトリウム	一〇〇	
ヲ加ヘ與フ		
用法朝夕一回宛二分服		
○處方	アルテア根煎	一〇〇〇
	礫砂	一〇〇
	鹽酸モルヒネ	〇〇一
	右混和シ其倍量ヲ與フ	
	用法一日六回宛二分服	
○處方	カンベヒア煎(四〇〇)	七五〇
	單舍利別	三〇〇
	右一日三回分服	
○處方	クラツシア木	八〇
	右煎劑一八〇トナシ	
	之ニ	
	橙皮舍利別	二〇〇
	ヲ加ヘ投與	
支奈花	五〇	
右熱湯ヲ以テ浸出シテ九〇トナシ之ニ		
橙皮舍利別	一〇〇	
ヲ加ヘ投與毎二時一食匙宛		
○處方	サルサ根煎(二〇〇)	二〇〇〇
	瘰瘡木丁幾	二〇
	薑根舍利別	一五〇
	用法一日四回二分服	
○處方	山歸來煎(四〇〇)	四〇〇〇
	硫酸マグネシウム	二〇〇
	橙皮舍利別	二〇〇
	右一日四回二分服	
○處方	ラタニヤ煎(一〇〇)	一五〇〇
	芳香丁幾	五〇
	アルテア舍利別	一五〇
	右一日三回二分服	

現今稀ニ處方セラル、浸煎劑ニシテ其製法ハ浸劑ト煎劑トヲ合併シタルモノアリ左ニ之ヲ列記スベシ。

浸煎劑

浸煎劑 Infuso-Decoctum. 之ヲ製スルニハ先ツ之ニ供用スル藥物ヲ取り浸液ノ半量ニ相當スル沸湯ヲ注キ五分時間重湯煎上ニ浸出シ冷後濾過シテ其殘滓ニ再ヒ浸液ノ半量ニ相當スル水ヲ注キ三十時間重湯煎上ニ煎出シテ之ヲ壓濾シ前後ノ浸煎兩液ヲ合スルニアリ例之ハ

同上處方ノ例

○處方

カスカリツ皮

赤葡萄酒

橙皮舍利別

ヲ以テ浸煎劑一〇〇・〇ヲ作り與フ

用法毎二時一食匙宛

○處方

橙皮浸

ヘアシシソ酒

薑根舍利別

右混和シ與フ

用法一日數回二食匙宛

煎浸劑

煎浸劑 Decocto-Infusum. 之ヲ製スルニハ之ニ供用スル藥物中先ツ煎劑ト爲スヘキモノヲ取り冷水ヨリ三十時間重湯煎上ニ熱シ之ニ浸劑ト爲スヘキモノヲ投シ更ニ五分時間重湯煎上ニ置キ冷後濾過スヘシ又ハ其藥物ヨリ先ツ煎劑ヲ作り其液ヲ濾取シ直チニ浸劑ト爲スヘキモノヲ之ニ加ヘ更ニ五分間浸出シタル後再ヒ之ヲ濾過スルモ可ナリ例

之ハ

浸煎劑處方ノ例

○處方

キナ皮煎

ノ熱濾液ヲ取り之ニ

顯草根

ヲ加ヘテ浸出シ

セリ酒

橙皮舍利別

ヲ加ヘ與フ

用法一日數回一食匙宛

○處方

甘草

ヒヨス葉

右ヲ以テ浸煎劑一五〇・〇ヲ作り之ニ

甘硝石精

醋酸アムモニウム液

單舍利別

ヲ加ヘ與フ

用法一日六回一食匙

冷浸劑

冷浸劑 Infusum frigide paratum. ハ之レニ供用スヘキ藥物ヲ水、酒、醋等ヲ以テ浸出シタルモノニシテ若シ特別ノ記載ナキトキハ常温ニ於テ時々振盪シテ一日間浸出スベシ故ニ普通ノ浸劑ハ本劑ニ對シテ温浸劑 Infusum calide paratum. ト稱スヘキモノナリ今冷浸劑ノ處方例ヲ掲クレハ左ノ如シ。

同上處方ノ例

○處方

サフラン

橙皮

桂皮

○處方

杜松實

海葱

薄荷葉

長時間ノ煎劑

同上處方ノ例

チットマン氏煎

白葡萄酒 三五〇・〇
 ナ取り一日間浸出シ其濾液ニ
 薑根舍利別 二五・〇
 安息香丁幾 一〇・〇
 ナ混和シ與フ
 用法一日一回一茶匙宛

醋 二〇・〇
 武蘭埜 一〇〇・〇
 水 一五〇・〇
 右二十四時間冷浸シ其濾液ニ
 桂皮舍利別 三〇・〇
 ナ加ヘ與フ用法一日三回二食匙宛

凡ソ根皮ヲ煎劑トナスニハ特ニ長時間(通常二十四時間)ノ煎出ヲ要スル者ナリ此場合ニ於テハ其長時間中空シク患者ヲ待タシムルノ不便アレハ豫テ日本藥局方ニ規定セラ
 ル、流動越幾斯ヲ製シ置キ此目的ニ供スルヲ便トス。

〇處方

石榴根皮

三〇・〇

コンドランゴ皮

一五・〇

右冷水三〇〇・〇ニ浸漬スルコト十二時間ニシ

ナ取り水ヲ注加シテ二十四時間煎出シ濾過シテ

テ、更ニ之ヲ煎沸シ濾過シテ二〇〇・〇ノ液ト

一八〇・〇ノ液ヲ取り之ニ

ナシ之ニ

稀鹽酸

二・〇

薑根舍利別

四〇・〇

番木鱉丁幾

二・〇

ナ加ヘ與フ

單舍利別

一五・〇

用法朝時毎回半時間ヲ隔テ、三四回ニ分服スヘシ

用法一日三回二分服

現行獨逸藥局方ニ於テハ瘦方サルサ根煎(チットマン氏煎)ナル者ヲ規定セリ是亦長時間ノ煎出ヲ要スル煎劑ニシテ

瘦方サルサ根煎ノ製法

第二版獨逸藥局方ニ於テハ強瘦方サルサ根煎 Decoctum Sarsaparillae compositum fortius、弱瘦方サルサ根煎 Deco-
 ctum Sarsaparillae compositum mitius ノ二方ヲ規定セリ今尙此強弱二方ヲ併用スルコトアルヲ以テ茲ニ附記スヘシ。

瘦方サルサ根煎(獨逸藥局方第四版)

Decoctum Sarsaparillae compositum.

瘦方サルサ根煎ハ

細到セル「サルサ根

二十分

ヲ取り之ニ

三十五度乃至四十度ノ溫湯

五百二十分

ヲ注キ二十四時間放置シタル後

白糖

一分

明礬

一分

ナ加ヘテ時々攪拌シテ、三時間重湯煎上ニ熱シテ之ニ

搗碎セル過泥子

一分

搗碎セル茴香

一分

細到セル「センナ葉

五分

細到セル甘草

二分

ナ加ヘ十五分時間重湯煎上ニ熱シタル後絞搾濾過シテ其濾液ニ不足ノ水量ヲ補ヒ

全量

五百分

ト爲シ製スヘシ。

〇強瘦方サルサ根煎(獨逸藥局方第二版)

強チットマン氏煎

細到セル「サルサ根」

百分

ヲ取り之ニ
蒸餾水
ヲ注加シ二十四時間温浸シテ後

二千六百分

白糖

各五分

明礬

各五分

搗碎セル過泥子

各五分

搗碎セル小茴香

二十五分

細到セル「センナ葉」

十分

ヲ加ヘテ重湯煎ニ上セ三時間有蓋器中ニ屢々振盪シテ、煎出ス而シテ此混和物ニ
ヲ加ヘテ十五分時間温浸シ壓濾シテ一二時間放置シ傾瀉シテ上澄液ヲ取り之ニ適宜ノ蒸餾水ヲ加ヘテ其全量二千五百分トナス。

調到セル「サルサ根」

五十分

ヲ取り之ニ

蒸餾水

二千四百分

ヲ注加シ有蓋器中ニ入レ屢々振盪シテ、重湯煎上ニ三時間温浸ス而シテ此浸液ニ

細到シタル枸櫞皮

五分

細到シタル桂皮

弱チットマン氏煎

細到シタル小豆蔻

細到シタル甘草根

ヲ加ヘ十五分時間温浸シテ壓濾シ暫時静置シ其上澄液ヲ傾瀉シ蒸餾水適宜ヲ加ヘテ全量二千五百分トナス。

通常複方サルサ根ハ三〇〇・〇グラム乃至五〇〇・〇グラムニテ一劑トシテ處方スルモノナレハ右ノ製法ニ從テ藥物ノ量ヲ改算スルノ煩ヲ省ク爲メ左ニ簡便ノ表ヲ掲クヘシ。

強複方サルサ根煎

煎液	250,0	300,0	400,0
サルサ根	10,0	12,0	16,0
白糖	0,5	0,6	0,8
明礬	0,5	0,6	0,8
過泥子	0,5	0,6	0,8
小茴香	0,5	0,6	0,8
センナ葉	0,5	3,0	4,0
甘草根	1,0	1,2	1,6
蒸餾水	260,0	312,0	416,0

弱複方サルサ根煎

煎液	250,0	300,0	400,0
サルサ根	5,0	0,6	8,0
枸櫞皮	0,5	0,6	0,8
桂皮	0,5	0,6	0,8
小豆蔻	0,5	0,6	0,8
甘草根	0,5	0,6	0,8
蒸餾水	240,0	312,0	384,0

豫製浸煎劑

煎、浸劑ノ調製類繁ナル藥局ニ於テハ毎回之ヲ製スルノ手数ト時間トヲ省クカ爲メ凡ソ其使用スル分量ヲ計リ豫メ一定分量ノ浸煎液ヲ製シ置キ用ニ臨テ其一定量ヲ取り不足ノ水量ヲ追加シテ調製スルノ簡便法ヲ採用スルコトアリ此豫製浸煎劑ハ必ス其日内ニ使用スヘキモノトス是固ヨリ正法トナス可キモノニアラサレトモ只患者ヲシテ浸煎劑ヲ製スルノ長時間ヲ待タシメ直ニ之ヲ調製シ投與スルコトヲ得ルノ便法ト云フヘシ今通常多ク

浸煎劑トシテ供用スルモノヲ列擧シ且ツ其摘要ヲ記スルコト左表ノ如シ。
通常醫師ノ處方スル浸煎劑ノ服量並ニ其調製表。

日常使用スル浸煎劑ノ表

名目	生薬一日ノ服量	水 量	豫製液ノ量	注加スル水ノ冷熱	重湯煎上ニ在ル時間
吐根浸	〇・三	一〇〇・〇	一五・〇	熱湯	五分間
サギタリス浸	〇・五	一〇〇・〇	七・五	熱湯	五分間
参角浸	三・〇	一〇〇・〇	三〇・〇	熱湯	五分間
蘭草浸	四・〇	一〇〇・〇	三〇・〇	熱湯	五分間
キナ煎	四・〇	一〇〇・〇	四〇・〇	冷水	五分間
セチガ浸	四・〇	一〇〇・〇	三〇・〇	熱湯	五分間
ウロウルシ煎	五・〇	一〇〇・〇	五〇・〇	冷水	五分間
コンドラゴ煎	七・五	一〇〇・〇	五〇・〇	冷水	五分間
石榴根皮煎	一〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	二十分間
アルテア煎	五・〇	一〇〇・〇	三〇・〇	冷水	二十分間
亞麻仁煎	五・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	二十分間
サレンツブ煎	一・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	半時
ゴム煎	一〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	半時
濃粉煎	二・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	半時
大麥煎	五・〇	一〇〇・〇	一〇〇・〇	冷水	半時

此ノ如キ、浸煎劑ヲ豫製スル場合ニ於テハ其浸煎劑ノ濃クラムニハ生薬ノ何グラムニ相當スルヤチ藥名並ニ明記スヘン例之ヲ

Infusum radialis
Ipecacuanhae

浸根吐
15 = 0.5

Decoctum Corticis
Cinchonae

煎ナキ
40 = 4.0

凡ソ「キナ煎」ヲ製スルニ當リ少量ノ鹽酸(稀鹽酸)ナレハ凡ソ「ギナ皮」ノ五十分(一)ヲ加ヘテ酸性ト爲シタル水ヲ以テ煎出スルトキハ多量ノ「キナアルカロイド」ヲ溶出スルコトヲ得ヘシ例之ハ今二十グラムノ「キナ皮」ヲ以テ二百グラムノ煎劑ヲ製セント欲セハ先ツ「キナ皮」ヲ磁製ノ煎劑鍋ニ取リ水ヲ注加シテ攪拌シタル後鹽酸三四滴ヲ加ヘテ煎出スルカ如シ獨逸國ノ或地方ニ於テハ「キナ煎」ヲ製スルニハ必ス鹽酸二滴ヲ加フルノ制規アリト云フ蓋シ百グラムノ「キナ煎」ヲ通常一日ノ服量トナセハナリ。

乳劑 Emulsiones.

乳劑ハ即チ合劑ノ一種ニシテ卵黃、稠厚乳若クハ「ゴム質」ノ媒介ヲ以テ水ト油質トヲ親密ニ混和セシメ之ヲ賦形液中ニ均同ニ分布セシメタル白濁ノ液ナリ其外見恰モ乳汁ニ類スルカ故ニ之ヲ乳劑ト名ク而シテ之ヲ眞性假性ノ二種ニ區別ス眞性乳劑 Emulsio vera. ハ又種子乳劑 Semen Emulsio. ト稱シ油質ト「ゴム質」トヲ含有スル植物種子例之ハ扁桃仁、罌粟子等ヲ搗碎研磨シテ之ヲ水ニ混和セシメ製シタルモノナリ又假性乳劑

(獨) Emulsionen.
(英) Emulsions.
(佛) Emulsion.
乳劑ノ總義及其種別

Emulsio spuriae. ハ油類等ヲ「ゴム末、稠厚乳或ハ卵黃ノ媒介ヲ以テ水ト密和セシメ製シタルモノナリ今種子乳劑ノ方例ヲ舉ケ且ツ其製法ヲ示スベシ。

種子乳劑ノ處方

○處方

甘扁桃仁 110.0

苦扁桃仁 5.0

ヲ取リ

縮水 150.0

橙花水 25.0

ヲ以テ乳劑トナシ

ヒヨス越幾斯 0.1

單舍利別 25.0

ヲ加ヘ與フ

用法毎二時一食匙宛

Rp.

Amygdal. dulcium 20,0

Amygdal. amar. 5,0

F. C.

Aquae destillatae 150,0

Aquae floris Naphae 25,0

Emulsio. cui adde.

Extracti Hyoscyami. 0,1

Sirupi Simplicitis. 25,0

M. D. S. 2 Stündlich 1 Esslöfel!

同上ノ製法

之ヲ製スルニハ先ツ甘扁桃仁及苦扁桃仁ヲ秤取シ之ヲ適宜ノ器ニ容レ熱湯ヲ注キ凡ソ五分時間放置シタル後之ヲ指間ニ壓搾シテ其子皮ヲ剥離シ之レヲ第五十五圖或ハ五十六圖ニ示スカ如キ乳劑白ニ採リ初メ輕ク搗碎シ其仁ノ破碎セラレタル後稍々強ク搗碎シテ充分泥狀トナルヲ候ヒ(此適度ヲ知ルニハ指間ニ檢磨シテ固塊ヲ感セサルヲ度トス)之ニ縮水百五十グラムヲ徐々ニ加ヘ能ク混攪シタル後絞搾濾過シテ此濾液ニ橙花水二五グラム及單舍利別二五グラムヲ加ヘ全量二百グラムトナシ別ニ合劑乳鉢ニ「ヒヨス越幾斯」ヲ秤量シ先ツ乳劑液ノ一分ヲ以テ之ヲ溶解

圖五十五第



圖六十五第



セシメ漸次殘餘ノ乳劑ヲ之ニ注加スルニアリ然ルトキハ褐色ノ乳劑ヲ得ヘシ故ニ越幾斯或ハ丁酸ヲ配伍スル種子乳劑ニ在テハ初メ種子ノ脱皮ヲ爲サントモ可ナリ即チ種子ヲ皮

ノ僅搗碎シテ水ヲ加ヘ乳劑トナシ濾過シ製スルニアリ。

種子乳劑中ニ脂肪油ヲ配伍スルモノヲ複性乳劑 Emulsio compositae. ト稱シ其種子中ニ含有スル蛋白質ノ媒介ヲ以テ脂肪油ト水トヲ親密ニ混和セシメ製スルモノナリ例之ハ

○處方

甘扁桃仁 110.0

蓖麻子油 110.0

茴香水 100.0

縮水 100.0

單舍利別 115.0

右混和乳劑ト爲シ投與

Rp.

Amygdal. dulc. 20,0

Olei Ricini 30,0

Aquae Foeniculi 100,0

Aquae destillatae 100,0

Sirupi simplicitis 25,0

M. F. Emulsio. D. S.

同上ノ製法

此乳劑ヲ製スルニハ先ツ甘扁桃仁二十グラムヲ種子乳劑ノ製法ニ從ヒ先ツ搗碎シテ泥狀物ヲ製シ之ニ蓖麻子油三十グラムヲ加ヘ能ク研磨シ充分乳化シタル後單舍利別二十五グラムニ茴香水百グラム及蒸餾水七十五グラムヲ混シタルモノヲ攪拌シツ、徐々ニ加ヘテ濾過シ全量二百グラムトナスニアリ。

温習スベキ處方

右ノ外種子乳劑ノ處方例二三ヲ舉クレハ左ノ如シ。

○處方

罌粟子 二〇・〇

ヲ採リ乳劑一八〇・〇トナシ之ニ

單阿片丁幾 五・〇

罌粟舍利別 二〇・〇

ヲ加ヘ與フ

用法毎二時一食匙宛

○處方

胡麻子 二〇・〇

アムモニア水 一・〇

水 一八〇・〇

右胡麻子ヲ以テ乳劑ヲ作リ「アムモニア水」ヲ加ヘテ振盪シ製ス

用法 口授

○處方

ヒヨス子 一・〇

ヲ採リ乳劑一五〇・〇トナシ之ニ左ノ三味ヲ加フ

ヒヨス丁幾 三・〇

單舍利別 二五・〇

桂皮水 二〇〇・〇

右一日六回宛二日分服

○處方

大楓子 二五・〇

右熱湯ヲ以テ乳劑二〇〇・〇ヲ製シ之ニ

橙皮舍利別 三〇・〇

ヲ加ヘ投與

用法一日三回宛二日分服

油製乳劑

○油製乳劑 Oil-Emulsion. ハ即チ假性乳劑ノ一ニシテ「ゴム質、稠厚乳或ハ卵黃等ノ媒介ニ依テ油類ト水トヲ親密ニ混和セシメ之ヲ賦形液中ニ均等ニ分布セシメタルモノナリ通常之ニ用ユル油類ハ蓖麻子油、オレーフ油、肝油、扁桃油等ニシテ其媒介物ハ通常「ア

油製乳劑ノ處方

ラピアゴム」ヲ用ユ而シテ「ゴム」ノ分量ハ油ノ半量ヲ用ユルヲ法トス今之ヲ製スルニハ初メニ少量ノ水ヲ油ト「ゴム」末トニ加ヘ均同ニ研和シ泥狀塊トナラシムルヲ要ス此初メニ加フル少量ノ水ハ油ト「ゴム」トノ和量ニ半スル量ヲ採ルベシ即チ油二十グラム」ニシテ「ゴム」末十グラム」ナレハ其相加三十グラム」ノ半量即チ十五グラム」ノ水ヲ採ルニアリ茲ニ用ユル少量ノ水ヲ乳化水ト云フ今其處方例ヲ舉クレハ左ノ如シ。

○處方

蓖麻子油 110.0

巴豆油 0.05

アラビアゴム末 適宜

蒸餾水ヲ以テ乳劑一五〇・〇トナシ之ニ

センナ舍利別 115.0

ヲ加フ

右混和投與

Rp.

Olei ricini.

Olei crotonis.

Gummi arabic.

Aquae destillatae.

F. Emulsio.

Cui adde.

Sirupis scannae.

M. D. S.

30,0

0,05

q. s.

150,0

25,0

同上ノ製法

右ノ乳劑ヲ製スルニハ先ツ稍々大ナル乾燥セル合劑乳鉢ニ「アラビアゴム末十五グラム」ヲ採リ別ニ小硝子杯又ハ小蒸發皿ニ「巴豆油〇・〇五及蓖麻子油三十グラム」及乳化水二十グラム半ヲ秤量シ右「ゴム」末ヲ研磨シツ、一頓ニ之ヲ加ヘ尙急ニ研磨シツ、蒸餾水百五十グラム」ヲ漸々ニ追加シテ稀薄シ別ニ「センナ舍利別二十五グラム」ヲ秤入シタル「メイトルガラス」ニ之ヲ加ヘテ全量二百グラム」トナスニアリ凡テ乳劑中ニ他ノ配伍藥アルトキハ可成之ヲ稀薄セシメタル後

油製乳劑ノ別製法

附加スルヲ要ス又巴豆油〇・〇五ヲ秤量スルハ困難ナレハ滴量ヲ用ヒテ其一滴ヲ採ルベシ。
 ゴム末ノ媒介ヲ以テ油製乳劑ヲ製スルニ尙ホ二法アリ其一ハ先ツ「ゴム末ヲ取り之ニ油類ヲ加ヘテ親密ニ混和シ爾後
 一頓ニ乳化水ヲ注キ急劇ニ研磨スルニアリ又他ノ一法ハ先ツ一定量ノ「ゴム末ヲ乳鉢ニ採リ之ニ乳化水ヲ加ヘテ研
 シタル後別器ニ秤量シタル油ヲ一頓ニ傾瀉シテ研磨シ充分乳化スルヲ待テ漸々ニ賦形水ヲ加ヘテ稀薄スルニアリ。
 又ゴム末ニ代フルニ卵黃ヲ用ユル場合ニ於テハ先ツ卵黃ヲ乳鉢ニ採リ充分研磨シ置キ餘々ニ油類ヲ注キ克ク混和セシ
 メタル後尙研磨シツツ之ニ賦形水ヲ徐々ニ加ヘテ一定量ノ乳劑トナスベシ之ニ用ユル卵黃ハ油類一〇・〇ニ付中等大
 ノ雞卵一個ヲ適當トス。
 稠厚乳ノ媒介ヲ以テ乳劑ヲ製スルニハ先ツ油類ノ倍量ニ相當スル稠厚乳ヲ適宜ノ乳鉢ニ取り能ク研磨シ置キ之ニ徐々
 油類ヲ加ヘテ尙研磨シ全ク乳化シタル後水ヲ加ヘテ一定ノ乳劑トナスニアリ。

油製乳劑ノ處方例ヲ舉クレハ左ノ如シ。

温習スヘキ處方ノ例

- 〇處方
 肝油 二〇・〇
 アラビアゴム末 適宜
 薄荷水 三〇・〇
 單舍利別 二〇・〇
 水 一三〇・〇
 右乳劑トナシ毎二時一食匙
- 〇處方
 甘扁桃油 二五・〇
- 〇處方
 蓖麻子油 三〇・〇
 アラビアゴム末 適宜
 薄荷油 一滴
 右混和乳劑七〇・〇トナシ之ニ
 單舍利別 三〇・〇
 ナ加ヘ與フ毎二時一食匙
- 〇處方
 巴豆油 半滴

- アラビアゴム末 適宜
 アルテア舍利別 五〇・〇
 水 一五〇・〇
 右乳劑トシテ一日數回分服

〇處方

- 蓖麻子油 一〇・〇
 卵黃 適宜
 右爲乳劑投與

〇處方

- 扁桃油 一〇・〇
 卵黃 適宜
 テ子ガ舍利別 三〇・〇
 サフラン丁幾 四・〇
 右毎二時二茶匙宛

- 蓖麻子油 三〇・〇
 アラビアゴム末 適宜
 右乳劑トシテ二回ニ頓服

〇處方

- 大楓子油 五・〇
 アラビアゴム末 適宜
 右乳劑五〇・〇トナシ
 橙皮舍利別 三〇・〇
 ナ加ヘ用法口授

〇處方

- 昇朮 〇・〇二
 甘扁桃油 五・〇
 安息香丁幾 〇・五
 水 一〇〇・〇
 右爲乳劑投與

肝油ハ一種ノ不快ナル臭氣ヲ有スルカ故ニ患者常ニ其服用ヲ嫌忌スルモノナリ然レトモ左ニ掲グル處方例ノ如ク之ニ
 蔽臭藥ヲ加フレハ稍其害ヲ避クルヲ得ヘシ坊間ニ販賣セル肝油乳菓ハ恐ク肝油乳劑ノ濃厚ナルモノニシテ之レカ蔽臭
 藥ニハ「ガウルテリア油薄荷油等ヲ用ヒ其防腐藥ニハ「グリセリン等ヲ加ヘタル者ナルヘシ。

バルサム乳劑

右ノ處方中稠厚乳ハ凡テ油ノ倍量ヲ取り咖啡煎ハ三% (咖啡末三グラムヲ以テ百グラムレノ煎液ヲ取ル) ノ者ヲ採用スヘシ。

バルサム乳劑 Balsam-Emulsion. ノ製法ハ油製乳劑ノ法ニ倣ヒ製シ得ベキカ故ニ茲ニ其製法ヲ舉クルノ要ナシ茲ニ油及バルサム乳劑ヲ製スルニ當リ主藥ニ對スル「ゴム末及乳化水ノ分量ヲ知ラシメンカ爲メ左表ヲ作り以テ實地ノ便ニ資セント欲ス。

○處方	肝油	一五・〇
	稠厚乳	適宜
	咖啡煎	三〇・〇
	右乳劑トナシ投與	
	用法臨臥一回頓服	
○處方	肝油	二〇・〇
	稠厚乳	適宜
	薄荷油	各一滴
	水	七〇・〇
	右乳劑トナシ投與	
○處方	肝油	二〇・〇
	稠厚乳	適宜
	咖啡煎	三〇・〇
	右乳劑トナシ投與	
	用法一日三回食後分服	
○處方	肝油	一〇・〇
	稠厚乳	四〇・〇
	咖啡煎	九〇・〇
	右乳劑トナシ投與	
	用法一日三回食後分服	
○處方	肝油	一〇・〇
	薄荷水	五〇・〇
	煉乳	二〇・〇
	單舍利別	五・〇
	右爲乳劑一回頓服	

バルサム或ハ油製乳劑ノ表

摘 要	乳劑ノ賦形水	乳 化 水	ア ラ ビ ア	ゴ ム ノ 量	バルサム或ハ油ノ量	バルサム製乳劑或ハ油製乳劑
今バルサム或ハ油製乳劑二百グラムヲ製セント欲セハ其乳劑全量二百グラムレノ中ヨリ油或ハバルサムレノ量二十グラム、アラビアゴム末ノ量十グラム及乳化水十五グラムヲ引キ其殘餘ノ量百五十五グラムレノ水ヲ以テ稀薄シ製スルニアリ其他推シテ知ルベシ。	193.75	18.75	12.5	25.0	250.0	250.0
	186.00	18.00	12.0	24.0	249.0	249.0
	155.00	15.00	10.0	20.0	200.0	200.0
	139.50	13.50	9.0	18.0	180.0	180.0
	135.63	13.12	8.75	17.5	175.0	175.0
	124.00	12.00	8.0	16.0	160.0	160.0
	116.25	11.25	7.5	15.0	150.0	150.0
	96.87	9.38	6.25	12.5	125.0	125.0
	93.00	9.00	6.0	12.0	120.0	120.0
	77.5	7.50	5.0	10.0	100.0	100.0
	67.75	6.75	4.5	9.0	90.0	90.0
	62.00	6.00	4.0	8.0	80.0	80.0
	58.13	5.62	3.75	7.5	75.0	75.0
	46.50	4.50	3.0	6.0	60.0	60.0
	38.75	3.75	2.5	5.0	50.0	50.0
31.00	3.00	2.0	4.0	40.0	40.0	
23.25	2.25	1.5	3.0	30.0	30.0	
19.88	1.87	1.25	2.5	25.0	25.0	

通常乳劑トナシテ用ユル「バルサム」ハ「ペルーバルサム」及「コバイバルサム」等ニシテ其處方ヲ例示スレハ左ノ如シ。

バルサム乳劑處方ノ例

○處方
 コバイバルサム 一五・〇
 アラビアゴム末 七・五
 阿片越幾斯 〇・一
 單舍利別 一五・〇
 右乳劑二〇〇・〇トナシ與フ

Rp.
 Balsami copaiuae. 15,0
 Gummi arabici. 7,5
 Extract Opii. 0,1
 Sirupi simplicis. 15,0
 M. F. Emulsio. 200,0
 D. S.

同上ノ製法

之ヲ製スルニハ油製乳劑ノ如ク「アラビアゴム末七グラム半ヲ合劑乳鉢ニ探リ研磨シツ、別ニ「コバイバルサム十五グラム」ニ乳化水十一グラム二五ヲ加ヘタルモノヲ一頓ニ加ヘ急速ニ研磨シ充分乳化シタル後尙輕ク研磨シツ、賦形藥タル水ノ凡百グラム」ヲ漸々ニ加ヘテ之ヲ稀薄シ別ニ阿片越幾斯「テチグラム」ヲ合劑乳鉢ニ探リ賦形藥タル水ノ凡十グラム」ヲ加ヘテ全ク溶解セシメ之ニ單舍利別十五グラム」ヲ加ヘ輕ク研磨シツ、前ノ乳劑ヲ加ヘテ充分混和セシメ之ニ殘餘ノ賦形水ヲ加ヘテ全量二百グラム」トナスニアリ。

右ノ外バルサム乳劑ノ處方例ハ左ノ如シ。

温習スヘキ處方ノ例

○處方
 ヘルーバルサム 六・〇
 扁桃油 五・〇
 アラビアゴム末 一五・〇
 單舍利別 五〇・〇
 蒸餾水適宜ヲ加ヘテ
 乳劑二〇〇・〇トナシ與フ

○處方
 コバイバルサム 八〇・〇
 アラビアゴム末 適宜
 水 五〇・〇
 薄荷油 一・五
 單舍利別 三〇・〇
 乳劑トナシ一日數回半食匙

護謨華爾斯乳劑

同上處方ノ例

○處方
 ヘルーバルサム 五・〇
 卵黃 一箇
 蒸餾水適宜ヲ加ヘテ乳劑一五〇・〇トナシ
 單舍利別 二〇・〇
 ナ加ヘ投與毎二時一食匙宛

○處方
 コバイバルサム 五・〇
 卵黃 一箇
 右蒸餾水ヲ以テ乳劑二〇〇・〇ヲ作り投與
 用法一日三回二日分服

ゴム華爾斯乳劑 Gummi-harz-emulsion. トハ「ゴム質及華爾斯質ヲ含有スル藥物例之ハ阿魏、ミルラ若クハ沒藥等ヲ以テ製シタルモノナリ故ニ是ヲ製スルニハ別ニ粘稠物ノ媒介ヲ要セズ單ニ乳鉢ニ之ヲ採リ細末トナシタル後少量ノ水ヲ加ヘテ能ク研磨シ粥狀トナルニ至リ更ニ賦形液ヲ漸々ニ注加シ製スルニアリ若シ右ノ方法ニ據リテ充分ニ乳化シ能ハサルトキハ藥物ニ對スル半量ノ「アラビアゴム末ヲ加ヘテ研磨スレバ容易ニ之ヲ乳化セシムルヲ得ベシ今其一例ヲ舉クレバ左ノ如シ。

○處方
 阿魏 五・〇
 サフラン 阿片丁幾 一・〇
 鹽草丁幾 二・〇
 アルテア舍利別 二五・〇
 右乳劑二〇〇・〇トナシ投與

Rp.
 Asac. foetidac 5,0
 Tinct. opii crocatis. 1,0
 Tinct. varcelianac 2,5
 Sirupi althaeac 25,0
 F. Emulsio. 200,0
 D. S.

同上ノ製法

右ノ乳劑ヲ製スルニハ先ツ阿魏ヲ乳鉢ニ採リ搗碎シテ粉末トナシ凡ソ同量ノ水ヲ加ヘテ充分ク研磨シ充分乳化シタル後輕ク研磨シツ、凡ソ百五十グラムレノ水ヲ漸々ニ注加シテ之ヲ別ニ「サフラン」阿片丁幾一グラムレト「顯草」丁幾一グラムレ半及アルテア舍利別十五グラムレトヲ秤取シタル投藥瓶ニ傾瀉シ全量二百グラムレトナシ輕ク振盪シテ混和スルニアリ。

右ノ外二三ノ處方ヲ例示スレバ左ノ如シ。

温習スヘキ處方ノ例

○處方	アムモニアタム	一〇〇〇
沒藥	蒿香水	二〇〇〇
阿片丁幾	アルテア舍利別	二五〇〇
ウツウルシ葉煎	右乳劑トナシ投與	
右乳劑トナシ投與	○處方	
○處方	ガルバヌム	五〇〇
阿魏	橙皮舍利別	五〇〇
蒲公英煎	茴香水	一〇〇〇
單舍利別	右乳劑トナシ投與	
右乳劑トナシ投與	○處方	
○處方	藤黃	四〇〇
ミルラ	アラビアゴム末	適宜
アラビアゴム末	水	一五〇〇
水	右一日二回二食匙宛	

華爾斯乳劑

華爾斯乳劑

Harz-emulsion. ハ「テレピンチーナ、ヤラッパ脂等ノ如キ樹脂性ノ藥物ヲ以テ製スルモノニシテ通常華爾スト同量ノ「アラビアゴム末若クハ藥物十分ニ付キ卵黃一箇又ハ適量ノ白糖末ヲ媒介物トナスヲ法トス左ニ其處方例ヲ擧ケ且ツ其製法ヲ示スベシ。

同上處方ノ例

○處方	Rp.	
ヤラッパ脂	Resinae jalape.	0,5
白糖	Sacchari albi.	5,0
混和搗碎シテ細末トナシ之ニ	Contercendo in pulverem subtilem	
白糖	redactis admisce Sacchari albi.	25,0
橙花水	Aquae aurantii florum.	10,0
ヲ加ヘ乳化ノ後之ニ	quo facto dilue cum aquae	
常水	communis.	120,0
ヲ加ヘ稀薄スヘシ	D. S.	
右投與		

同上ノ製法

之ヲ製スルニハ先ツ「ヤラッパ脂」五デチグラムレヲ乳鉢ニ採リ能ク搗碎研磨シテ粉末トナシ之ニ白糖末五グラムレヲ加ヘテ尙ホ研磨シ更ニ白糖末二十五グラムレト「橙花水」十グラムレヲ加ヘテ強ク研磨シ充分乳化シタル後尙ホ輕ク研磨シツ、常水二百二十グラムレヲ漸々ニ追加スルニアリ。
樹脂乳劑ノ處方例左ノ如シ。

溫習スヘキ處方
例

○處方
 テレピンチーナ 四・〇
 卵黃 一個
 單舍利別 一五・〇
 ミンデル精 八・〇
 桂皮水 二〇〇・〇
 右乳劑トシテ投與
 用法口授

○處方
 ヤラツバ脂 〇・五
 アラビアゴム末 適宜
 桂皮舍利別 一五・〇
 薄荷水 二〇〇・〇
 右乳劑トシテ投與

○處方
 拉里知那テレピンチーナ 各五・〇
 アラビアゴム末 一五・〇
 單舍利別 一五〇・〇
 カミルン浸 一五〇・〇
 右乳劑トシテ投與
 用法一日三回二分服

○處方
 蜜膏木脂 一〇〇
 アラビアゴム末 二〇〇
 茴香水 適宜
 チ以テ乳劑一五〇・〇トナシ之ニ
 甘硝石精 五・〇
 單舍利別 五〇・〇
 チ加ヘ投與
 用法每二時一食匙

揮發油乳劑

○揮發油乳劑 *Aetherische Oel-emulsion.* ハ藥物ニ同量ノ「アラビアゴム末或ハ藥物十分ニ付卵黃二個ヲ媒介物トナシ製スルヲ通法トス之ヲ製スルニハ藥物ニ對スル同量ノ「ゴム末及乳化水ヲ以テ先ツ濃稠ノ「ゴム漿ヲ製シ強ク研磨シツ、之レニ藥物ヲ滴加シ終リ充

同上處方ノ例

分乳化スルノ後賦形液ヲ漸々注加シ稀薄スルニアリ又卵黃ヲ乳化藥トナストキハ先ツ藥物ニ對スル必要數ノ卵黃ヲ乳鉢ニ採リ強ク研磨シツ、之ニ藥物ヲ注加シ充分乳化セシメタルノ後賦形液ヲ漸々ニ追加シ之ヲ稀薄スルニアリ例之ハ

○處方
 テレピン油 五・〇
 アラビアゴム末 適宜
 單舍利別 一〇〇・〇
 餾水 八〇〇・〇
 右乳劑トナシ毎二時一食匙ツ、

Rp.
 Olei Terbinthinae. 5,0
 Gummi arabici. q. s.
 Sirupi simplicis 20,0
 aquae destillatae. 80,0
 M. F. Emulsio. D. S.

同上ノ製法

此乳劑ヲ製スルニハ先ヅ「アラビアゴム末五グラム」ヲ乳鉢ニ採リ研磨シツ、水五グラム」ヲ加ヘテ濃稠ノ「ゴム漿ヲ製シ尙強ク研磨シツ、之ニ「テレピン油五グラム」ヲ少量ツ、注加シ充分乳化シタル後單舍利別二十グラム」ニ蒸餾水八十グラム」ヲ加ヘタルモノヲ漸々ニ追加シテ製スルニアリ。

揮發油乳劑ノ處方例ハ左ノ如シ。

○處方
 ガイカリブツス油 二・〇
 アラビアゴム末 二・〇
 橙皮舍利別 一五・〇
 桂皮水 二〇〇・〇
 右乳劑トシテ投與

○處方
 テレピン油 五・〇
 卵黃 一箇
 生姜舍利別 二〇・〇
 蒸餾水 一八〇・〇
 右乳劑トシテ投與

溫習スヘキ處方
ノ例

○處方
 カヤブテ油 〇・五
 卵黃 半箇
 單舍利別 一五・〇
 カミルレ浸 二〇〇・〇
 右乳劑トシ投與

○處方
 サビナ油 〇・一
 アラビアゴム末 適宜
 桂皮舍利別 三〇・〇
 右乳劑二〇〇・〇ヲ作り與フ
 用法口授

樟腦乳劑

樟腦乳劑 *Camphor-emulsion*. ハ通常藥物一分ニ對シ「アラビアゴム末十分或ハ卵黃一個ヲ以テ乳化藥トナスヲ法トス其一般ノ製法ハ先ツ樟腦ヲ乳鉢ニ採リ無水酒精若クハ「エーテル」ノ少量ヲ滴シテ研磨細粉トナシ之ニ「ゴム末ヲ加ヘテ尚研磨シ均同ニ混和セシメ次ニ少量ノ水(凡ソ藥物ノ十倍)ヲ注キ強ク研磨シテ充分乳化セシムルノ後賦形液ヲ漸々ニ追加シ之ヲ稀薄スルニアリ例之ハ

○處方
 樟腦細末 一・〇
 アラビアゴム末 一〇・〇
 エーテル精 五・〇
 橙皮舍利別 一五・〇
 餾水 一〇〇・〇
 右乳劑トシテ投與

Rp.
Camphorrit. 1,0
Gummi arabici 10,0
Spiritus aetheris 5,0
Sirupi Cort aurantii 15,0
Aquae destillatae 200,0
M. F. Emulsio. D. S.

同上處方ノ例

同上製法

燐乳劑

右ノ乳劑ヲ製スルニハ先ツ精製樟腦(即片腦)一グラムヲ乳鉢ニ取リ無水アルコール或ハ「エーテル」ノ少量ヲ滴加シ研磨シテ粉末トナス(之ヲ樟腦末 *Camphorrit.* ト云フ)之ニ「アラビアゴム末十グラム」ヲ加ヘテ均同ニ混和セシメ尙研磨シ橙皮舍利別十五グラムヲ注キ充分乳化セシメタル後之ニ蒸餾水ヲ少許宛注加シテ稀薄スルノ後「エーテル精」五・〇ヲ加ヘ其全量ヲ二百グラムトナスニアリ。

燐乳劑 *Phosphor-emulsion*. ハ最モ精密ノ注意ヲ要スルモノニシテ從來其調製ニ數種ノ方法ヲ應用セリト雖トモ就中脂肪油ヲ媒介トナシ製スルノ法ヲ最モ適當ナリトス即チ先ツ燐ヲ脂肪油ニ溶解シテ後チ之ヲ油製乳劑ノ法ニ依テ乳化セシムルニアリ今其處方例ヲ擧ケ且ツ其製法ヲ示スコト左ノ如シ。

○處方
 燐 〇・〇〇六
 甘扁桃油 五・〇
 アラビアゴム末 適宜
 右乳劑二〇〇・〇トナシ投與

Rp.
Phosphori. 0,006
Olei amygdal. 5,0
Gummi arabici. q. s.
F. Emulsio. D. S. 200,0

燐乳劑ノ處方例

同上ノ製法

此乳劑ヲ製スルニハ先ツ「ピルセツト」ヲ以テ燐素ヲ貯瓶ノ水中ヨリ出シ之ヲ小切シ濾紙片ヲ以テ其水ヲ拭ヒ去リ手早ク其六ミリグラムヲ秤取シ之ヲ豫メ試験管中ニ秤取シタル甘扁桃油五グラム「ノ中ニ投シ能ク適合スル木栓ヲ管口ニ嵌メ暫時其管底ヲ沸湯中ニ温メ注意シテ振盪シ燐片ノ全ク溶解スルニ至リ之ヲ冷水中ニ漬シ能ク冷却セシメ置キ乳鉢ニ「アラビアゴム末二グラム」半ヲ採リ研磨シ之ニ三・二五グラム「ノ乳化水ト前ニ溶解シ置キタル燐油トヲ同時ニ加ヘ強ク研磨シ充分乳化シタル後漸々賦形液ヲ注加シテ其全量ヲ二百グラムトナス又豫製燐油ヨリ製スルヲ便トス。

蠟カ、オ脂等ノ
乳劑

右ニ列記セル乳劑ノ外ニ尙ホ蠟乳劑、カ、オ脂乳劑、及鯨腦乳劑等アリ之ヲ製スルニハ其所用乳鉢及乳棒ニ可及的温熱ヲ保セシメ且ツ乳化水ノ如キモ沸湯ヲ用ユルニアリ即チ此等ノ藥物ハ常温度ニ於テ固態ヲ保有スルニモ拘ラス其質細末トナシ難キカ故ニ温ヲ與ヘテ熔融セシメ流動ノ形態トシテ之ヲ製スルニアリ此乳劑ノ調製ニ要スル成形成藥ハ藥物一分ニ付同量ノ「アラビアゴム末及ヒ一分半ノ温乳化水ヲ適當トス今其一例ヲ掲クレハ左ノ如シ。

同上處方ノ例

- 處方
- 黄蠟 10.0
- ヲ採リ微温ヲ以テ熔融セシメ
- アラビアゴム末 適宜
- 沸湯 100.0
- 蜀葵舍利別 50.0
- ヲ以テ乳劑トナスノ後
- 阿片丁幾 1.0
- ヲ混和シ投與
- 用法毎時一食匙宛服用

同上ノ製法

右ノ乳劑ヲ製スルニハ先ツ黄蠟十グラムヲ小蒸發皿ニ採リ之ヲ重湯煎上ニ熔融セシメ置キ別ニ温乳鉢ニ「アラビアゴ

- Bp.
- Cerae flavae. 10.0
- Leni calore liquefacta cum gummi arabici. q. s.
- Aquae fervidae 200.0
- Sirupi althaeae. 50.0
- in emulsionem rebige.
- cui adde.
- Tincturae Opii simplicis 1.0
- D. S. Stündlich 1 Esslöffel.

温習スヘキ處方
例

ム末十グラムヲ採リ之ヲ温乳鉢ヲ以テ研磨シツ、之ト同時ニ右ノ熔融シタル黄蠟ト熱湯十五グラムヲ注キ斷ヘス研磨シテ充分乳化スルノ後温湯百グラムヲ漸々ニ注加シ終リ之ニ蜀葵舍利別五十グラムヲ加ヘテ尙輕ク研磨シ平均ニ混和シタル後阿片丁幾一グラムヲ加フルニアリ。

- 處方
- カ、オ脂 20.0
- アラビアゴム末 10.0
- 橙花水 15.0
- 單舍利別 50.0
- 右法ニ從テ乳劑トナシ投與
- 用法毎時一食匙
- 處方
- 黄蠟 15.0
- 卵黄 二箇
- 薄荷水 120.0
- ヲ以テ乳劑トナシ之ニ
- サフラン舍利別 20.0
- ヲ加フ
- 右一食匙宛服用

- 處方
- 鯨腦 5.0
- アラビアゴム末 適宜
- 桂皮水 15.0
- ヲ以テ乳劑トナシ之ニ
- 桂皮舍利別 30.0
- ヲ加フ
- 右一日三回宛二分服用
- 處方
- 大楓子油 2.0
- 卵黄 二箇
- 水 100.0
- 右乳劑トナシ之ニ
- 橙花舍利別 20.0
- ヲ加ヘ投與
- 用法一日三回分服用

紙劑又煉劑 Electuaria, (Conserveae.)

(獨) Latwergen.
(英) Electuaries.
(佛) Electuares.

紙劑一般ノ製法

紙劑ハ植物粉末類、越幾斯類其他鹽類等ヲ糖質類殊ニ蜂蜜或ハ舍利別ヲ以テ煉合シタルモノニシテ其容器ヲ傾瀉スルモ容易ニ流出シ克ハサル糊狀若クハ軟稠越幾斯ノ稠度ヲ有スルモノナリ。
今紙劑ヲ製セント欲セハ先ツ粉末ト爲スヘキモノ或ハ粉末狀ノ藥物ヲ乳鉢ニ取リ研和シ之ニ液體藥物或ハ粘稠又ハ軟稠藥物ヲ加ヘテ煉合シ全質均同ノ軟塊ト爲スヘシ而シテ處方中賦形藥ノ分量ヲ記載セサルトキハ適當ノ稠度ヲ有スルニ至ル迄之ヲ加フルヲ要ス然レトモ不溶性鹽類等ノ如キ藥物ヲ混スルトキハ其器底ニ沈降スルノ恐レアルモノハ稍々濃稠ニ製シ又植物性殊ニ粘漿性ノ粉末ハ漸々水分ヲ吸收シテ膨脹スルカ故ニ稍々稀稠ニ製スルカ或ハ先ツ稀薄ノ泥汁ト爲シ暫時放置シタル後更ニ適宜ノ賦形藥ヲ加ヘテ適稠ノ紙劑ト爲スニアリ例之ハ

紙劑ノ處方例

○處方
重酒石酸カリウム 一五・〇
精製硫黃 一五・〇
茴香水 一〇・〇

Rp.
Kali bitartarici. aa. 15,0
Sulfuris depurati. aa. 15,0
Fructus Foeniculi. pulverati. 10,0

蜂蜜

適宜

右混和シテ紙劑ト爲シ硝子壺ニ入レ與フ
用法朝夕一茶匙宛

Mellis. q. s.
M. F. Electuarium D. in Olla vitra.
S. Früh und abends 1 theelöffel.

同上ノ製法

之ヲ製スルニハ重酒石酸カリウム一五・〇グラム精製硫黃一五・〇グラム茴香水一〇・〇グラムニ取リ研和シ之ニ蜂蜜ノ適宜凡ソ二〇・〇グラムニテ加ヘテ煉合調製スルニアリ。

今日本藥局方ニ規定スル複方センナ紙劑其他屢々處方セラル、モノ一二三ヲ例示スレハ左ノ如シ。

温習スヘキ處方

例

○複方センナ紙劑

之ヲ製スルニ

タマリンド

十分

ヲ取リ

蒸餾水

四十分

ナ注キ約二時間温ヲ與ヘテ攪拌シ全量均等トナル

ニ至リ豫メ秤量セル量皿中ニ篩過シ之ニ

甘草越幾斯

一分

白糖

五十五分

蒸餾水

三十五分

ヲ加ヘ重湯煎上ニ温メ甘草越幾斯及白糖ヲ全溶セ

シメ別ニ

センナ葉末 七分
橙皮末 三分
茴香末 一分
沈降硫黃 三十五分
重酒石酸カリウム末 十分
ヲ取リ親密ニ混和セルモノヲ併合シ更ニ重湯煎上ニ於テ攪拌シテ、蒸發シ其全量ヲ百三十五分トナシタル後之ニ
橙皮舍利別 三十五分
ヲ混和シ次ニ白糖ヲ焦烘シテ暗褐色トナセルモノ適宜ヲ加ヘ能ク攪和シ全量均等類褐色ノ軟塊トナシ製スヘシ乾燥冷涼ノ處ニ貯フヘシ

日本藥局方ノ紙劑

(獨) Pulver.
(英) Powders.
(佛) Pouders.

散劑トハ總テ乾燥セル藥物例令ハ鹽類植物性粉末或ハ他ノ粉狀藥物等ヲ混合シタルモノニシテ之ヲ單複ノ二種ニ區別ス即チ單一ノ散劑トハ單味ノ藥物ヨリ成ルモノヲ云ヒ複雜ノ散劑トハ二味以上數種ノ粉末狀藥物或ハ少量ノ丁幾越幾斯等ヲ混合シタルモノ

散劑 pulveres.

- 處方
ヤラツバ根末 各五・〇
蘇香 各五・〇
右混和シ與フ
用法臨臥一食匙宛頓服
- 處方
瘦方甘草散 一五・〇
蓖麻子油 一五・〇
右煉合シテ紙劑トナシ與フ
用法朝夕半食匙宛
(瘦方甘草散ノ製法ハ製劑ノ部ニアリ)
- 處方
綿馬越幾斯 一・〇
精製蜂蜜 一〇・〇
右紙劑トシテ投與
用法二回ニ分服ス
- 處方
大楓子(外殼ヲ去ルモノ) 一〇〇・〇
ヲ搗碎シテ泥トナスノ後
生薑末 各一五・〇
ゲンチアナ末
ヲ加ヘテ均等ニ混和セシメ
精製蜂蜜
ヲ以テ紙劑ト爲シ與フ
用法一日三回一茶匙宛服用 適宜

散劑一般ノ製法

ヲ云フ總テ散劑トナスベキ藥物ハ極メテ細末ナルヲ要スレトモ或ル二三ノ藥物ニ於テハ充分細粉トナシ難キモノアリ例令ハ麥角、サフラン、麝香等ノ如キ強テ之ヲ細末トナサントスルトキハ強ク乾燥セザルベカラズ然ルトキハ其主成分ノ幾分ヲ消失スルノ恐れアリ故ニ是等ノ藥物ニ在テハ可及的微温ヲ以テ之ヲ乾燥シ粗末トナシテ其用ニ供セサルヲ得ス其他揮發性ノ成分ヲ含有スル藥物ノ散劑ハ總テ此例ニ依テ調製スルヲ要ス。

總テ散劑ヲ製スルニハ先ツ陶器乳鉢ノ注口ヲ有セサルモノ所謂散劑乳鉢中ニ粉狀藥物ヲ取り乳棒ヲ以テ之ヲ輪狀ニ研磨スルコト凡ソ二十回ニシテ乳鉢ノ周壁及乳棒ニ附着スルモノヲ匙ヲ以テ掻集シ更ニ研磨スルコト凡ソ二十回ニ至レバ充分混合セシムルヲ得ベシ然レトモ藥物ノ種類ニ依リ斯ノ如クスルモ尙充分混合セシメ難キモノアリ即チ緻密ナル藥物ト輕鬆ナル粉末トヲ混合スルモノ例令ハ次硝酸蒼鉛ト番木鱉越幾斯及炭酸マグネシウム若クハ煨製マグネシアトノ散劑ノ如シ此場合ニ於テハ先ツ右ノ藥物ヲ稍大ナル乳鉢ニ於テ研磨混合セシメタル後之ヲ篩過シ其殘留物ヲ再ヒ乳鉢ニ取り向研磨シテ充分混和セシムルヲ可トス。

總テ藥物ヲ混スルノ順序ハ既ニ合劑ノ條ニ掲ケタルカ如ク總テ少量ニ用ユル藥物ハ通

散劑ヲ製スルノ注意

常其効力ノ強キモノナルヲ以テ先ツ之ヨリ秤取研和スルヲ正法トスレトモ散劑ニ於テ斯ノ如クスルトキハ其有効分タル少量ノ粉末ハ悉ク乳鉢ノ壁面ニ附着スルノ恐アリ故ニ散劑ヲ製スルノ順序ハ豫メ少量ノ藥物ハ別ニ秤量シ置キ先ツ賦形藥ノ凡ソ半量ヲ乳鉢ニ採リ之ヲ研磨シタル後其少量ノ藥物ヲ投シテ輕ク研磨シ能ク賦形藥ト混和セシメタル後尙殘餘ノ賦形藥ヲ加ヘ更ニ研磨スルノ法ヲ用ユヘシ又白色ノモノト帶色ノモノトヲ混スル場合ニ於テハ先ツ其量ノ多キ方ノ凡ソ半量ヲ乳鉢ニ投シ之ニ少量ノモノヲ混シテ克ク研和シ後チ殘餘ノ部分ヲ投シテ均同ニ混和セシムルヲ宜トス例之ハ鹽酸モルヒネ「ト大黃末又ハ甘草末トニ於ケルカ如シ又鹽酸モルヒネ「ト重碳酸ナトリウム「トヲ混和スルトキハ兩末共ニ白色ナルヲ以テ其均等ニ混和セシヤ否ヤヲ知ル克ハス此ノ如キ場合ニハ着色乳糖若クハ甘草末等ノ少量ヲ混シテ製スルコトアリ即チ其全質均同ニ着色スルニ至レハ平等ニ混和シタルヲ知ルヘシ又特別ニ細微ノ粉末ヲ要スルトキハ更ニ水飛法 *Effluvia* ヲ採用スヘシ然レトモ此法ハ水ニ全ク溶解セサルモノニ限ル其法ハ先ツ藥物ニ少量ノ水ヲ加ヘテ能ク研磨シ更ニ多量ノ水ヲ加ヘテ攪拌シ其水面ニ浮遊スル部分ヲ水ト共ニ濾紙上ニ傾瀉シ尙乳鉢中ニ殘留スル部分ハ更ニ研磨シテ再ヒ前ノ如ク行ヒ其濾紙上ニ集メタルモノヲ採リ乾燥セシムルニアリ例令バ點眼用粉劑ヲ製

水飛法

散劑ノ賦形藥

スル場合ノ如シ。

散劑一包ノ適量

散劑ノ賦形藥ニハ通常白糖末、甘草末、乳糖末等ヲ用ヒ特ニ惡臭味ヲ有スル藥物ノ賦形藥トシテハ常ニ白糖 *Eleosaccharum* ヲ用ユ之レハ所謂賦形藥ト調味藥トヲ兼ネタルモノナレハ處方箋上屢々記載セラル、モノナリ又賦形藥ノ分量ヲ記セスシテ單ニ適宜ト記載アルトキハ通常主藥ト賦形藥トヲ合シテ大約〇・五グラム「ヲ以テ一回量ト定ムベシ例令バ主藥〇・一ナルトキハ賦形藥〇・四ヲ加ヘ一包トナスカ如シ。

總テ散劑ノ處方ニハ其藥物單ニ一包ノ量ヲ記スルモノト又其全量ヲ數包ニ分割スヘク指定スルモノトノ別アリ往々之レヲ誤認スルコトアレハ特ニ其調製法及用法ニ注目スルヲ要ス例令ハ

處方箋上散劑ノ分量

〇處方	〇〇・五	〇處方	〇〇・一五
阿片		タンニン酸	
乳糖	〇・五	乳糖	二・五
右混和一包トナシ五包ヲ與フ		右混和五包トナシ投與	

又右ノ如ク分包セスシテ其全量ヲ適宜ノ容器ニ入レテ投與シ患者ヲシテ自ラ之ヲ分服セシムルコトアリ此場合ニ於テハ一回分ノ服量ヲ包ミ其全量ニ添ヘテ投與スヘシ之レ患者自ラ分服スルノ際其標準トナスニ便宜ナレバナリ今其一例ヲ示セハ左ノ如シ。

散劑ノ分割

○處方
 重炭酸ナトリウム
 次磷酸蒼鉛
 龍膽末

右混和一日三回一小刀尖宛

三〇・〇
 一五・〇
 五・〇

○處方
 假製マゲチシア
 大黃末
 薄荷油

右混和投與用法口授

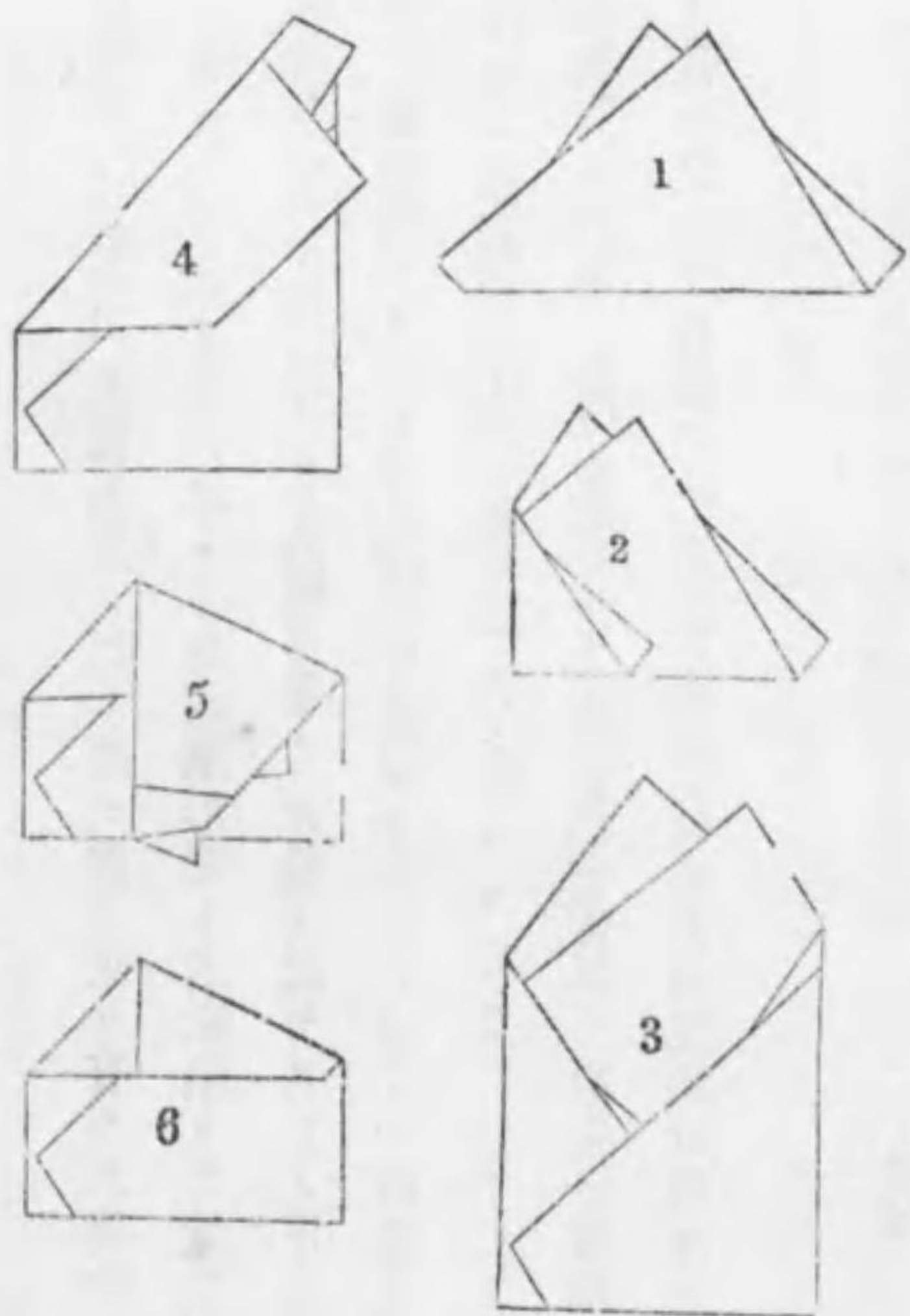
二〇・〇
 五・〇
 一滴

散劑ヲ分割スルニハ第五十七圖ニ示ス如キ散劑舟ト名クル角製舟形器ヲ用ユルヲ便ト

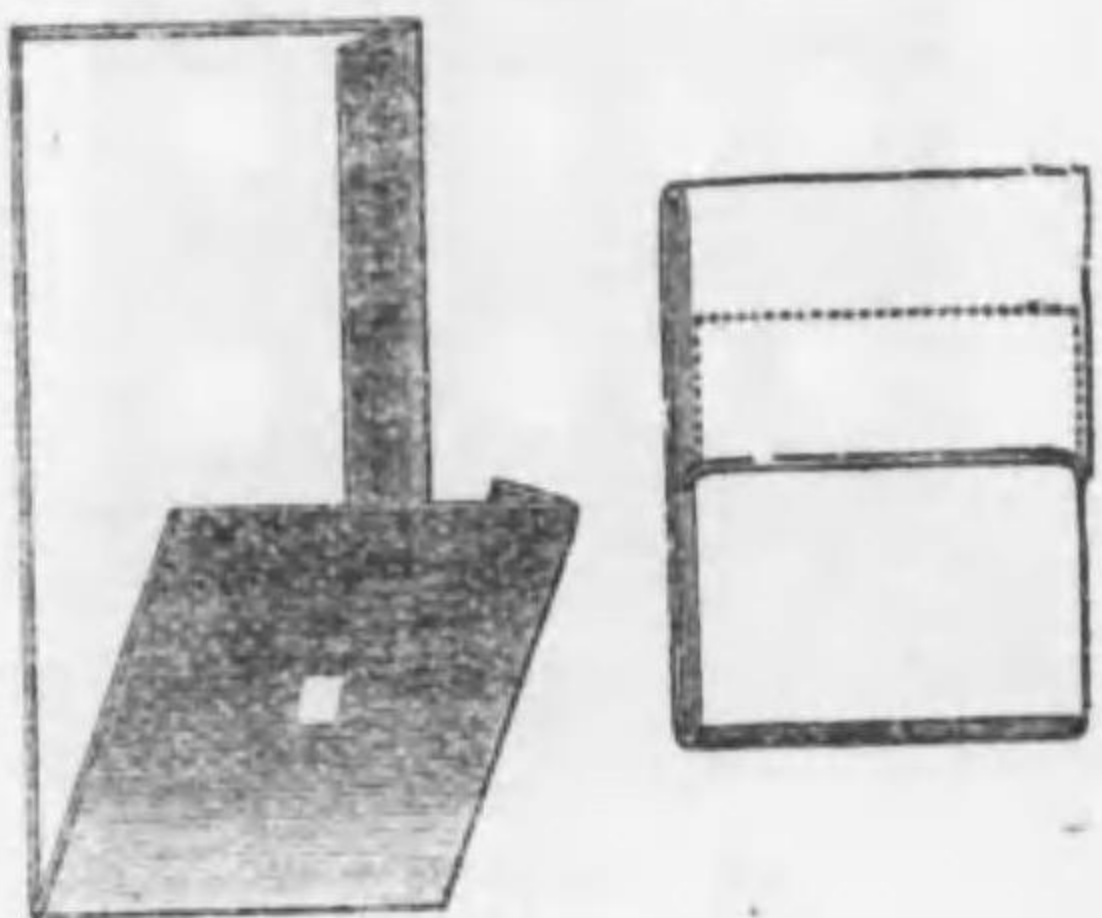
圖七十五第



圖八十五第



圖九十五第



方法順序ヲ示シ又第五十九圖ハ歐米諸國ニ於テ行ハル、散藥被包ノ
 今單一ナル散劑ノ處方例一二ヲ掲クレハ左ノ如シ。

單一ノ散劑處方
例及其製法

○處方
 鹽酸キニーネ
 右散トナシ「オブラット」ニ包ミ頓服

〇・五

Rp.
 Chinini hydrochlorici. 0,5
 F. Pulv. S. Auf einmal zunehmen
 mit oblaten.

各論 散劑

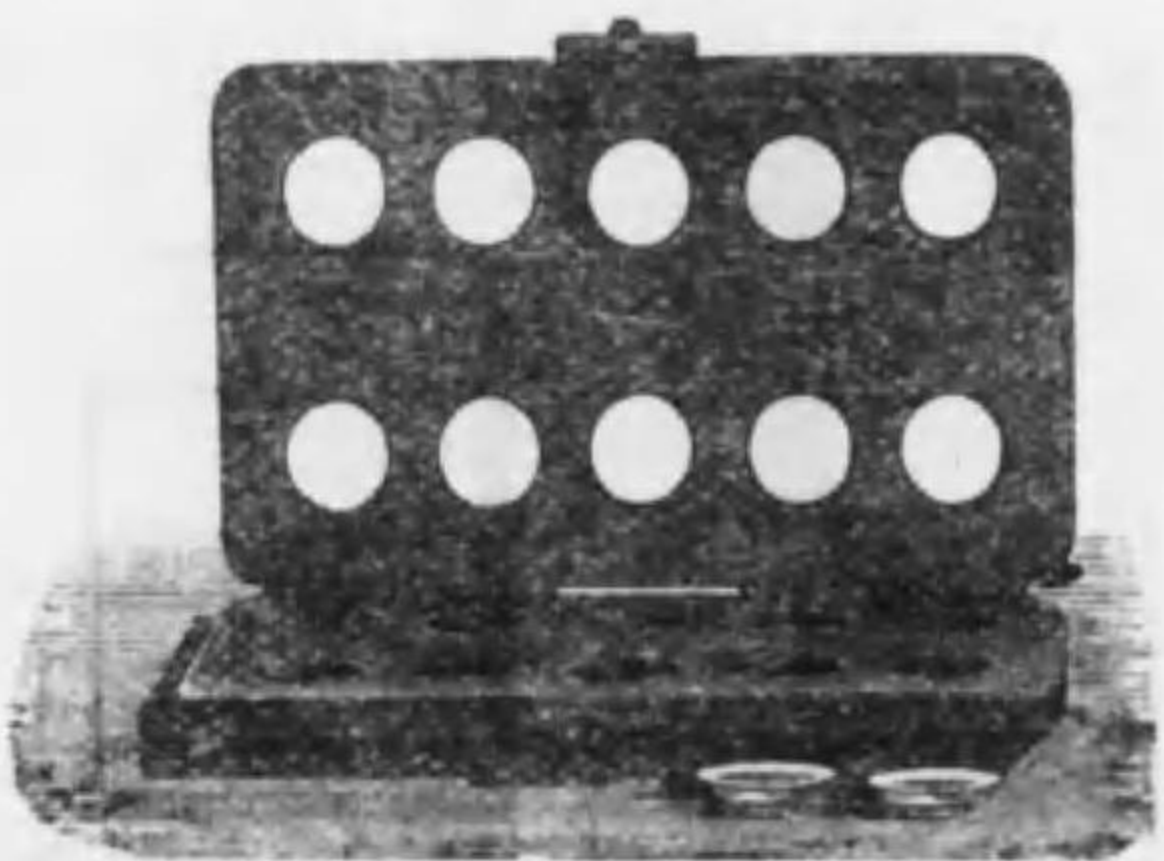
「オブラート」ノ解

○處方
サリチール酸ナトリウム
右爲散一日三回一包宛服用

Rp.
Natri salicylici.
F. Pulv. S. Täglich 3 mal 1 Pulver.

右ノ散藥ヲ製スルニハ鹽酸キニーネ五テグラム或ハ「サリチール酸ナトリウムニグラム」ヲ秤量シ其儘之ヲ被包シ「オブラート」ト共ニ内用藥袋ニ容レ其用法ヲ記入シテ投與スルニアリ。
餅皮 Valament amyloca, ハ(獨逸語ニ Ohale, ト云ヒ英語ニ Water, ト稱ス)澱粉ト「コム末トヲ以テ製シタル薄キ餅片ニシテ本邦ノ寒^{モトカシカリ}月皮ニ類スルモノナリ之ハ藥局ヨリ藥物ト共ニ投與シ患者自ラ之ヲ被包シテ服用スルモノナレトモ其被包ノ方法ハ經驗ナキ素人ニハ少シク困難ノ嫌ナシトセス故ニ此弊ヲ避ケル爲メニ近來膠糖ニ類

圖 十 六 第



圖一十六第



圖 二 十 六 第



圖三十六第



似スル第六十一圖ノ如キモノ所謂餅囊ヲ用ユルコトアリ之レ膠糖ノ如ク藥局ニ於テ藥物ヲ容レ投與スルモノナリ第六十圖ニ示スモノハ即チ餅囊中ニ藥物ヲ容ル、ニ用ユル器械ニシテ閉閉シ得ヘキ二箇ノ金屬板ヨリ成リ一面ハ貫通セル圓孔ヲ有シ他ノ面ハ之ニ對當セル部位ニ凹窩ヲ有シ之ニ餅囊ノ半片ヲ嵌ル得バク構造シタルモノナリ今之ヲ使用スルニハ上圖ノ如ク開展シテ凹窩部ヲ有スル板ヲ下方トナシ之ニ餅囊ノ半片ヲ嵌ルシ其板上板ヲ合セ此處ヨリ其邊緣ニ隣レサル様注意シテ藥物ヲ盛り再ヒ上板ヲ閉キ貫通セル孔部ニ尙半片ノ餅囊ヲ嵌ルシ第六十三圖ニ示セル附水器ヲ取り水ヲ以テ湯シ之ヲ上面ニ嵌ルセル餅囊ノ邊緣上ニ廻轉シタル後第六十二圖ノ如ク之レヲ閉合シ強ク壓シタル後之ヲ開展シ適宜ノ容器上ニ於テ之ヲ傾倒シ其孔部ノ後面ヨリ指頭ヲ以テ輕ク壓出スルニ

又複雜ナル散劑ノ處方例一二ヲ示セバ左ノ如シ。

○處方	重碳酸ナトリウム	四・〇	Rp.	Natri bicarbonici.	4,0
	大硝酸蒼鉛	二・〇		Bismuthi subnitrici.	2,0
	大黃末	一・〇		Pulv Radicis Rhei.	1,0
	右爲散六包ニ分チ一日三包宛服用			M. F. Pulv. No. VI. S. Täglich 3 Pulvern.	
○處方	次硝酸蒼鉛	一・〇	Rp.	Bismuth. subnitric.	1,0
	鹽酸モルヒネ	〇・〇四		Morph. muriat.	0,04
	白糖	五・〇		Sacch. aib.	5,0
	右混和散トナシ同量八包ニ分チ與ノ用法一日二回一包宛			M. F. Pulv. Div. in dos. aeq. NoVIII	
				D. S. 3 mal täglich 1 Pulver.	

パラヒン紙ノ製法

第一ノ處方ハ先ツ重炭酸ナトリウムニ〇チ乳鉢ニ採リ輕ク研磨シ次ニ大黃末一グラムヲ加ヘ更ニ研磨シ能ク之ト混和スルノ後次硝酸蒼鉛ニグラムヲ加ヘ研磨シ更ニ重炭酸ナトリウムニグラムヲ加ヘ再ヒ研磨シ平等ニ混和セシメ其全量七グラムニテ六枚ノ藥包紙上ニ分割シ第五十八圖ノ如キ順序ニ之ヲ被包シ藥袋中ニ入レ法ノ如ク用法ヲ記載シ投與スルニアリ茲ニ用ユル藥包紙ハ巴拉實紙ヲ用ユヘシ蓋シ斯ノ如キ方劑ハ容易ク大氣中ノ水分ヲ引キ濕潤スル恐レアレハナリ次ノ處方ハ先ツ白糖末半量ヲ乳鉢ニ採リ研磨シ次ニ鹽酸モルヒネ〇・〇四ヲ加ヘ克ク混和セシメ次ニ次硝酸蒼鉛一〇チ加ヘ尙ホ研和シ次ニ殘半量ノ白糖末ヲ加ヘ充分混和セシムルニアリ。

巴拉實紙 *Charta paraffinata* ハ大氣ノ滲透ヲ防キ濕潤性ノ藥物ヲ被包スルニ適用シ且ツ不快ノ臭氣ナキヲ以テ方今之ヲ蠟紙ニ代用ス今藥局ニ於ケル小装置ノ製法ハ適宜大ノ銅版若クハ鐵製板ヲ凡ソ五十度ノ温ヲ保テル火爐ニ置キ其板上ニ布片ヲ敷キ之レニ適スル硝子板ヲ其上ニ定置シ今原紙ヲ其板上ニ敷キ巴拉實ノ小塊ヲ白布ニ包ミタルモノ二個ヲ兩手ニ把持シ其中央ヨリ四方ニ向テ塗擦シ可及的薄ク之ヲ塗布スルニアリ即チ其紙ノ悉ク半透明ニ變スルヲ以テ度トシ後チ暫時冷處ニ放置シ之ヲ適宜大ノ筒數ニ裁切シ散劑ノ包紙ニ供スヘシ。

日本藥局方ニ規定セラル、散劑ノ外通常常用セラル、單複散劑ノ處方數例ヲ掲クレハ左ノ如シ。

温習スヘキ處方例

- 〇處方
アンチフエアリン
右一包トシテ臨臥頓服
〇・四
- 〇處方
人工カル、ス泉鹽
右一包頓服
一・五
- 〇處方
ブロームカリウム
澱粉
右三包トナシ與フ
用法一日三回分服
三・〇
一・五

散劑處方例

〇處方 ドーフル散 右一包トシテ臨臥頓服 〇・五	〇處方 小兒散 右一日三回一小刀尖宛 三〇〇	〇處方 アガリチン 乳糖 右一包トナシニ包チ與フ 用法臨臥頓服二回分 〇・〇〇五 〇・五	〇處方 ヘプシン 乳糖 右六包トナシ投與 用法一日六回一包宛 一・二 二・〇
〇處方 白糖 右一包ト爲シ三包投與 用法一日三回分服 〇・一	〇處方 コアイン 乳糖 右一包ト爲シ二包チ與フ 用法朝夕一包宛服用 〇・〇一五 〇・五	〇處方 カフエイン 乳糖 右六包トナシ投與 用法一日六回一包宛 一・二 二・〇	〇處方 ヘプシン 乳糖 右爲散三包 用法每食前一包宛 一・〇 〇・二 一・五
〇處方 蘆草酸亞鉛 ブロームカリウム 乳糖 右一包トナシ三包チ投與 用法一日三回分服 〇・〇二 〇・三 〇・三	〇處方 乳糖 右爲散三包 用法一日三回分服 〇・〇二 〇・三	〇處方 ヘプシン 乳糖 右爲散三包 用法每食前一包宛 一・〇 〇・二 一・五	〇處方 ヘプシン 乳糖 右爲散三包 用法每食前一包宛 一・〇 〇・二 一・五

散劑處方例

○處方	甘朮	〇・二
○處方	乳糖	〇・六
右六包ト爲シ投與		
用法一日三回宛二分服		
○處方	純精酒石	一〇〇
○處方	硫黃華	一〇〇
○處方	白糖	一五〇
右爲散朝夕一茶匙		
○處方	鹽酸キニート	一〇
○處方	ヘブシン	三〇
○處方	白糖末	二〇
右十包トナシ一日三回食前一包宛		
○處方	重炭酸ナトリウム	一・五
○處方	木炭末	一・五
○處方	薄荷油糖	適宜
右爲散毎食後一包宛		
○處方	キナ皮細末	二〇
○處方	乳糖	一〇
右三包トナシ六包ヲ與フ		
用法一日三回一包宛		
○處方	瘦方甘草散	五〇
右爲散一日二包ヲ與フ		
用法朝夕一服宛(瘦方甘草散ノ製法ハ附録製劑ノ部ニ出ス)		
○處方	アンチピリン	〇・三
○處方	タンニン酸キニート	〇・五
○處方	白糖	〇・三
右一包トナシ三包ヲ投與		
用法一日三回分服		
○處方	ドーフル散	〇・三
○處方	次硝酸蒼鉛	〇・一
○處方	アラビアゴム末	〇・一

散劑處方例

○處方	ヤラツバ末	一〇〇
○處方	酒石酸	一〇〇
○處方	茴香油糖	一〇〇
右爲散毎三時一茶匙宛(奏効チ度トス)		
○處方	ザヤタリス末	一〇
○處方	硝酸カリウム	八〇
右分九包一日三回一包宛		
○處方	硝酸銀	〇・五
○處方	次硝酸蒼鉛	五〇
右六包ニ分チ一日三回宛		
○處方	サリチール酸	〇・五
右一包トナシ四包ヲ與フ		
用法朝夕一包ツ、二分		
○處方	カンフル酸	〇・七
右一包トナシ頓服		
白糖		〇・六
右一包トナシ六包ヲ與フ		
用法一日三包二分服		
○處方	次硝酸蒼鉛	〇・三
○處方	アラビアゴム末	〇・三
白糖		二〇
右六包トナシ投與		
用法一日三回二分服		
○處方	ナフタリン	〇・四
○處方	次硝酸蒼鉛	三〇
○處方	乳糖	〇・六
右六包トナシ與フ		
用法一日三回一包宛		
○處方	鹽酸ピロカルピン	〇・〇一
○處方	アンチフェブリン	〇・二
○處方	白糖	〇・五
右一包ト爲シ頓服		

散劑處方例

○處方 スルフォナール 右一包トナシ臨臥頓服	一・〇	○處方 炭酸苦土 炭酸石灰 白糖 アラビアゴム末 右一日三回一小刀尖宛	各一〇・〇 各五・〇
○處方 フェナセチン 右一包トナシ頓服	一・〇	○處方 コロムボ末 大黃末 キナ皮末 右散藥六包トナシ一日三回一包ツ、	〇・五 〇・一 一・〇
○處方 鹽酸モルヒネ 乳糖 右散一包トナシ與フ 用法一回ニ頓服	〇・〇 〇・一	○處方 阿片末 阿仙藥 アラビアゴム末 右爲一包其十包ヲ作り與フ	〇・〇六 〇・五 〇・五
○處方 炭酸リチウム 白糖 右混和散トナシ十包ヲ與フ 用法一日三回一包宛	二・〇 四・〇	○處方 沈降製硫黃 酒石英 茴香末 白糖 右爲散劑投與 用法一日三回一茶匙宛	各五・〇 各五・〇 二〇・〇
○處方 ゲキタリス末 樟腦末 乳糖末	〇・二 〇・一五 〇・六		

散劑處方例

丁幾類ノ散劑

同上處方ノ例及
其製法

右一包トナシ三包ヲ與フ 用法一日三回一包宛	〇・五	沈降製硫黃 酒石英 茴香末 白糖 右爲散劑投與 用法一日三回一茶匙宛	各五・〇 各五・〇 二〇・〇
○處方 次硝酸蒼鉛 阿片末 薄荷油糖 右爲一包其十二包ヲ作り與フ	〇・五 〇・〇五 適宜		
凡ソ丁幾類ヲ配伍スル散劑ニ於テハ其含有スル有効分揮發性ナルヤ否ニ注意スベシ若シ揮發性ナラサルトキハ先ツ乳糖ニ熱湯ヲ注キ暫時ノ後之ヲ傾瀉シ能ク其水分ヲ拭ヒ去ルカ或ハ乳糖ヲ重湯煎上ニ温メ置キ先ツ少量ノ賦形藥ヲ投シ輕ク研磨シ其上ニ丁度ヲ滴加シテ研磨スレハ其乳糖ノ温度ニ依テ丁幾ノ酒精分揮散スルカ故ニ能ク乾燥粉末トナスヲ待ヘシ今其一例ヲ舉クレハ左ノ如シ。			
○處方 單阿片丁幾 乳糖 右混和散藥一包トシテ十包ヲ與フ一日三包宛 服用	〇・一 〇・五	Rp. Tincturae Opii Simplicis. Sacchari lactici M. F. Pulv. D. tal, doses, X. S. tägl. 3 pulv.	0,1 0,5

揮發性丁酸ノ散劑

同上處方ノ例及其製法

之ヲ調製スルニハ先ツ乳鉢ヲ法ノ如ク温メ凡ソ乳糖一グラムヲ投シ研磨シテ次ニ單阿片丁酸一グラムヲ加ヘ研磨シ終リニ殘餘ノ乳糖末五グラムヲ加ヘ研和シ平等ニ混和シタル後之ヲ十分シ巴拉賓紙ニ包ミ與フルニアリ。若シ其丁酸揮發性ノ成分ヲ含有スルトキハ右ノ方法ニ從フコト能ハス然ルトキハ止ムヲ得ス稍濕潤性ノ散劑ヲ製シ巴拉賓紙ニ包ミ投與セサルヘカラス例之ハ

○處方

阿片安息香丁酸

十滴

乳糖

適宜

右混和散劑六包トナシ巴拉賓紙ニ包ミ與フ

之ヲ調製スルニハ先ツ小形散劑乳鉢ヲ採リ之ニ瀘瓶中ヨリ阿片安息香丁酸十滴ヲ滴下シ之ニ乳糖適宜即チ三グラムヲ加ヘテ能ク研磨シ充分混和シタル後之ヲ平等ニ六分シ其濕潤ノ儘巴拉賓紙ニ包ミ投與スルニアリ。右ノ例ニ依リ調製スヘキ散劑ノ處方ハ左ノ如シ。

○處方

カンダリス丁酸

○三

乳糖

○五

右混和散劑一包トナシ六包ヲ與フ

○處方

複方キナ丁酸

一・五

乳糖

○五

○處方

香水蠟丁酸

各二・〇

芳香阿片酒

乳糖

適宜

右六包ニ分チ一日三回一包宛

温習スヘキ處方例

越幾斯ノ散劑

右散劑一包トナシ一日三回一包宛

○處方

芳香丁酸

二・〇

樟腦

一・五

乳糖

三・五

右爲十包蠟紙ニ包ミ與フ

○處方

芳香阿片酒

一・〇

乳糖

適宜

右爲散劑六包每食後一包宛

越幾斯ヲ配伍スル散劑ハ屢々處方セラル、モノニシテ其越幾斯若シ乾燥製ノモノナルトキハ其調劑甚タ容易ナリト雖トモ其軟稠製ナルトキハ其秤量ニ於テ大ニ手數ヲ要スヘシ而シテ通常散劑トシテ應用セラル、軟稠越幾斯ハ所謂麻醉性越幾斯ニシテ其處方セラル、分量ハ極メテ少量ナルカ故ニ之ヲ正確且ツ容易ニ秤量スルニハ豫メ之ヲ乾燥越幾ストナシテ貯フルヲ便トス今之ヲ製スルニハ該越幾斯ニ等分ノ甘草末ヲ混和シ重湯煎上ニ蒸發シテ全ク乾燥スルニ至ラシメ之レヲ粉末トナシ秤量シテ通散セシ水分ノ減失量ヲ補フニ甘草末ヲ以テシ之ヲ細粉トナシ篩過スル後密閉セル瓶内ニ之ヲ貯フルニアリ而シテ其瓶札ニハ二倍用何々越幾スト記載スヘシ例之ハ莨菪越幾斯ナルトキハ二倍用莨菪越幾斯 Extractum Scopolinae duplivo. ト記スルカ如シ通常二倍用乾燥越幾ストシテ貯蓄スベキ麻醉性越幾スハ左ノ四種トス。

二倍用乾燥越幾斯

- 莨菪越幾斯 *Extractum Scopoliae.*
- ヒヨス越幾斯 *Extractum Hyoscyami.*
- 印度大麻越幾斯 *Extractum Cannabis indicae.*
- 雙鸞菊越幾斯 *Extractum aconiti.*

又藥局方ニ乾燥越幾斯トシテ規定セラル、モノハ固ヨリ二倍用越幾斯ヲ豫製スルノ要ナシト雖トモ番木鱉越幾斯若クハ阿片越幾斯ノ如キ氣候ノ變換ニ依テ軟稠トナリ容易ニ散劑トナシ難キコトアリ此場合ニ於テモ亦二倍用越幾斯ノ豫製ヲ必要トスベシ。

乾燥越幾斯ノ賦形藥

豫製乾燥越幾斯ヲ製スルニ他ノ賦形藥例之ハ「デキストリン或ハ乳糖ヲ用エルモ妨ケナシト雖トモ此二品ハ多少引濕性ヲ有シ其製造ノ際充分ニ乾燥セシメ難ク且ツ調劑ノ際貯藏瓶ノ閉鎖頻繁ナルトキニハ遂ニ濕潤ヲ引クノ恐レアリ故ニ此賦形藥ニハ通常甘草末ヲ擇用スルヲ宜トス。

軟稠越幾斯ノ散劑

今若シ豫製乾燥越幾斯ノ貯蓄ナキトキハ止ヲ得ズ軟稠越幾斯ヲ以テ散劑ヲ製セザルベカラス此場合ニ於テハ先ツ乳糖ヲ重湯煎上ニ温メ乳糖ヲ熱湯中ニ浸シ其水分ヲ拭ヒ去リ別ニ巴拉賓紙上ニ秤量シタル越幾斯ヲ此乳糖ノ頭部ニ悉ク附着セシメ乳糖内ニ同量若クハ二倍量ノ賦形末ヲ投シ之レト研磨シテ稍濕潤シタル散劑トナシ他ノ配伍藥アルトキハ此後ニ加ヘ混和製スルニアリ。

今越幾斯ヲ配伍スル處方例ヲ舉クレハ左ノ如シ。

越幾斯散劑ノ處方例

- 處方
- 莨菪越幾斯 0.1
 - 乳糖 適宜
- 右混和散劑トシテ六包ニ分チ與フ
用法一日三回一包宛
- 右ノ處方ニ從ヘハ先ツ適宜ノ乳糖ニ乳糖一グラムヲ採リ研磨スルノ後二倍用乾燥莨菪越幾斯ノ二テナグラムヲ精密ニ秤量シテ之ニ加ヘ尙輕ク研磨シタル後殘餘ノ賦形藥即チ乳糖一グラム中ヲ加ヘテ研磨シ充分混和セシメタル後之ヲ六包ニ分シテ巴拉賓紙ニ包ミ投與スルニアリ。

同上ノ製法

又處方例

- 處方
- ヒヨス越幾斯 0.06
 - 甘草末 各0.3
 - 白糖末 各0.3
- 右混和散劑一包トナシ同量ノモノ十包ヲ與フ
用法朝夕半包宛服用

右ノ處方ニ依レハ先ツ適宜ノ乳糖ニ甘草末二・四グラム (記載量三グラムノ中六テナグラムハ既ニ二倍)ヲ研磨シタル後二倍用ヒヨス越幾斯一・二グラムヲ之ニ加ヘ輕ク研磨シ終リニ白糖末三グラムヲ加ヘ更ニ研磨シテ能ク混和セシメタル後之レヲ平等ニ十分シ巴拉賓紙ニ包ミ用法ヲ明記シテ投與スルニアリ若シ乾燥越幾斯ノ貯蓄ナキトキハ前ニ述ヘタル法ニ從ヒ臨時ニ甘草根末三グラムヲ以テ稍濕潤ノモノヲ製スルニアリ此場合ニ於テハ白糖ノ代リニ乳糖ヲ以テスルヲ宜シトス濕潤セル大氣中ニハ殊ニ然リ若シ著シキ引濕性ノ散劑ヲ投與スルトキハ巴拉賓紙ニ包ミ且ツ廣口

溫習スヘキ處方例

瓶ニ入レ投與スルヲ安全トス。
右ノ例ニ據リ調製シ得ヘキ散劑ノ處方例ハ左ノ如シ。

- 處方
 葛粉 〇・一
 番木鱉子末 〇・二
 乳糖 一・〇
 右散トナシ十包ニ分チ一日一包ツ、
- 處方
 番木鱉子末 〇・〇三
 次硝酸蒼鉛 〇・三
 炭酸マグネシウム 〇・一
 薄荷油精 〇・三
 右一包トナシ十包ヲ投與
 一日六回一包宛
- 處方
 カラメル豆越幾斯 〇・〇五
 アロームカリウム 各〇・五
 乳糖 一
 茴香油 一滴
- 處方
 雙巒菊越幾斯 〇・一
 茴香油精 〇・六
 右散トナシ十二包ニ分チ一日三回一包ツ、
- 處方
 阿片越幾斯 〇・一
 阿仙藥末 二・五
 甘草末 適宜
 右散トナシ十包ニ分チ與フ
- 處方
 番木鱉子末 〇・〇五
 乳糖 〇・二五
 右散一包トナシ六包ヲ與フ
- 處方
 印度大麻越幾斯 各〇・〇三
 ヒヨス越幾斯

散劑處方例

鹽類ノ散劑

- 右混和一包ト爲シ其十包ヲ作リ與フ
 用法一日三回一包宛
- 處方
 商陸越幾斯 一・〇
 重炭酸ナトリウム 六・〇
 龍膽末 一・〇
 薄荷油精 二・〇
 右十包用法朝夕二回一包宛
 (薄荷油精ノ製法ハ揮發油散劑ノ條ニアリ)
- 處方
 複方大黃越幾斯 二・五
 センナ末 二〇・〇
 ヤラツバ末 五・〇
 白糖 一〇・〇
 右一日二回一茶匙宛服用
- 鹽類ノ散劑ハ通常屢々處方セラレ特ニ重炭酸ナトリウム及次硝酸蒼鉛ノ如キハ最モ頻
 繁ニ用ヒラル、モノナリ其他數種ノ鹽類ヲ配伍スルモノ其數頗ル多シ然ルニ鹽類ノ性
 質ニ由リ他ノ藥物ト密接スルトキハ容易ニ分解シテ變性ヲ起スモノアリ殊ニ水分又ハ
 摩擦ノ媒介アルトキハ其變化最モ容易ナリトス故ニ散劑ニ供スル鹽類ハ先ツ以テ充分
- 白糖 〇・三
 右混和散一包ト爲シ八包ヲ與フ
 每三時一包宛
- 處方
 コロシント越幾斯 〇・〇二
 白糖 二・五
 右混和五包ニ分チ與フ
 用法每二時一包宛服用
- 處方
 ゲンチアナ越幾斯 〇・五
 乳酸鐵 〇・五
 乳糖 適宜
 右爲六包一日三回一包宛

乾燥シタルモノヲ使用セザルヘカラス且ツ之ヲ他藥ト混和スル際ニハ可成輕ク研和シ決シテ強力ヲ與ヘテ摩擦スヘカラス今其變化ニ就キ最モ著シキ危險ノ恐レアルモノヲ舉クレハ甘汞ト金硫黃或ハ甘汞ト「ヨード」等ノ如シ斯ノ如キ配伍ハ固ヨリ禁忌ニ屬スヘキモノトシテ通常處方セラレザルモノナレトモ調劑技術上最モ注意スヘキモノ、一例トシテ左ニ其方例及製法ヲ示シ。

化學的變化ヲ起スヘキ散藥ノ處方例

- 處方
- 甘汞 〇・五
- ヨード 〇・〇五
- 白糖 一〇・〇
- 右混和散劑トナジ二十包ニ分チ與フ

Rp.
Calomelanos. 0,5
Jodi. 0,05
Sacchari albi. 10,0
M. F. Pulv. Divide in 20 part aeq.
D. S.

右ノ處方ニ從ヘハ先ツ二個ノ乳鉢ヲ採リ其一方ニハ甘汞五テチグラムト白糖五グラムトヲ研和シ他ノ一方ニハヨード五センチグラムト白糖五グラムトヲ研和シ雙方ヲ輕ク混和セシメ平等ニ之ヲ十分シ之ヲ巴拉賓紙ニ包ミ投與スヘシ(白糖十グラムレハ前以テ乾燥シタルモノヲ採ルヘシ)。

右ノ例ニ據テ調製スヘキ鹽類散劑ノ處方ヲ例示スレハ左ノ如シ。

化學的變化ヲ起スヘキ鹽類ノ處方例

- 處方
- 硝酸銀 〇・一
- 重碳酸ナトリウム 三・〇

- 處方
- 硝酸銀 〇・一
- 炭酸マグネシウム 〇・五

- 次硝酸蒼鉛 二・〇
- 白糖 二・〇
- 右散トシテ十包ニ分チ與フ一日二回一包宛
- 處方
- 醋酸鉛 〇・〇五
- タンニン酸 一・〇
- 乳糖 〇・五
- 右散トシテ六包ヲ與フ一日三回一包宛
- 處方
- 鹽酸モルヒ子 〇・〇一
- 重碳酸ナトリウム 〇・五
- 白糖末 適宜
- 右散トナシ頓服三回分投與
- 處方
- 鹽酸コカイン 〇・〇五
- 重碳酸ナトリウム 三・〇
- 右散三包ニ分割シ與フ
- 用法一日三回一包宛

- 大黃末 〇・一
- 右混和散トナジ六包ヲ與フ一日三回一包宛
- 處方
- 阿片末 〇・〇二五
- タンニン酸 〇・〇五
- 乳糖 〇・五
- 右混和散一包トナシ十包ヲ作り與フ
- 用法一日三回一包宛
- 處方
- コカイン 〇・〇一五
- 醋酸鉛 〇・〇三
- 乳糖 適宜
- 右一包ト爲シ六包ヲ投與ス
- 用法一日六回一包宛
- 處方
- 阿片末 〇・〇三
- 重碳酸ナトリウム 一・〇
- 次硝酸蒼鉛 〇・五
- 右一包トナシ六包ヲ與フ
- 用法一日三回一包宛

沸騰散

○處方
 タンニン酸 〇・〇三
 コチン 〇・〇一五
 乳糖 〇・五
 右一包トナシ六包投與
 用法一日三回一包宛

○處方
 鉛糖 〇・三
 阿片末 〇・〇六
 乳糖 一・〇
 右散六包ト爲ス
 用法一日六回一包宛
 二日分投與

○處方
 フェラナン 一・五
 乳糖 一・〇
 右散三包ト爲ス
 用法一日三回食後一包宛

○沸騰散 Pulvis aerophorus. モ亦分解シ易キ鹽類散劑ノ一種ニシテ之ヲ製スルニ用ユル器具ハ勿論其藥物モ亦各別ニ乾燥セシムルヲ要ス今日本藥局方ニ規定セラル、モノハ

○處方
 甘草 各〇・〇六
 金硫黃 〇・六
 白糖 〇・六
 右混和散一包トナシ十二包ヲ與フ
 用法一日三回一包宛

○處方
 麥角鹼糖斯 〇・五
 醋酸鉛 〇・三
 乳糖 適宜
 右爲散六包用法一日三回一包宛

○處方
 ロダーゲン 六・〇
 右散六包トナス
 用法一日六回一包宛

日本藥局方沸騰散

沸騰散及緩下沸騰散ノ各包ニ對スル比例

沸騰散	重炭酸ナトリウム	酒石酸	白糖
4,0:	1,05	0,95	2,0
8,0:	2,10	1,95	4,0
10,0:	2,63	2,37	5,0
15,0:	3,95	3,55	7,5
20,0:	5,26	4,74	10,0
30,0:	7,60	7,10	15,0
50,0:	13,16	11,84	25,0
100,0:	26,32	23,70	50,0

緩下沸騰散	酒石酸ナトリウム	重炭酸ナトリウム	酒石酸
一包	7,5	2,5	2,0
二包	15,0	5,0	4,0
三包	22,5	7,5	6,0
四包	30,0	10,0	8,0
五包	37,5	12,5	10,0
六包	45,0	15,0	12,0
七包	52,5	17,5	14,0
八包	60,0	20,0	16,0
九包	67,5	22,5	18,0
十包	75,0	25,0	20,0

重炭酸ナトリウムニグラム酒石酸一・五グラムレヲ取り重炭酸ナトリウムレヲ着色紙、酒石酸ヲ白紙ニ包ミ投與シ此二包ヲ一回ニ服用セシムルニアリ其方ハ先ツ適宜ノ容器ニ半バ糖水ヲ盛り之レモ青色ヨリ重炭酸ナトリウムレヲ投シ攪拌シ溶解セシメタル後白紙ヨリ酒石酸ヲ之レニ投シ其沸騰ニ乗シテ飲用スルニアリ左ノ表ハ鹽類散劑トシテノ沸騰散及緩下沸騰散ノ各分量比例ヲ示スモノナリ。

旅行用沸騰散ハ或ハ錠劑トナシタルモノヲ適當トス即左ノ表ニ從テ製シタルモノヨリ其一定量例之ハ一グラム乃至二グラムレヲ以テ一個トナシタルモノヲ密閉器ニ貯ヘ用ニ臨ミ其二個乃至四個ヲ冷水ニ投シ沸騰ニ乗シ服用スルニアリ又日本藥局方ノ例ニ依リ鹽ト酸トハ別々ノ錠劑トナシ糖水ニ之レヲ投シ服用セシムルヲ安全トス然ルトキハ鹽ノ方ヲ着色セシムヘシ。

日本藥局方緩下沸騰散

Pulvis aerophorus laxans. ハ右ノ表ノ如ク酒石酸カリウムナトリウム七・五グラム重炭酸ナトリウム二・五グラムヲ取り混和シテ着色紙ニ包ミ別ニ酒石酸二グラムヲ取り白紙ニ包ミ投與スルニアリ。

英國沸騰散

Pulvis aerophorus anglicus. ハ日本藥局方規定ノモノト全く同一ナリ今沸騰散ノ處方ヲ例示スレバ左ノ如シ。

沸騰散ノ處方例

○處方

一包

Rp.

Pulveris aerophori,

1 dos.

右頓服

Auf einm. z. n.

同上ノ製法

右ノ處方ニ從ヘハ日本藥局方規ニ從ヒ其一面量ヲ作り投與スルニアリ。

同上ノ處方例

沸騰散ノ處方例二三ヲ掲クルコト左ノ如シ。

○處方

十包

○處方

日本藥局方沸騰散

右朝夕一包宛頓服

右二十包ヲ作り與フ

○處方

五包

臨時一包ヲ探リ一碗ノ糖水ニ投シ頓服

緩下沸騰散

○處方

右每朝空腹時一包頓服

沸騰散

五十包

一週間分投與

緩下沸騰散

二十包

右投與用法口授

キニーネ鹽類ノ散劑

キニーネ鹽類特ニ鹽酸キニーネハ屢々散藥トシテ處方セラル、モノナリ而シテ單味ニシテ一回量ノ散劑ナレハ別ニ研磨ヲ要セサレトモ若シ配伍藥又ハ賦形藥アルトキハ先ツ其多量ノモノヲ乳鉢ニ採リ研磨スルノ後主藥即チ「キニーネ鹽ヲ加ヘ輕ク研和シテ混合セシムルニアリ若シ之ニ反スルトキハ乳鉢ノ周壁及乳棒ニ其主藥ヲ附着セシメ爲メニ幾分カ其量ヲ減スルノ恐レアリ例之ハ

○處方

〇・五

Rp. Chinini muratici.

0,5

鹽酸キニーネ

1・〇

Chokoladepulv.

1,0

右混和散劑トナシニ包ナ與フ

M. F. Pulv. tal. Dos. No. II.

S. Ehe Fieber 2 Uhr auf einnal zu nehmen.

用法發熱二時間前ニ頓服スヘシ

此處方ニ從ヘハ先ツ「シヨコラーデアニグラム」ヲ乳鉢ニ採リ能ク粉末トナシタル後鹽酸キニーネ「グラム」ニ加ヘ輕ク研磨シテ二包トナシ投與スルニアリ。

此他キニーネ鹽類ノ處方例ハ左ノ如シ。

○處方

各〇・二五

○處方

1・〇

鹽酸キニーネ

鹽酸キニーネ

薄荷油糖

右混和一包トナシ其十包ヲ作り與フ

右散劑一包トナシ其三包ヲ作り與フ

用法發熱八時間已前ニ其一包ヲ「オブラート」ニ包ミ頓服ス

同上ノ處方例

溫習スヘキキニーネ散處方例

○處方
 鹽酸キニーネ 三・〇
 重炭酸ナトリウム 五・〇
 甘草末 五・〇

右混和散トナシ十包ニ分チ與フ

用法一日三回一包宛

○處方

硫酸キニーネ 〇・一
 苳若越斐斯 〇・〇二
 白糖末 〇・五

右混和散一包トナシ十包ヲ投與

用法毎二時一包

○處方
 硫酸キニーネ 〇・二
 オピエウム末 〇・〇六
 白糖末 〇・三

右混和散トナシ同量六包ヲ作り與フ

用法一日三回一包宛

○處方

鹽酸キニーネ 三・〇
 白糖 四・〇

右混和五包ニ分チ發熱時二時間前ニ一包ヲ頓服
 五回分投與

揮發油散劑

揮發油類ヲ散劑トシテ處方セラル、トキハ通常之ヲ白糖ニ混和シ製スルヲ例トス之ヲ油糖 *Eleosaccharum*. ト云フ日本藥局方ノ規定ニ據レハ白糖五十分ノ中ニ揮發油一グラムニ混和シタルモノナリ總テ油糖劑ハ臨時 *Extempore*. ニ製スヘキモノニシテ多量ニ豫製シ置クハ不可ナリ今少量ノ油糖ヲ製スルノ必要アルトキハ白糖二・〇グラムニ對シ揮發油一滴ヲ加ヘ製スベシ通常屢々處方セラル、油糖劑ハ左ノ如シ。

遏泥子油糖 *Eleosaccharum Anisi*.

常用油糖劑

橙皮油糖 *Eleosaccharum Aurantii*.

枸橼油糖 *Eleosaccharum Citri*.

茴香油糖 *Eleosaccharum foeniculi*.

薄荷油糖 *Eleosaccharum menthae piperitae*.

總テ揮發油ヲ配伍スル散劑ハ巴拉賓紙ヲ以テ被包シ且ツ廣口硝子瓶ニ入レ投與スルヲ要ス例令ハ

○處方

炭酸マグネシウム 五・〇
 大黃末 一五・〇
 茴香油糖 三・〇

右混和爲散六包

用法一日三回宛

Rp.

Magnesia carbonici 3,0
 Pulv. Rad. Rhei. 1,5
 Eleosacchari foeniculi, 3,0

M. F. Pulv. tal. dos. No. VI.
 D. S.

同上ノ處方例

同上ノ製法

マグネシウム鹽
 ノ散劑

右ノ散劑ヲ製スルニハ先ツ大黃末一グラム半ヲ適宜ノ乳鉢ニ探リ之ニ茴香油糖三グラムニテ加ヘ研磨シテ能ク混合セシメ尙ホ研磨シツ、炭酸マグネシウム五グラムニテ少量宛漸々ニ加ヘ充分密相セシムルノ後之ヲ平等ニ六分シ、バラ賓紙ヲ以テ包ミ用法ヲ明記シ投與スルニアリ。

炭酸マグネシウム及煨製マグネシウムハ其質輕鬆ニシテ其容積大ナルヲ以テ之レヲ散劑トシテ他藥ト混和セントスルニハ頗ル困難ナルコトアリ然ル場合ニ於テハ先ツ各藥

樟腦散劑

ヲ別々ニ研磨細粉トナシ之ヲ大ナル滑澤紙上ニ於テ能ク匙ヲ以テ混合シ然ル後之レヲ大乳鉢内ニ採リ再ヒ研和混合セシムルヲ良法トスルコトアリ。

樟腦 Camphor. モ亦屢々散劑トシテ應用セラル、モノナレバ常ニ之ヲ粉末トシテ密閉瓶ニ貯蓄セサル可カラス今之レヲ細末トナスニハ樟腦乳劑ノ條ニ述ヘタルカ如ク先ツ之ニ無水酒精若クハ「エーテル」ノ少量ヲ加ヘテ濕潤セシメ直ニ輕ク研磨スヘシ若シ強カヲ加ヘテ研壓スルトキハ乳鉢ニ固着シ容易ニ粉末トナシ難キコトアリ 其他樹脂性ノ物質例令ハ「ヤラッパ脂、瘡瘡木脂等」ヲ粉末トナスニモ亦此法ヲ用ヒ且ツ強ク研壓セサル様注意スベシ。

樟腦散ノ處方例左ノ如シ。

○處方

同上ノ處方例

樟腦 〇・六
乳糖 三・〇

右混和爲散六包投與
用法一日三回一包宛服用

同上ノ製法

右ノ散劑ヲ製スルニハ先ツ賦形藥ナル乳糖ノ三グラムレヲ秤量シ其半量ヲ適宜ノ乳鉢ニ採リ研磨スルノ後カンフル末六デチグラムレヲ加ヘ輕ク研磨シ然ル後殘半量ノ賦形藥ヲ加ヘ尙ホ研磨シ充分混和スルノ後之レヲ六包ニ分割シ巴拉質紙ニ包ミ其用法ヲ明記シテ投與スルニアリ若シ「カンフル末」貯蓄ナキトキハ先ツ前ニ記スル法ニ從テ凡ソ一ゲラ

Rp.

Camphoritic. 0,6
Sacchari lactici. 3,0
D. S.

温習スヘキ樟腦散ノ處方例

ムレノ「カンフル末」製シ之ヨリ六デチグラムレヲ採ルヘシ若シ初メヨリ處方ノ量ヲ探テ粉末トナストキハ或ハ多少乳鉢ノ周壁ニ附着シ其量ヲ減少スルノ恐レアレハナリ。

樟腦散ノ屢々處方セラル、實例ハ左ノ如シ。

○處方

樟腦末 〇・一
鹽酸セルヒネ 〇・〇〇五
乳糖 〇・四

右爲散一包
一日六回一包宛

○處方

カンフル 一・〇
アンチピリン 三・〇
乳糖 一・〇

右爲散十包ニ分チ投與
一日五回一包宛

○處方

樟腦 〇・〇二
ペブリン 〇・〇三
白糖 〇・二

右一包トナシ六包ヲ與フ
用法一日三回一包宛

○處方

樟腦末 〇・一
阿片末 〇・〇三
硝酸カリウム 〇・三
乳糖 一・〇〇

右爲散一包臨臥頓服

○處方

樟腦末 各五・〇
沒藥末 各一・〇〇
褐色キナ皮末 各一・〇〇
カミルレ花末 二・〇〇

右混和細末トナシ投與
用法口授

○處方

樟腦 〇・一五
白糖 〇・五

右一包トナシ十二包投與
用法一日六回一包宛

麝香ノ散劑

麝香ハ強ク乾燥セシムルコト能ハサルカ故ニ充分ナル粉末トナシ難シ然レトモ之ヲ乳糖末ト共ニ研磨スルトキハ稍細粉シ易シ而シテ通常麝香散ノ調劑ハ至急ヲ要スル場合多キカ故ニ豫メ麝香糖ヲ調製シ置クヲ便トス之ヲ製スルニハ乳糖一分ヲ乳鉢ニ取り之ニ毛及膜片ヲ除去セル麝香一分ヲ加ヘテ研磨篩過シ其殘渣ニ尙乳糖一分ヲ加ヘ再ヒ研磨篩過シテ密閉瓶中ニ貯フヘシ此散ハ三倍用ト明記シ置ク可シ其處方例ハ左ノ如シ。

○處方

麝香

各一〇

片膜

顯草末

一〇〇

乳糖

適宜

右散五包ニ分チ與フ
用法毎二時一包宛

○處方

樟腦

〇〇五

麝香

〇一五

乳糖

〇一五

右混和一包トナシテ其五包ヲ作り與フ

○處方

カンフル

一〇〇

麝香

三〇〇

阿片越幾斯

一〇〇

乳糖

適宜

右散トナシ六包ニ分チ與フ
用法一日一包宛

○處方

麝香

〇〇五

芳香阿片酒

一〇〇

乳糖

四〇〇

右分五包投與

茶劑 (獨) Theegetische.
(英) Herbs.
(佛) Especis.

茶劑 Species.

茶劑 Species. ハ稀レニ處方セララル、製劑ニシテ多クハ劇毒性ヲ有セサル草根木皮葉花種子等ノ到切シタル者ヨリ成ル故ニ又之ヲ到劑ト云フ今日本藥局方ノ茶劑製法ヲ舉クレハ左ノ如シ。

茶劑ヲ製スルニハ之ニ供スル藥物ヲ到截シ削割シ又ハ搗碎シ成ルヘク均等ノ小片トナシ細粉ヲ去リ混和スベシ浸劑又ハ煎劑ニ用フル藥物ハ其成分溶出ノ難易ニ從ヒ細粗ノ度ヲ異ニスヘシ振出ニ用フル茶劑ハ細到截、窹法ニ用フルモノハ粗末トナスヘシ。

通常茶劑ニハ數種ノ藥物ヲ混合シタルモノアリ或ハ單味ノモノアリ又鹽類等ヲ混合スルモノアリ而シテ孰レモ細到ノ儘毎服量ヲ紙片ニ包ミ投與スルカ又ハ其全量ヲ藥袋ニ入レ投與スルモノニシテ患者自ラ浸出又ハ煎出シテ服用スルモノナリ此目的ニ供スル藥物ハ固ヨリ細到片可成均同ナルヲ要シ其一部分粉末トナリ又ハ粗大ナル到片等ヲ混ズベカラズ之レ分割ノ際自然不同一ノ重量ニ依リ毎包同等ノ混合ヲ得難キニ依レハナリ若シ止ヲ得ス不同片ノ藥物ヲ混スル場合ニ於テハ各藥物ヲ毎包別々ニ混合スルヲ要ス今茶劑ノ處方ヲ例示スレハ左ノ如シ。

茶劑一ノ處方

○處方
カミツレ花 八・〇
右細到茶劑トナシ投與
用法口授

Rp.
Floram camomillae. 8,0
C. C. F. Species, S. Nach Bericht.

複雜ノ處方例

之ヲ製スルニハ加密列花八グラムレヲ秤取シ之ヲ細到裁シ藥色紙ニ包ムカ又ハ麻布製小袋ニ容レ用法ヲ口授シテ投與スルニアリ。

○處方
センナ葉 各一〇・〇
鼠李皮 各一〇・〇
萊根 各一〇・〇
右混和茶劑トナシ投與

Rp.
Foliorum sennae.
Corticis franglae.
Radidis graminis. aa. 10,0
C. C. M. F. Species, S.

同上ノ製法

右ノ茶劑ヲ製スルニハ先ツ細到セル「センナ葉、鼠李皮及萊根各十グラム」紙上ニ探リ能ク混攪シ平等ニ混合セシメ之ヲ一回ノ煎劑量乃チ凡ソ四グラム餘ツト分包シ之ヲ七分トシテ投與スヘシ。

○處方
杜松子實 各一五・〇
茴香實 各一五・〇
精良甘草根 各一五・〇
右到劑トナシ投與三回ニ服用

Rp.
Fructus juniperi.
Fructus Foeniculi. aa. 15,0
Radidis Liqueritiae mundatae
C. C. M. F. Species D. S. Auf 3 x Z. N.

右ノ茶劑ヲ製スルニハ搗碎セル杜松子實茴香實及細到セル甘草根各十五グラムレヲ探リ能ク混合シテ之ヲ一回ノ煎劑

溫習スヘキ處方ノ例

料即一五・〇ツ、三包トナシ尙其浸出法ヲ口授シテ投與スヘシ。
其他茶劑ノ處方例二三ヲ舉レハ左ノ如シ。

○處方
龍膽根 二〇・〇
眞姜 各一〇・〇
薄荷葉 各一〇・〇
桂皮 各一〇・〇
右茶劑トシテ投與凡ソ千グラムレノ赤酒ヲ注キ二十四時間溫湯ニ浸出シ一日數回一酒杯宛

○處方
サルサバビルラ根 二五・〇
フランクラ皮 二五・〇
橙皮 一五・〇
センナ葉 一二・〇
右茶劑トシテ投與凡ソ五百グラムレノ水ヲ注キ煎出シ一日三四回半食匙

○處方
蓮草根 五・〇
メリツサ葉 二五・〇
右茶劑トシテ投與凡ソ五百グラムレノ水ヲ以テ數時間冷處ニ浸出シ一日數回半食匙宛

○處方 (苦味茶劑)
アアシント草 各二五・〇
トリホリー葉 各二五・〇
ゲンチアナ根 各二五・〇
右茶劑トシテ投與凡ソ三合ノ水ヲ以テ煎出シ每食後一食匙宛

緩下茶劑

セントゲルマイ
緩下茶劑

緩下茶劑 Species Laxantes. ハ屢々應用セラル、モノニシテ日本藥局方ノ規定ニ據レハ到切センナ葉一六〇・〇接骨木花一〇〇・〇搗碎茴香及アニス各五〇・〇酒石酸カリウム二五・〇酒石酸一五・〇ヲ探リ先ツ五十分ノ水ヲ以テ酒石酸カリウムレヲ溶解シ此液ヲ以テ茴香及アニス實ヲ均等ニ濡ホシ半時間放置シタル後又十五分ノ蒸餾水ヲ以テ溶解シタル酒石酸ノ液中ニ之ヲ浸漬シ然ル後之ヲ乾燥セシメ他ノ物質ト混合スルニアリ又緩下茶劑ノ一種ニシテ Species Laxantes St. Germain. ト稱スルモノアリ此製劑ハ前以テ酒精中ニ浸漬シタル「センナ葉」ヲ用ユルヲ以テ前劑ト異ナリ

(獨) Pillen.
(英) Pills.
(佛) Pilules.

丸劑ノ總義

之レ「センナ葉中ノ不要成分ヲ除去スルノ目的ナリ」

丸劑 Pillsae.

凡ソ丸劑ハ不快ノ臭味ヲ有スル藥物若クハ他ノ製劑トナストキハ其服用ニ困難ナルモ
ノ或ハ患者ノ他ノ製劑ヲ嫌忌スル等ノ場合ニ於テ容易ク之ヲ服用セシムルノ目的ヲ以
テ屢々處方セラル、モノナリ其形狀ハ球形ニシテ其重量ハ通常一デチグラム乃至一デ
チグラム半ヲ以テ其嚥下ニ適當ノモノト定ム總テ丸劑ハ正圓滑澤ニシテ各丸ノ大サニ
不同ナク柔軟ナラズ硬固ナラス又各粒交互ニ附着セサルノ性質ヲ具フルヲ以テ良トス

而シテ近時丸劑ヲ繁用スルノ目的ハ之ヲ久時貯蓄スルモ
其變性ヲ來スコト他ノ諸製劑ニ比シテ最モ少ナク且ツ遠
路ノ地ニ携帶スルニ最モ便宜ナルヲ以テナリ。

通常丸劑調製ノ用ニ供スベキ乳鉢ハ總論ニ掲ケタル如ク
鐵製乳鉢ヲ用ユベシト雖トモ金屬ニ逢フテ分解スヘキモ
ノ例令ハ硝酸銀、醋酸鉛、昇汞等ノ如キハ磁製ノモノヲ用
ヒサルベカラス且ツ之ニ用ユル筥モ亦角製或ハ木製ノモ

第六十四圖



丸劑ノ調製ニ必
要ナル器具

截丸器

截丸器ノ造構

ノヲ要スヘシ。

截丸器ハ丸劑塊ヲ截切シ丸粒ト爲スノ器具ニシテ第六十四圖ハ之ヲ調劑机上ニ安置シ
タル様ヲ示スモノナリ而シテ其截切部ハ通常鐵製或ハ黃銅製ナレトモ之ニ觸レテ變質
スルモノ、如キハ角製木製或ハ硝子製ノモノヲ選用スヘシ。

截丸器ノ造構ハ其表裏ニ於テ互ニ並行セル半管狀ノ各同一ナル溝窩ヲ有スル上下二個
ノ金屬板ヨリ成ル其各溝ハ互ニ相接近スルヲ以テ中隔自ラ銳及ヲナセリ而シテ溝ノ大
サハ其表面ノモノハ裏面ノモノヨリ大ナリ而シテ此二板ノ一ハ常ニ截丸器ノ木製板上
ニ架置シ容易ニ嵌入シ或ハ取除シ得ヘク裝置セリ又他ノ一ハ其兩端ニ把柄ヲ有シ兩側
ノ凸出セル緣廓ニ依テ木製板ニ嵌入セルモノト正ニ適合スル如ク構造シタルモノナリ
今其兩板ノ各表面若クハ各裏面ヲ適合セシムレハ溝窩二個合シテ恰モ全管ノ形ヲナス
ヘシ而シテ其兩面ニ穿テタル大小ノ溝窩ハ丸子ノ大小ニ據リ適當ノ方面ヲ使用スルニ適
スルモノナリ通常其數ハ表裏共ニ三十ノ線條ヲ有セリ又其木製板ハ堅硬緻密ノ性質ヲ
要シ且ツ屢々洗滌ヲ要スル者ナレハ之ニ因リ變形ヲ生セサル木質ヲ撰ハサル可カラズ
又其木板ノ先端ニハ自由ニ嵌除シ得ヘキ皿狀ノ凹池ヲ設ケ截切シタル丸子ヲ之ニ受容
セシム又木板ノ後端ニハ其下面ニ突出シタル邊縁ヲ有シ之ニ據リ截丸器ヲ調劑机上ニ

展延板

截丸器ノ使用法

成丸器



圖五十六第

定置セシムルヲ得ヘシ。
截丸器ニ附屬スル器具ニシテ展延板ト稱スルモノアリ之レ乳鉢内ニ捏合シタル丸劑塊ヲ展延シテ圓柱形ト爲スニ用ユルモノニシテ兩端ニ把柄ヲ有スル長キ平板ナルアリ或ハ五寸方許ノ平板ニシテ上面ニ把手ヲ有スルモノアリ其實用ニ於テハ孰レモ同一ナリ。

截丸器ヲ使用スルニハ先ツ第六十五圖ノ如キ展延板ヲ以テ其丸劑塊ヲ適當ノ長サニ展延シ之ヲ截丸器ノ溝上ニ上セ他ノ有溝板ヲ以テ輕ク之ヲ前後ニ回轉スルコト四五回ニシテ前方ノ皿形凹部ニ推進スルニアリ之ニ據テ直ニ良好ノ丸子ヲ製出スルニハ稍々熟練ヲ要スベシト雖トモ初メ丸劑塊ノ捏合及丸劑柱ノ展延等其適度ヲ得ルニ至レハ之ヲ截切スルハ容易ナルヘシ其他尙ホ截丸器ノ附屬ニシテ成丸器又轉丸器ト名クルモノアリ此ノ器ハ一個ノ有緣圓盤ト把手ヲ有スル有緣圓蓋ヨリ成ル即チ第六十六圖ノ如シ此器ハ截丸器ニ據テ截切セラレタル不正圓ノ丸子ヲ更ニ正圓滑澤トナスニ供用スルモノニシテ是レ亦

丸劑一般ノ調製法

圖六十六第



屢洗滌スルモノナレハ最モ堅質ノモノタルヲ要ス其直徑ハ凡ソ三四寸許ニシテ其蓋ハ凡ソ盤ノ二分ノ一許ノ直徑ヲ有スルモノヲ適當トシ其邊緣ノ深サハ丸子ノ大小ニ依テ異ナレトモ一分乃至一分五厘許ノモノヲ適當トナスヘシ。

日本藥局方ニ規定セラル、丸劑ノ製法ハ左ノ如シ「丸劑ヲ製スルニハ最モ親密ニ其諸成分ヲ混和スヘシ賦形藥ニハ通例甘草越幾斯及甘草末ヲ用ヒ捏合シテ適宜ノ丸劑塊トスヘシ」丸子ハ其大サ均等ナルヲ要シ一丸ノ重量ハ特別ニ記載スルモノ外ハ約〇・一グラムナルヘシ丸衣ニハ通例石松子末又ハ甘草細末ヲ用フベシ。

右ノ規定ニ從ヒ丸劑ヲ製スル一般ノ順序ハ先ツ處方ニ從テ所要ノ乳鉢及之ニ必要ナル諸藥品ヲ集メ次ニ少量ノ藥物ヨリ秤取シ先ツ賦形藥ノ少量ヲ乳鉢ニ採リ研磨シタル後其主藥ヲ加ヘ輕ク研和シ然ル後殘餘ノ賦形藥ヲ附加シテ尙ホ研磨シ能ク混和セシメ次ニ結合藥例ハ「ゴム漿又ハ「グリセリン水ヲ少許宛附加シテ能ク捏合シ再三乳鉢及乳棒ノ上部ニ附着シタル者ヲ筥ヲ以テ剝除シツ、反覆シテ適當ノ丸劑稠度ニ至ラシム而シテ今截切ニ適當ノ稠度ト認ムルトキハ先ツ其全塊ヲ適宜ノ

剛塊トナシ其全量ヲ秤量シ之レヨリ截丸器ノ分割數及一丸ノ重量トニ從テ一箇ノ丸劑柱トナスヘキ小塊ニ分割スルニアリ例之ハ今團塊ノ全量ヲ三十グラムトシ一丸ノ重量一デチグラムトシノモノ三百丸ヲ要スルトシ截丸器ノ溝數ヲ三十トスルトキハ其小塊一箇ノ重量ハ三グラムトナルベシ故ニ其全塊ヲ十分シテ十箇ノ小塊トナシ其各箇ヲ截丸器ノ木板上ニ採リ石松子末又ハ甘草末ヲ撒布シ展延板ヲ以テ均等ニ轉延シ其溝窩全列ノ長サニ一致スル丸劑柱ヲ製シ之ヲ截丸器ニ上セ輕ク回轉シ截切シテ三十九トナスニアリ。

丸劑塊ノ適稠度
ヲ知ル法

丸劑塊ノ適當ナル稠度ヲ知ルニハ乳鉢内ニ於テ捏合スル際其乳棒ヲ擧ケレハ全塊悉ク其末端ニ附着シテ乳鉢ト空シカラシムルノ時ナリ或ハ其塊ノ一分ヲ指間ニ試験シテ其適度ヲ認知スルニアリ而シテ丸劑塊ノ此度ニ至ラサルハ未タ捏合ノ足ラサルカ或ハ結合藥ノ附加其適量ヲ得サルニ因ルヘシ。

丸劑ノ衣

丸子ニハ引濕性ヲ有セサル外被ヲ被包セシメサルヘカラス何トナレハ新製シタル丸子ニハ此外包ヲ附シテ交互ノ粘着ヲ防クノ要アレハナリ之ヲ丸衣 *Coat* 云フ從來用ヒ來レル丸衣ハ金銀箔、膠、バルサム若クハ濃稠ゴム漿或ハ砂糖等ナリ然レトモ近來特別ノ場合ヲ除クノ外通常此種ノ丸衣ヲ臨時製造ノ丸劑ニ用ユルコト甚ダ稀ナリ蓋シ丸衣ノ目的ハ丸子交互ノ粘着ヲ防キ且ツ不快ノ臭味ヲ掩蔽スルニアレトモ是等ノ丸衣ハ其外見美麗ナルニモ拘ハラズ其實用ニ至テハ植物粉末ニ異ナルコトナク且ツ其價

丸劑ノ丸子數

高貴ナルノミナラス之ヲ衣スルニ頗ル手数ヲ要スルノ嫌アレハナリ故ニ通例常用スル所ノ衣料粉末ハ石松子末若クハ甘草末ニシテ稀ニ柱皮末、カタクリ澱粉、イリス根末等ヲ用ユルコトアリ。

凡ソ丸劑ノ丸子數ハ處方箋上ニ指示スルコトアリ或ハ單ニ藥品ノ量ノミヲ記シテ其丸劑數ハ藥劑師ノ隨意ニ任カスコトアリ而シテ前記ノ二十五乃至三十溝ヲ有スル截丸器ヲ以テ分割スルカ故ニ之ニ適應スル一定ノ丸劑塊ヲ作ラサル可カラス而シテ其製出スル丸劑ノ數ニ依リ或ハ二十五溝ヲ便宜トシ或ハ三十溝ヲ適當トナスコトアリ是ヲ以テ二種ノ截丸器ヲ具フルハ頗ル便利ナルカ如シト雖トモ實用上此兩種ヲ具フルノ必用ナシ何トナレハ三十溝ノ器ヲ以テ二十五溝ノ數ニ適スル丸子ヲ截切スルヲ得ヘケレハナリ然ルトキハ餘ル五溝ニ符標ヲ付シ其不用ノ部分ヲ表示スルヲ要ス例之ハ十グラムトシ丸劑塊ヲ百粒ノ丸子ニ分割スル場合ニ於テハ即チ二十五溝ヲ使トス然ルトキハ先ツ全塊ヲ四個ノ小塊ニ分別シ其各個ヲ二十五溝ニ對應スベキ長サノ丸劑柱ニ展延シテ截切スルニアリ初メ其不用溝ニハ石松子末若クハ甘草末ヲ撒布シテ其必用溝ト區別シ置クヘシ又之ニ反シ十二グラムトシ丸劑塊ヲ百二十溝ニ分割セントスルトキハ即チ三十溝ヲ有スル截丸器ヲ使トスヘシ此場合ニ於テハ其全塊ヲ先ツ四個ノ小塊ニ分チ其各個ヲ三

丸子數及其重量
ヲ知ル法

十溝ニ對應スル柱形トナシ之ヲ三十粒ニ截切スルニアリ。
今若シ一定量ノ丸劑塊ヲ以テ一定量ノ丸子ヲ作ラントスル場合ニ於テ其丸子數ヲ知ラ
ント欲スルカ或ハ一定量ノ丸劑塊ヲ以テ一定數ノ丸子ヲ作ラントスル場合ニ於テ其
丸子ノ重量ヲ知ラント欲セハ左ノ算式ヲ用ユヘシ。

$$P = \frac{M}{G} \quad \text{或ハ} \quad G = \frac{M}{P}$$

$\frac{P}{M}$ ハ丸子數
 $\frac{M}{G}$ ハ丸劑塊ノ量

適當ノ丸子量

今十グラムノ丸劑塊ヲ以テ一丸ノ量一デチグラムノ丸子ヲ作ラント欲スルトキハ
 $P = \frac{M}{G} = \frac{10.0}{0.1} = 100$ 即チ其丸數ハ百粒トナルベシ又十二グラムノ丸劑塊ヲ以テ百
二十粒ノ丸子ヲ作ラント欲セハ $G = \frac{M}{P} = \frac{12.0}{200} + 0.1$ 即チ一丸ノ重量一デチグラム
トナルベシ若シ丸劑ニシテ單ニ主藥ノミノ量ヲ記シ其賦形藥ノ如キハ適宜ノ量ヲ以テ
若干粒ニ製スベキ場合ニ於テハ其丸ノ重量ハ大約〇・一グラムヲ標準トナシ可成此
量ニ過不及ナラサル様注意スベシ然レトモ小兒或ハ其他ノ場合ニ於テ特別ノ丸子ヲ要
スルカ若クハ醫師ヨリ殊更ニ一丸ノ重量ヲ指示シタル場合ニ於テハ其丸子ノ重量ハ
或ハ〇・〇五グラムノ少量ヨリ〇・二グラム迄ノ大量ニ達スルコトアリ然ルトキハ例外
トシテ之ヲ調製セサルベカラズ今斯ノ如ク數種ノ丸劑ヲ製スルニ當リ一々其分割數ヲ

丸劑分割表ノ使
用法

計算スルハ頗ル煩雜ナルカ故ニ調劑類繁ナル藥局ニ於テハ左ニ示スカ如キ丸劑分割表
ヲ製シ之ヲ調劑室ノ或ル見易キ場處ニ掲ケ置キ日常ノ所用ニ供スルコトアリ。

此表ヲ使用スルニハ先ツ丸劑塊ノ重量ト記セル欄下ニ指示セル數量ト今製丸セントスル丸劑塊ノ重量トヲ比照シ
テ其一致スル處ノ階段ニ於テ其丸粒ノ大サヲ指示スル欄下ト直角ニ相逢フ處ノ數ヲ以テ丸子數ヲ定ムルニアリ例
ハハ今製丸セントスル丸劑塊ノ重量ヲ五グラムトスルトキハ丸劑塊重量ノ欄下第七段目ニ相當スルヲ以テ今一
丸ノ大サチ一デチグラムノモノトサトキハ上欄ノ一丸ノ重量〇・一五ト云フ處チ下方ニ七段降リ右重量ノ七段目
ト直角ニ相逢フ處ハ即チ五十ナリ之レチ其丸子數トナス又一丸ノ量ヲ〇・一五トナサントスルトキハ三十三粒ト
ナシ〇・一二トナサントハ四十二粒トナスカ如此表ハ丸劑塊ノ二グラムヨリ六グラムマテノ分割數ヲ示シ
タレトモ其以上ノ丸劑塊ノ分割數ヲ知ラント欲セハ此表ノ二數又ハ三數ヲ合併シテ容易ニ其粒數ヲ知り得ベシ例
之ハ七十グラムノ塊ヲ以テ〇・一ノモノヲ裁丸セントスルニハ先ツ六十グラムノ處ニ於テ六百粒ヲ求メ又十グ
ラムノ處ニ於テ百粒ヲ求メ其兩方ヲ合併シ七百粒トナスカ如シ又七十五グラムノ塊ヲ以テ〇・一五ノモノヲ裁
丸セントスルトキハ先ツ六十グラムノ處ニ於テ四百粒ヲ求メ又十五グラムノ處ニ於テ百粒ヲ求メ之レチ合併
シテ五百粒トナスカ如此表ヲ知ルベシ又此表ノ全部ヲ採用セサルモ其一二必要ノ欄ノミヲ摘取スルモ可ナ
リ。

丸劑ノ分割表

丸劑塊ノ重量	(一 氏)			(二 氏)			(三 氏)		
	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量
0,05	0,06	0,0625	0,1	0,12	0,125	0,15	0,1875	0,2	
グラム	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒
11,5 =	230 =	191 =	184 =	115 =	95 =	92 =	76 =	61 =	57 =
12,0 =	240 =	200 =	192 =	120 =	100 =	99 =	80 =	64 =	60 =
12,5 =	250 =	208 =	200 =	125 =	104 =	100 =	83 =	66 =	62 =
13,0 =	260 =	216 =	208 =	130 =	108 =	104 =	86 =	69 =	65 =
13,5 =	270 =	225 =	216 =	135 =	112 =	108 =	90 =	72 =	67 =
14,0 =	280 =	233 =	224 =	140 =	116 =	112 =	93 =	74 =	70 =
14,5 =	290 =	241 =	232 =	145 =	120 =	116 =	96 =	77 =	72 =
15,0 =	300 =	250 =	240 =	150 =	125 =	120 =	100 =	80 =	75 =
15,5 =	310 =	258 =	248 =	155 =	129 =	124 =	103 =	82 =	77 =
16,0 =	320 =	266 =	256 =	160 =	133 =	128 =	106 =	85 =	80 =
16,5 =	330 =	275 =	264 =	165 =	137 =	132 =	110 =	88 =	82 =
17,0 =	340 =	283 =	272 =	170 =	141 =	136 =	113 =	90 =	85 =
17,5 =	350 =	291 =	280 =	175 =	145 =	140 =	116 =	93 =	87 =
18,0 =	360 =	300 =	288 =	180 =	150 =	144 =	120 =	96 =	90 =
19,0 =	380 =	316 =	304 =	190 =	158 =	152 =	126 =	101 =	95 =
20,0 =	400 =	333 =	320 =	200 =	166 =	160 =	133 =	106 =	100 =
21,0 =	420 =	350 =	336 =	210 =	175 =	168 =	140 =	112 =	105 =
22,0 =	440 =	366 =	352 =	220 =	183 =	176 =	146 =	117 =	110 =
23,0 =	460 =	383 =	368 =	230 =	191 =	184 =	153 =	122 =	115 =

各論
丸劑

丸劑ノ分割表

丸劑塊ノ重量	(一 氏)			(二 氏)			(三 氏)		
	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量
0,05	0,06	0,0625	0,1	0,12	0,125	0,15	0,1875	0,2	
グラム	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒
2,0 =	40 =	33 =	32 =	20 =	16 =	16 =	13 =	10 =	10 =
2,5 =	50 =	41 =	40 =	25 =	20 =	20 =	16 =	13 =	12 =
3,0 =	60 =	50 =	48 =	30 =	25 =	24 =	20 =	16 =	15 =
3,5 =	70 =	58 =	56 =	35 =	29 =	28 =	23 =	18 =	17 =
4,0 =	80 =	66 =	64 =	40 =	33 =	32 =	26 =	21 =	20 =
4,5 =	90 =	75 =	72 =	45 =	37 =	36 =	30 =	24 =	22 =
5,0 =	100 =	83 =	80 =	50 =	42 =	40 =	33 =	26 =	25 =
5,5 =	110 =	91 =	88 =	55 =	45 =	44 =	36 =	29 =	27 =
6,0 =	120 =	100 =	96 =	60 =	50 =	48 =	40 =	32 =	30 =
6,5 =	130 =	108 =	104 =	65 =	54 =	52 =	43 =	34 =	32 =
7,0 =	140 =	116 =	112 =	70 =	58 =	56 =	46 =	37 =	35 =
7,5 =	150 =	125 =	120 =	75 =	63 =	60 =	50 =	40 =	37 =
8,0 =	160 =	133 =	128 =	80 =	66 =	64 =	53 =	42 =	40 =
8,5 =	170 =	141 =	136 =	85 =	70 =	68 =	56 =	45 =	42 =
9,0 =	180 =	150 =	144 =	90 =	75 =	72 =	60 =	48 =	45 =
9,5 =	190 =	158 =	152 =	95 =	79 =	76 =	63 =	50 =	47 =
10,0 =	200 =	166 =	160 =	100 =	83 =	80 =	66 =	53 =	50 =
10,5 =	210 =	175 =	168 =	105 =	87 =	84 =	70 =	56 =	52 =
11,0 =	220 =	183 =	176 =	110 =	91 =	88 =	73 =	58 =	55 =

各論
丸劑

丸劑ノ分割表

丸劑塊ノ重量	(一 氏)			(二 氏)			(三 氏)		
	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量
	0,05	0,06	0,0625	0,1	0,12	0,125	0,15	0,1875	0,2
グラム	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒
43,0 =	860 =	716 =	688 =	430 =	358 =	344 =	286 =	229 =	215 =
44,0 =	880 =	733 =	704 =	440 =	366 =	352 =	293 =	234 =	220 =
45,0 =	900 =	750 =	720 =	450 =	375 =	360 =	300 =	240 =	225 =
46,0 =	920 =	766 =	736 =	460 =	383 =	368 =	306 =	245 =	230 =
47,0 =	940 =	783 =	752 =	470 =	391 =	376 =	313 =	250 =	235 =
48,0 =	960 =	800 =	768 =	480 =	400 =	384 =	320 =	256 =	240 =
49,0 =	980 =	816 =	784 =	490 =	408 =	392 =	326 =	261 =	245 =
50,0 =	1000 =	833 =	800 =	500 =	416 =	400 =	333 =	266 =	250 =
51,0 =	1020 =	850 =	816 =	510 =	425 =	408 =	340 =	272 =	255 =
52,0 =	1040 =	866 =	832 =	520 =	433 =	416 =	346 =	277 =	290 =
53,0 =	1060 =	883 =	848 =	530 =	441 =	424 =	353 =	283 =	265 =
54,0 =	1080 =	900 =	864 =	540 =	450 =	432 =	360 =	288 =	270 =
55,0 =	1100 =	916 =	880 =	550 =	458 =	440 =	366 =	293 =	275 =
56,0 =	1120 =	933 =	896 =	560 =	466 =	448 =	373 =	298 =	280 =
57,0 =	1140 =	950 =	912 =	570 =	475 =	456 =	380 =	304 =	285 =
58,0 =	1160 =	966 =	928 =	580 =	483 =	464 =	386 =	309 =	290 =
59,0 =	1180 =	983 =	944 =	590 =	491 =	472 =	393 =	314 =	295 =
60,0 =	1200 =	1000 =	960 =	600 =	500 =	480 =	400 =	320 =	300 =

各論
丸劑

丸劑ノ分割表

丸劑塊ノ重量	(一 氏)			(二 氏)			(三 氏)		
	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量	一丸ノ量
	0,05	0,06	0,0625	0,1	0,12	0,125	0,15	0,1875	0,2
グラム	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒	粒
24,0 =	480 =	400 =	384 =	240 =	200 =	192 =	160 =	128 =	120 =
25,0 =	500 =	416 =	400 =	250 =	208 =	200 =	166 =	133 =	125 =
26,0 =	520 =	433 =	416 =	260 =	216 =	208 =	173 =	138 =	130 =
27,0 =	540 =	450 =	432 =	270 =	225 =	216 =	180 =	144 =	135 =
28,0 =	560 =	466 =	448 =	280 =	233 =	224 =	186 =	149 =	140 =
29,0 =	580 =	483 =	464 =	290 =	241 =	232 =	193 =	154 =	145 =
30,0 =	600 =	500 =	480 =	300 =	250 =	240 =	200 =	160 =	150 =
31,0 =	620 =	516 =	496 =	310 =	258 =	248 =	206 =	165 =	155 =
32,0 =	640 =	533 =	512 =	320 =	266 =	256 =	213 =	170 =	160 =
33,0 =	660 =	550 =	528 =	330 =	275 =	264 =	220 =	176 =	165 =
34,0 =	680 =	566 =	544 =	340 =	283 =	272 =	226 =	181 =	170 =
35,0 =	700 =	583 =	560 =	350 =	291 =	280 =	233 =	186 =	175 =
36,0 =	720 =	600 =	576 =	360 =	300 =	288 =	240 =	192 =	180 =
37,0 =	740 =	616 =	592 =	370 =	308 =	296 =	246 =	197 =	185 =
38,0 =	760 =	633 =	608 =	380 =	316 =	304 =	253 =	202 =	190 =
39,0 =	780 =	650 =	624 =	390 =	325 =	312 =	260 =	208 =	195 =
40,0 =	800 =	666 =	640 =	400 =	333 =	320 =	266 =	213 =	200 =
41,0 =	820 =	683 =	656 =	410 =	341 =	328 =	273 =	218 =	205 =
42,0 =	840 =	700 =	672 =	420 =	350 =	336 =	280 =	224 =	210 =

各論
丸劑

丸劑ノ賦形藥

總テ丸劑塊ハ有効ナル主藥ト無効若クハ佐藥ノ効ヲ有スル賦形藥トヨリ成リ其主藥ハ固ヨリ各處方ニ依テ異ナリト雖モ之レニ用ユル賦形藥ハ大概同一ノ物質ヲ用ユルモノナリ通常最モ廣ク此目的ニ供スルモノハ植物性粉末ニシテ就中アルテア根末、甘草根末又麵包心、イリス根末等ナリ其間丸劑塊ノ調製ニ必要ナル物質ハ越幾斯類ニシテ特ニ甘草越幾斯、甘草羔、龍胆越幾斯等ハ屢々供用セラル、モノナリ然レトモ斯ノ如キ有機性賦形藥ニ逢フテ分解スルノ恐レアル藥物例之ハ硝酸銀、過マンガン酸カリウム等ノ丸劑ニ於テハ其賦形藥ニ鑛物性粉末即チ白陶土(アルギルラ)ヲ用フルモノトス。

右ノ如ク丸劑塊ハ主藥ト賦形藥トヨリ成ルト雖トモ更ニ結合藥ト稱スル粘稠物質ヲ加ヘサレバ適當ノ丸劑稠ヲ得ルコト能ハサルモノナリ然レトモ前條ニ記スル賦形藥ニシテ結合藥ノ作用ヲ兼ネタルモノ亦少ナシトセズ例令ハ「アルテア根末、麵包心及越幾斯類等ノ如シ通常結合藥トシテ繁用セラル、モノハ「アラビアゴム、トラガ、ンタ、サレツ、澱粉等ノ濃稠漿、グリセリン、砂糖又ハ水飴等之レナリ通例丸劑塊ノ調製ニ其賦形藥兼結合藥トシテ最モ廣ク稱用セラル、モノハ甘草越幾斯若クハ甘草羔ニシテ其適當ノ稠度ヲ得ルニハ甘草末及甘草羔各等分ヲ採ルニアリ。

總テ粉狀藥物ヲ以テ製スル丸劑塊ノ捏合ニハ必ス少量ノ液體ヲ要スルモノニシテ通常

丸劑ノ結合藥

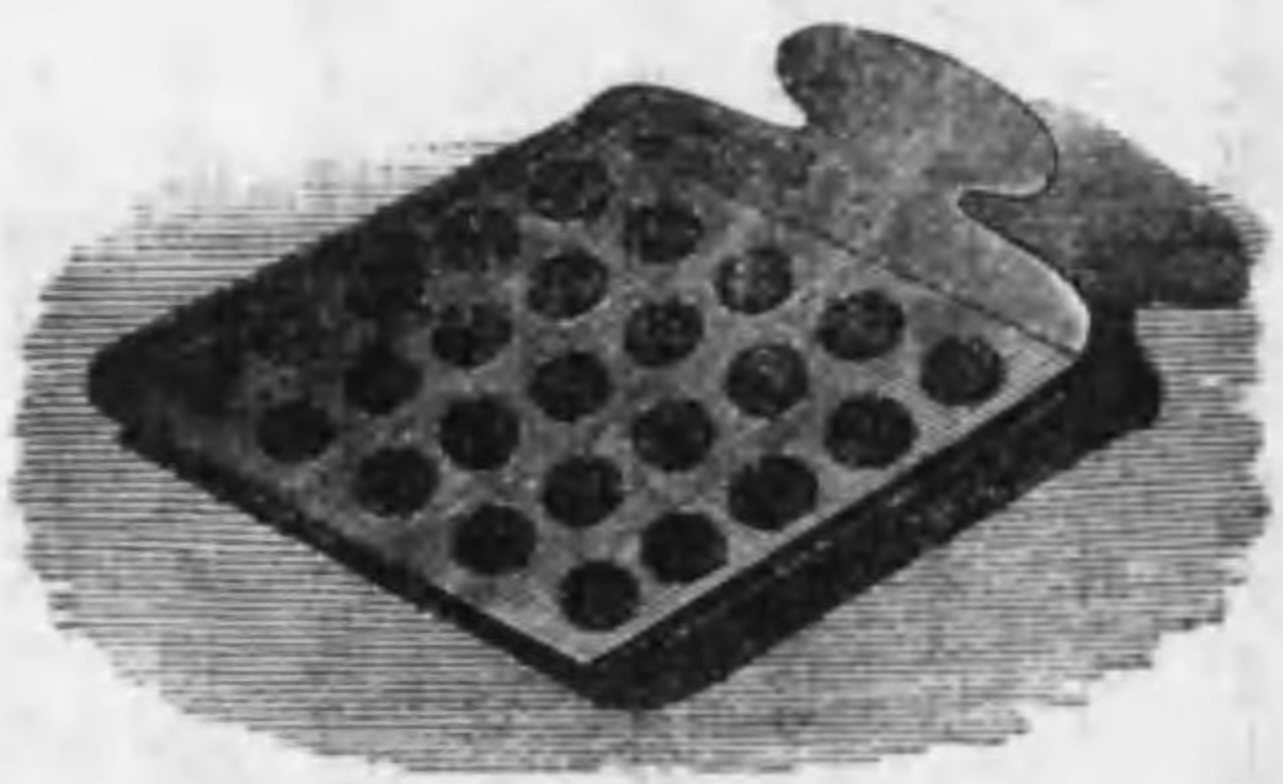
丸劑塊ニ必用ナル粘稠液

一分ノ「グリセリン」ニ二分ノ蒸留水ヲ加ヘタルモノヲ「グリセリン水ト稱シテ此目的ニ供用ス又等分ノ「アラビアゴム末及グリセリン」ヲ混和シテ直ニ液狀結合藥トナスコトアリ茲ニ「グリセリン」ヲ用ユル所以ハ常ニ易溶性ヲ保チ數日ノ後丸劑粒ノ硬固トナルヲ防キ且ツ防腐ノ効アレハナリ然レトモ白陶土ヲ賦形藥トナス場合ニ於テハ單ニ蒸留水ヲ用ユベシ此際液體ヲ滴加スルニハ決シテ過量ニ注加セサル様注意スベシ若シ誤テ過量ニ加ヘタルトキハ已ムヲ得ス賦形末ヲ追加シテ之レヲ適稠トナサ、ルヘカラス然ルトキハ丸劑粒ヲ過大ニスルカ或ハ丸子數ヲ増加スルニアラサレハ調製スルコト克ハサルベシ故ニ丸劑塊ノ捏合ニハ此結合液ノ適量ヲ得ルコト最モ肝要ナリ故ニ今適稠ノ丸劑塊ヲ得ント欲セハ其捏合ノ際之ヲ滴瓶ヨリ點加スルヲ便トス。

丸劑ヲ投與スルニハ先ツ其丸子ノ形狀ヲ損セサル様注意スルヲ要ス例令ハ丸子ノ互ニ附着スルヲ防ク爲メニ充分石松子末若クハ甘草末ヲ其容器ニ撒布シ可及的丸子ノ密接ヲ防クベシ特ニ夏期ニ在ツテハ此注意最モ必要ナリ總テ丸子ヲ取扱フニハ必ス匙ヲ用ユベシ直ニ手指ヲ以テスルハ作法正シキ藥劑師ノ禁忌スベキ事ナリ又丸劑ノ多數ヲ投與スルニ當リ一粒宛計算スルハ頗ル手數ヲ要スルノミナラス或ハ錯誤ヲ生シ易キノ恐レアリ此場合ニハ第六十七圖ノ如キ計算器ヲ用ルヲ便トス此器械ハ黃銅製ニシテ縱橫

越幾斯類ノ丸劑

第七十六圖



共ニ五列ノ凹窩ヲ有スルガ故ニ一回ニ二十五粒ノ丸子ヲ計リ得ベシ又更ニ其凹窩ノ數ヲ縱橫列ニ沿テ増加スレバ尙ホ多數ノ丸子ヲ計算スルコト容易ナルベシ又如斯ク多數ノ丸劑ヲ投與スル場合ニシテ特ニ揮發性藥物ノ丸劑ハ密閉シ得ベキ器ニ容レ投與スルヲ要ス。

越幾斯類ノ丸劑ハ其稠度ニ依テ賦形末ノ量ヲ異ニスベシ例之ハ稀薄越幾斯ナルトキハ凡ソ藥物ニ對スル倍量ノ賦形末ヲ要シ稠厚越幾斯ナレハ凡ソ半量ニシテ足ルヘシ然レトモ若シ處方箋上ニ記載セラル、越幾斯少量ニシテ右ノ比例ニ於ケル賦形藥ヲ加フルモ適當ノ丸子ヲ製スルコト能ハサル場合ニ於テハ尙ホ丸子ノ數ニ對スル適量ノ賦形藥及結合液ヲ加フルノ必要アルヘシ又乾燥越幾斯ヲ以テ製丸スル場合ニ於テハ其越幾斯多量ナレハ單ニ結合液ヲ加ヘテ研磨スルノミニシテ其適稠ヲ得ヘシト雖トモ若シ少量ナルトキハ前例ニ依テ尙適量ノ賦形藥及結合液ヲ附加シテ適當ノ丸子ヲ調製スベシ。

越幾斯ノ種別

日本藥局方ニ依レハ越幾斯劑ハ其稠度ニ從テ左ノ三類ニ區別セリ。

(第一) 稀薄越幾斯 新鮮ナル蜂蜜稠度ヲ有スルモノニシテ所謂流動越幾斯ト稱スルモノ之レナリ。

(第二) 稠厚越幾斯 冷後傾瀉シ能ハサルモ仍ホ扁圓ヲ以テ採取スレハ牽絲スルモノニシテ所謂軟稠越幾斯ト稱スルモノ之レナリ。

(第三) 乾燥越幾斯 全ク乾燥シテ容易ク粉碎スルヲ得ヘキモノ之レナリ。

今越幾斯類ノ處方例及其調製法ヲ舉クレハ左ノ如シ。

○處方

莨菪越幾斯

〇・三

甘草根末

適宜

右六丸トナシ與フ

Rp.
Extracti scopoliae. 0.3
Pulveris Radicis Iiquiritiae. q.s.
M. F. Pill. No VI.
D. S. Täglich 3 mal 1 Pill.

用法一日三回一丸宛

同上調製法

此丸劑ヲ製スルニハ先ツ莨菪越幾斯〇・三グラムヲ精密ニ秤量シ次ニ甘草根末適宜即チ一丸ノ重量ヲ〇・一グラムトスレハ其〇・三グラムヲ採リ凡ソ其中量ヲ丸劑用鐵乳鉢ニ投シ之レヲ研磨シ次ニ前秤量シ置キタル越幾斯ヲ其乳鉢ノ頭部ニ附着セシメ今乳鉢内ニ探レル甘草末ト能ク研和シ次ニ殘餘ノ甘草末ヲ追加シテ仍ホ研磨シ其丸劑稠ヲ得ルニ至ルヘシ若シ硬稠ニ過クレンハ少量ノ結合液ヲ追加シテ研磨シ之ヲ六丸ニ裁切シ二日量トシテ投與スルニアリ。

右ノ方法ニ據テ調製スヘキ丸劑ノ處方例ハ左ノ如シ。

○處方

ゲンチアナ越幾斯

三〇・〇

大黃末

各七・五

ゲンチアナ末

右混和丸トナシ〇・一二五ノ丸子トナシ與フ

○處方

番木鱈越幾斯

五・〇

精製甘草蒸

七・五

甘草末

右混和百丸トナシ與フ
用法毎日一丸ツ、服用

越幾斯丸劑ノ處方例

溫習スヘキ處方例

各論 丸劑

百七十七